

関西北陸ブロック 活動事例集



北陸エリア



京滋・奈良エリア



大阪・兵庫・和歌山エリア

2019

2019年、関西北陸ブロックで
行われた取り組みが満載!

2020年の活動における
ヒントが盛りだくさん!



職員・学生
皆様でご覧ください!

つながる元気、ときめきキャンパス。



Index

ページ	コンテンツ
1	Index / 活動事例集の使い方
3	2019年のふりかえりと 2020年度方針ダイジェスト
4	ありたい姿①とものにつくる 活動事例
23	ありたい姿②安全・安心 活動事例
35	ありたい姿③学びと成長 活動事例
47	ありたい姿④社会に生きる 活動事例
59	事例集「電子版」 / 編集後記

使い方

Point ① 2020年頑張ることをつかむ材料として



各事例の冒頭には取り組みの教訓的なポイントを、末尾には2020年度関西北陸ブロック方針との関係性を記載しています。

ブロック全体として意識していきたいポイントを、エリアフェスティバル後に改めて確認し、2020年に**各生協でどのような取り組みを頑張るか考える材料**として、本事例集を活用してみてください。

Point ② 日ごろの活動を考える材料として



学生委員会での会議や職員会議の場で、「新しい取り組みを始めたいな～」「今やっている活動をレベルアップしたいな～」などの問題意識が出てくることもあるかと思います。

その際に、この事例集を活用してみましょう。「**さまざまな想いと多様な活動があるんだ!**」といった気づきが生まれると思います。取り組みについて、より深く知りたい場合には、**学生事務局に聞く、実際に活動見学に行くなど**、新たな展開ができますね!



各エリアフェスティバルに際して、エリアの教訓的な取り組みを紹介する活動事例集を作成しています。エリアを越えて、**各生協が自発的に取り組みを持ち寄り交流する場**として、本冊子を活用しましょう。



No.	生協名	取り組みの名前	ページ
ありがたい姿①			
01	富山大学生協	ソフトクリーム選手権	5
02	京都大学生協	ぷにたまチャレンジ	6
03	京都大学生協	日本全国ぐるめぐり	7
04	京都大学生協	Shopping Tour	8
05	同志社生協（今出川）	ひとことカードコラボおにぎり総選挙	9
06	立命館生協（衣笠）	総代会アンケートの取り組み	10
07	龍谷大学生協（深草）	Ryukoku Friendship Party	11
08	京都工芸繊維大学生協	総代会関連企画	12
09	京都経済短期大学生協	京都教育大学への店舗見学	13
10	奈良女子大学生協	上級生委員会SUNNY	14
11	奈良県立大学生協	通常総会	15
12	滋賀大学彦根地区生協	七夕祭り	16
13	大阪経済大学生協	ハロウィンイベント	17
14	大阪電気通信大学生協	大山フェア	18
15	大阪教育大学生協	総代会 意見交流会	19
16	和歌山大学消費生協	生協意見交流会と関連した取り組み	20
17	大阪市立大学生協	今日はHey!Say!ビアパーティ	21
18	大阪樟蔭女子大学生協	GAKUCHO企画	22
ありがたい姿②			
19	富山県立大学生協	健康店	24
20	福井大学生協	TAC(Travel Accident Check)	25
21	同志社生協（今出川）	おいでよ、相談の森～KA・RA・DA大丈夫？～	26
22	京都教育大学生協	共済学習会	27
23	奈良女子大学生協	Beauty Health Lab(BHL)	28
24	阪南大学生協	共済祭	29
25	大阪千代田短期大学生協	学生ランチ	30

No.	生協名	取り組みの名前	ページ
26	関西学院大学生協	生協祭・健康フェスタ	31
27	神戸市外国語大学消費生協	初夏の健康チェック	32
28	神戸親和女子大学生協	美のスキルアップ会	33
29	神戸市立工業高等専門学校生協	スポーツ大会での給水活動	34
ありがたい姿③			
30	立命館生協（BKC）	キャリアナビ#1キャリアを学べて友達ゲット	36
31	龍谷大学生協（深草）	あなたも今日で書籍部推し	37
32	龍谷大学生協	新学期活動	38
33	京都橘学園生協	新たちはなさんいらっしゃ～い！2019	39
34	奈良県立大学生協	知っ得！就活相談会	40
35	大阪大学生協	HandaiWalker新入生歓迎号	41
36	和歌山県立医科大学生協	親子で参加する入学準備説明会	42
37	神戸大学生協	書籍推進企画(ほんのよみかた)	43
38	甲南大学生協	出版・出版社にふれる	44
39	神戸市外国語大学消費生協	新入生歓迎セレモニー	45
40	神戸薬科大学生協	合格者・保護者説明会	46
ありがたい姿④			
41	立命館生協（OIC）	選挙企画	48
42	京都府立医科大学・府立大学生協	平和に関する取り組み	49
43	奈良教育大学生協	防災WEEK	50
44	近畿大学生協	ちよつきにボード	51
45	大阪大学生協	リユースマーケット	52
46	大阪教育大学生協	キャップで世界を救うのだ！～投票でポイントゲットだぜ～	53
47	兵庫県立大学生協	#ツタエルハイワ	54
NEWS			
-	ブロック	広報通信①～③	55

2019年のふりかえりと2020年度方針ダイジェスト

より良い生活をともにつくっていく組合員を増やすために…

[2019年度の成果]

- ✓ 組合員の声で運営する意識が高まり、声を聞くツールが多様になってきました。
- ✓ 事前・事後の活動を含め、総会・総代会を「議論する場」にする工夫が増えています。

[2020年度に向けて各生協で考えたいポイント]

- ✓ 組合員が一番大学生協に触れる機会が多いと考えられる「お店」です。大学生協らしいお店とは何かを考えていくと、より多くの組合員参加につながると考えます。
- ✓ 大学コミュニティ、地域コミュニティに目を向け、大学生協組織“だけ”で取り組むのではなく、学内他団体や地域の諸団体とともに取り組むことを視野に入れましょう。

健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすために…

[2019年度の成果]

- ✓ 食堂の利用体験をはじめ新生活への対応をしっかりと行えた生協が多くなりました。
- ✓ 「たすけあい」の想いをベースに4本柱を軸とした共済の取り組みを行えました。

[2020年度に向けて各生協で考えたいポイント]

- ✓ 引き続き、給付事例学習会の重要性についてはブロック全体でも考えたいポイントです。
- ✓ 「実態に即した取り組み」を行うためには何が必要か改めて考え、実感(組織委員の生活実感や職員の日常的な組合員との会話など)から実態(学生生活実態調査や給付事例などのデータから)の両方に目を向けて取り組みを行うことが大切です。

実現に向けて①

組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなできつていきましょう。

実現に向けて②

組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。

実現に向けて③

大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

実現に向けて①

心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。

実現に向けて②

健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにしたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。

実現に向けて③

大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。

なりたい姿に向けて成長し続けて行ける組合員を増やすために…

[2019年度の成果]

- ✓ 4年生や院生・卒業生も関わって新学期の取り組みを作りこむ生協が増えました。
- ✓ キャリア形成支援の取り組みが進みました。

[2020年度に向けて各生協で考えたいポイント]

- ✓ 目的・目標意識を持つことや「なりたい自分」をイメージし生活を振り返ることの大切さをともに学んでいきたいです。なぜ私たちが大学生協の取り組みとして行うのかを学生・職員一緒に考えていきましょう。
- ✓ 新学期の時期の新入生への対応に加えて、年間を通した学生組合員の学びと成長を考えていかなければなりません。組合員の動向を追いつける中で、必要な対応を考えたり、次世代の組合員に向けた取り組みに活かしたりすることが大切になります。

実現に向けて①

組合員の实感と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。

実現に向けて②

学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりがなりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。

実現に向けて③

大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員を増やすために…

[2019年度の成果]

- ✓ SNSや新学期活動、総会・総代会といったアプローチのフィールドの工夫が増えてきています。
- ✓ 行動の提案まで併せて行えた生協が多かったです。

[2020年度に向けて各生協で考えたいポイント]

- ✓ 社会的課題を包括的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて取り組めることを考えていきましょう。
- ✓ 行動提案をした後の組合員に注目し、継続的に組合員が社会に目を向けるにはどのようにすればいいかという視点を持つ必要があります。
- ✓ 大きな課題だからこそ、連帯の場を積極的に活用して取り組みにつなげることが大切です。

実現に向けて①

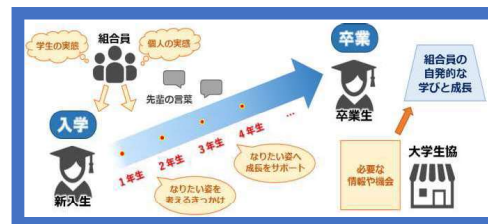
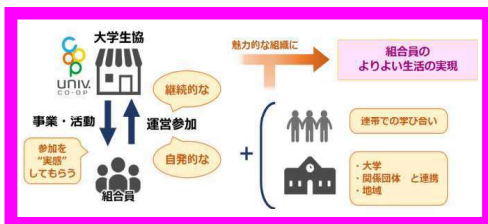
組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。

実現に向けて②

社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。

実現に向けて③

社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。



ありたい姿

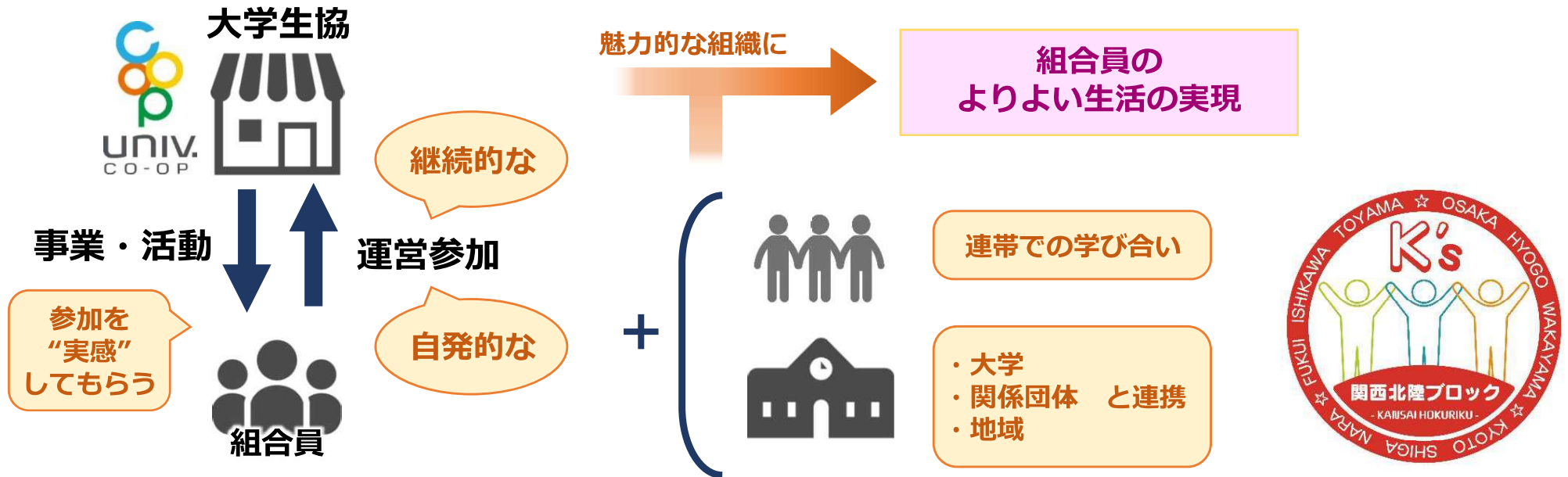
1

「ともにつくる」

大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

実現に向けて

1. 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなで作っていきましょう。
2. 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
3. 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【事例集】
01

富山大学生協五福キャンパス ソフトクリーム選手権

活動の教訓ポイント

店舗の魅力・サービスを伝えるために広報に力を入れ、その広報力を伸ばすために店舗の魅力を活かすといったサイクルが回っている。目的をしっかりと持ち、得られた成果がどう次につながるかが明確になっているため、加えられた「楽しさ」が運営側・参加側の双方から感じられる。



活動概要

【日時】 応募期間：2019/6/28~7/19
投票期間：2019/7/12~7/19
結果発表：2019/7/23~7/31

【場所】 五福キャンパス本店食堂・高岡キャンパス購買

【対象】 ソフトクリームを購入した組合員

【内容】 組合員が作ったソフトクリームを形やデコレーションの美しさや面白さから、組合員に評価し、投票してもらう。各部門の上位者にはソフトクリーム無料券を配布する。37件の応募があり、無料券6枚が配布された。



▲実際に応募されたソフトクリーム

企画背景

<「楽しんで」生協店舗を利用>

ソフトクリームを楽しんで作り、応募されたソフトクリームの形やデコレーションを見ながら自分の気に入ったソフトクリームに楽しんで投票することで、生協や生協店舗に親しみを持ってもらい、今後のさらなる生協利用につながると考え、本企画を実施した。

アピールポイント

<広報に力を>

本企画はポスター掲示を従来よりも増やしたり、Twitterでの発信を活性化したりするなど、広報に力を入れた。また、応募もTwitterを使用した方法となっている。多くの人々が利用しているTwitterはポスターよりも広報力があるため、本企画の参加をより促すことができる。

また、応募のために学生委員会のTwitterをフォローすることで、他の企画の情報も組合員の元に届きやすくなり、さらなる企画への参加を促すことができる。



▲Twitterで発信したソフトクリームの買い方・作り方の説明動画

組合員の反応

<1歩目は「興味を引く」こと>

直接的に組合員に話を聞けたわけではないが、応募数・投票数から多くの組合員の目にとまり、興味を持ってもらえたと感じている。

ただ、目にとまっただけであり参加も投票もしていない組合員もいるはずなので、そのような人たちにも参加してもらえるように改善する必要がある。



▲別企画「GInstagram」での宣伝

内容①

<「作る」という楽しさ>

組合員は生協店舗でソフトクリームを購入し、自分で作る。ソフトクリームを作るというのは意外と難しく、きれいにできればうれしいし、きれいにできなくてもそのユニークな形を楽しむことができる。これにより、普段何気なく生協店舗を利用していた組合員に「利用する楽しさ」を感じてもらえることができる。



▲実際に応募されたソフトクリーム

内容②

<「見る」という楽しさ>

投票するときには、応募されたソフトクリームの写真がずらりと並んだ用紙に、部門別に色分けしたシールを貼るシステムとなっている。多くのソフトクリームを見て、美しいもの、個性的なデコレーションのもの、どうしてそうなったか分からない形をしているものなどを眺め、「楽しさ」を感じることができる。



▲投票の様子

成果

広報に力を入れたこともあり、昨年度に応募数を大きく上回る応募があった。

本企画に参加することにより普段の生活に「楽しさ」を加え、他の企画への参加のきっかけを作ることで組合員のよりよい生活に1歩近づけたと感じている。

課題

37件の応募のうち、高岡キャンパスからの応募はわずか2件だった。学生委員会の活動の中心が五福キャンパスであるが、他キャンパスでも活発に活動できるように工夫する必要がある。

取組みを参考にする上で気をつけること

本企画のような組合員参加型の企画は、その企画に参加してもらうことがゴールではなく、その企画を通してより生協に興味を持ってもらう、他の企画の参加につながるなどの目的があります。本企画でTwitterを使用したように、企画を通してより生協が身近に感じられるような工夫をすることが大切です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総体活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】
富山大学生協同組合
専務理事：松本明男
学生委員会副委員長：村山慧斗
E-mail：giphoto3629@gmail.com

【事例集】

02

京都大学生協 吉田ショップ ぶにたまチャレンジ

活動の教訓ポイント

学生のSNSをきっかけに起きた組合員のブームをいち早くキャッチし、棚づくりにつなげました。ショップの商品を通じて組合員とコミュニケーションが取れています。



活動概要

【日時】2018/11/26～11/30
【場所】京都大学 吉田ショップ
【対象】吉田ショップを利用する全ての組合員

【内容】学生のSNSをきっかけに、大学生協で大人気のぶにたまのブームを組合員の声やSNSから捉え、単品量販を行った。



▲きっかけになった学生のツイート

企画背景

<組合員のブームをSNSや声から捉える>

19時閉店の吉田ショップで16時までには品切れをしてしまう状態が続いていた。展開場所はゴールデンゾーンから大きく外れているのに理由が分からず、また大きく仕入れ数を増やすことに不安を持っていた。学生に聞くと、SNSでぶにたまを買ったという投稿が相次いでいることを知り、しっかり販売する事を計画した。

アピールポイント

<POPは組合員目線で>

大切にしたいことは、組合員目線で考えること。POPには、販売目標数を書くのではなく、「絶対に品切れさせません」と組合員にとってわかりやすい表示にした。

また、そのような表示にした事で、組合員にとっては「いつ品切れるのか!？」と1週間毎日、店舗に来店する事や吉田ショップのTwitterをリツイートするきっかけになったと考える。



▲使用したPOP

組合員の反応

<店頭でもSNSでも話題に>

吉田ショップは京大の中でも1回生が多く使うエリアに位置しているため、11月でもまだ利用した事がない組合員が一定いたようだ。店頭ではそのような組合員が「食べたことない。買ってみよう〜」「食べたことある?美味しいよ」と会話をしている姿を多く見かけた。

SNSには、ぶにたまの写真とともに購入した事を発信する組合員の投稿も多くみかけた。



▲吉田ショップアカウントのツイート



▲展開の様子

内容①

<店舗での商品展開>

デザート棚のゴールデンゾーン3段を取り、おすすめであることを棚割からもわかるようアピールした。アピールポイントでも取り上げたように、POPは分かりやすく、組合員目線を意識した言葉や目に入りやすい色味を使用して作成をした。

内容②

<Twitterの活用>

企画を行うきっかけは学生が発信しているSNSからだった。SNSを利用している学生が多くなっているため、学生の動向はSNSから読み解けることがわかった。

また、組合員自身がTwitterの発信をしていたが、注目度が高い事を考え吉田ショップアカウントでも頻繁に発信をしていた。他のツイートに比べ、リツイートやいいね数も多く、SNSをうまく活用できる事例になった。



▲展開期間中の学生のツイート

成果

1週間で合計1261個の供給点数があった。しかし、1日平均約250個供給できた事が成果ではなく、閉店まで品切れさせることなく、展開ができた。また、組合員の声を知る手段は、「ひとことカード」や「店舗で組合員に声をかける」だけでなく、「SNS」という手段があることが発見できたことも1つの成果だと考える。

課題

今回、吉田ショップのみでの企画に留まったことが課題である。吉田ショップに近い店舗は、供給の流れに影響があったようだが、企画として一緒に行えるとより組合員を巻き込めたと感じる。また、組合員自身が吉田ショップと一緒に企画を行った実感があるのかどうか。反応は良かったが、一緒に行えたかどうか考えることが必要。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みは、「SNSを使った情報収集」ではなく、「組合員の声を店舗に反映する」という事が教訓だと考える。安易にSNSばかりに頼るのではなく、組合員の声をどのように聞くのか常に検討することが必要である。取組みを参考にされる際に店舗によっては、その手段がSNSなのかひとことカードなのか、声掛けなのか考えるきっかけにしていなければならないと思う。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

京都大学生協同組合
専務理事：國見 本部 職員：西川
E-mail : a.nishikawa@s-coop.net



[事例集]

03

京都大学生協 日本全国ぐるめぐり

活動の教訓ポイント

組合員の食堂に関する声を拾い上げ取り組みにつなげました。食堂事業に学生委員が介入して企画を立案し、キャンパス内複数の食堂を舞台に企画を展開。多くの組合員が参加できました。



活動概要

【日時】2019/05/27(月)~2019/06/09(日)
【場所】吉田キャンパス内全食堂
【対象】食堂利用者(全組合員)

【内容】
食堂ごとにご当地フェアを開催した。組合員から募集するアンケートなどを参考にして、提供のご当地メニューを決定した。また、実施期間の前半と後半でフェアを開催する担当地域を食堂間で入れ替えた。



▲企画のロゴと実際の投票用紙

企画背景 <メニューのマンネリ化、日本全国から学生が集まる>

- ・組合員から、食堂のメニューのバリエーションが少ないとの声があがっており、新たなメニューの提供が望まれる。
- ・企画実施時期は春休みから2ヶ月ほど経った頃であり、地元を懐かしむ組合員も少なくないと考えられるためご当地メニューの提供は人気が出るのではないか。

アピールポイント <ラリーの実施>

期間中に各食堂を巡ってレシートを集めていくラリーを開催した。ラリーを制覇した人の中から抽選で豪華景品を進呈した。その景品も応募の際に6つのご当地商品を選ぶようにした。

また、ご当地メニューに関するクイズも出題し、クイズへの解答を条件にWチャンスを選んだ。なお、S-COOPのあらんじえのページにてご当地メニューの紹介を行い、その紹介文を読めばクイズの答えがわかるようにし、学生委員会の知名度の普及にも努めた。



▲ラリーの景品

組合員の反応 <アンケート結果>

【肯定的な意見】

- ・普段は食べられない新鮮なものばかりで、その地域の食文化をさらに詳しく知りたいと思える料理もあった。
- ・レギュラー化してほしい。
- ・普段家や食堂でなかなか食べられないメニューを食べて良かった。

【否定的な意見】

- ・丼・麺のサイズが多かったためMサイズ以外でも提供して欲しかった。



▲ピラによる宣伝活動



▲提供されたメニュー

内容① <食堂での提供メニュー>

メニュー考案前にTwitterを用いて、多くの組合員からご当地メニューを募集し、それを参考にしてあらんじえ内でメニューを決定した。
この時、日本全国のご当地メニューを楽しめるように、できる限り都道府県の被りがないようにメニューを選んだ。また、それを食堂間で入れ替えることで普段利用している食堂で全国のご当地メニューを食べられるように工夫した。

内容② <ラリーとクイズ企画>

食堂を利用した際に受け取るレシートをピラに貼り付けて、ひとことポストに入れることでラリーに参加してもらった。同時に、ご当地メニューに関するクイズをピラに載せ、食堂をめぐる以外の楽しみも追加することで、多くの組合員の参加を促した。

クイズについては、生協のWebサイトにクイズのヒントを設けることで学生委員会あらんじえの認知度を上げることも狙いとした。



▲実際にラリーに参加している様子

成果

主菜出食数.....10,156食(目標達成率67.7%)
 丼・麺出食数.....10,702食(目標達成率107.0%)
 副菜出食数.....5,821食(目標達成率232.8%)
 ご当地メニュー合計出食数.....26,679食(目標達成率97.0%)
 ラリーの総応募数が296件となり、今までの企画の中で最大規模となった。

課題

アンケートの中には「レシートをいつもの癖で捨ててしまった」「どこに提出すればよいかわからなかった」などの声もあり、一部の組合員には不親切な企画となってしまったということが伺える。これに対しては別の応募方法を考えたり、より分かりやすい企画を実施していくことが望まれる。

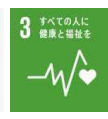
取組みを参考にする上で気をつけること

今回の企画はTwitterの情報宣伝が功を奏し、多くの組合員が参加できる企画となった。これは京大の間ではTwitterが非常に情報伝達の手段として日ごろから用いられているということが大きく影響していると考えられる。その大学ごとに合った情報宣伝方法を活用するとより企画が成功に近づくと思われる。

2020年ブロック方針との関係性

ありがたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなできちんと伝えていきたいと思います。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総体活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

京都大学生協同組合
専務理事：國見 伸行 全学学生委員長：永岡 孝将
E-mail : kousuke11.12.15@icloud.com

【事例集】

04

京都大学生協 留学生委員会 Shopping Tour



活動の教訓ポイント

留学生の視点でツアーを行うことでハラル対応のお店やホームセンターの紹介などにも配慮が及びました。生協店舗の紹介では、チケット手配など生協でできることも伝えられました。

活動概要

【日時】2019/10/1
【場所】京都大学周辺
【対象】新入留学生

【内容】留学生委員会企画。春と秋に、新入留学生に京大吉田構内および周辺の留学生おすすめ店舗をツアー形式で紹介する。
土曜日13:00~14:30の日程で行った。



▲ツアー中のシーン

企画背景

<留学生に特化した店舗紹介>

この企画は留学生自身により企画された。京大には多くの留学生が在籍しており、入れ替わりも激しい。京大周辺に数多くある飲食店、スーパー、ホームセンターなどの中から、留学生自身がおすすめる店舗を紹介するという、先輩の知恵の伝授がこの企画の本質である。

アピールポイント

本企画でのアピールポイントは以下の通りである。

- ・留学生が友達をつくることができる
- ・学生委員会にはない、留学生ならではの視点から、おすすめする店舗を紹介できる
- ・京大生協の店舗の活用方法も紹介できる。



▲ツアーのコース

組合員の反応

2019年度から始まった企画で、春と秋で各2回（秋は台風19号により中止）計3回行ったが、雨天であった春の2回目を除いて、様々な出身国から40名程度の参加があり、好評であった。

第2回では、参加者の求めに応じてホームセンターを詳しく紹介するなど、臨機応変に対応した。



▲和やかに交流する参加者



▲リサイクルショップの紹介

内容①

<店舗紹介>

京大生協では、コンビニショップや書籍の他、旅行センターやクリーニング店なども紹介。
キャンパス外では、スーパーやリサイクルショップ、ホームセンターの他、外国語の通じる不動産窓口や医院、民族料理店など、利用した経験も踏まえ、留学生ならではの視点から店舗を紹介しています。

内容②

<事後交流・食堂利用>

参加者同士の交流も大きな目的です。
イベント終了後には、希望者同士でカフェテリアルネへ行き食事をします。
生協食堂の利用方法も紹介できました。



▲カフェテリアルネでの昼食

成果

春、秋ともに40名程度と想定に近い参加者があり、一定の需要があることがわかった。「旅行センターなら駅のように並ばずにきっぷが買える」「組合員は書籍が10%引」など、生協の利点についても理解してもらうことができた。参加者の属性は様々だったが、終始和やかな雰囲気であり、参加後に一緒に食事に行く参加者も多く、交流促進という面でも一定の成果を感じられた。

課題

店舗については小規模な店舗では営業の妨げにならないよう、外から紹介することしかできなかった。今後、事前に店舗に許可を頂いて、店舗内を見学できるようにしていきたい。また、雨天、荒天時の中止や延期についても事前にポリシーを定めておくべきである。

取組みを参考にする上で気をつけること

新入留学生に対しては、広報手段に限られる。私達は、メールにて開催案内を大学の留学生担当部署に送り、新入留学生への広報を依頼した。参考にすることは、自大学の留学生担当部署を調べておくのは有効であろう。Facebookイベントページの活用も考えられる。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総体活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

京都大学生協同組合
専務理事：國見 留学生委員会理事：高木
E-mail : kuisc.contact@gmail.com

【事例集】

05

同志社生協今出川キャンパス ひとつことカードコラボ おにぎり総選挙

活動の教訓ポイント

総代会を軸とした組合員の運営参加を具体できた点。
意見を基に企画するだけでなく、さらに参加が広がる工夫をしました。



活動概要

【日時】 <投票> 6月24日～6月28日
<POP掲示> 7月15日～7月19日
【場所】 良心館コンビニ、心和館コンビニ、新町ショッ
【対象】 全組合員
【内容】 3つの生協店舗で、シールを貼る形式で、組合員に好きな生協おにぎりへの投票を募り、上位3位のおにぎりはPOP・ポスターを作成し、掲示しました。また、ひとつことカードによって、新しいおにぎりの味を募集しました。



▲陳列棚にもPOPを設置しました

企画背景

組合員が、日頃から食べている生協おにぎりの好きな味総選挙を行うことで、気軽に企画参加してもらい、組合員の声をより聴くことができるようにしようと考え、シールを貼る形式で行いました。また、「新たなおにぎりの味」というアレンジしたひとつことカードとコラボをし、お互いの認知度を向上させると共に、ひとつことカードをとっつきやすいものにし、組合員の意見を総代会以外でも聴こうと思ひ、始めました。

アピールポイント 組合員の声を大切に！

この企画のアピールポイントは、組合員の企画への参加をシールによる投票という、参加しやすい形で促していることはもちろんですが、さらに普段とは違うひとつことカードを使っている点です。またUniCoのポイントをプレゼントすることで、組合員のひとつことカード自体への認知度と、とっつきやすさを向上させ、組合員の声を積極的に聴こうとしているところ！そして、普段企画を実施する機会の少ない同志社女子大学のコンビニでも実施することができ、幅広い組合員の声を聴くことができるようにしました。

組合員の反応 気軽に参加できる企画

シールによる投票の形式で行うことで、合計387人というたくさんの方に参加してもらえたと思います。なかなか普段は企画を実施することが少ない、同志社女子大学の組合員の声も聴くことができ、幅広い組合員の意見を聴くことができました。

ひとつことカードの認知度が思った以上に低かったため、もっと設置位置や企画自体の宣伝をしっかりしておけば、よりたくさんの方の組合員の声を聴くことができました。



▲店舗内に投票ボードを設置しました！



◀おにぎり総選挙の結果発表



▲投票ボード！！

内容① 好きなおにぎりの味は？？

1週間の期間で、好きな生協おにぎりの具材に投票ボードでシールを貼ってもらい、上位3位のおにぎりはPOP・ポスターを作って店舗内で掲示しました。

普段から食べており、身近なものであるおにぎりをテーマにすることで、たくさんの方に気軽に投票してもらおうと考えました。シールによる投票の形式にしたのも、それが狙いでした。それぞれのおにぎりのキャッチコピーも組合員から募集したのもを使っており、楽しくするだけでなく、その商品をどう思っているのかも知ることができる良い機会となりました。

内容② ひとつことカードday

初めての試みで、7月にこの企画が立ち上がりました。常備しているひとつことカードとは違い、ひとつことにかけまして15日限定で、いつもとはデザインが異なるひとつことカードの設置および配布を行い、意見を書いて頂いた方には、大学生協アプリのUniCoでたままるポイントを贈呈するという企画を行いました。ひとつことカードの認知度向上も目的としていましたが、生協に意見をより言いやすくしよう、もっと意見を募って組合員の声を聴き、生協に反映させ、より良い生活を送ってもらおう！という想いからこの企画を行いました。



◀普段とは違うひとつことカード

成果

この企画を通して、普段企画に参加しない組合員もおにぎりの投票により、気軽に企画に参加することができたと思います。また、アレンジしたひとつことカードを使うことにより、ひとつことカードへのとっつきやすさや、認知度を少しでも向上させることができ、総代会等以外でも組合員の意見を募り、声を聴いて反映させていくことができたことは大きな成果だと思ひます。

課題

今回の企画で、組合員に手軽に参加してもらえましたが、情報宣伝をもっとし、企画の認知度をより上げることができれば、もっとたくさんの方に参加してもらえたのではないかなと思ひます。また、ひとつことカードの認知度が想定していたよりも高くないことがわかったので、今回他大学のひとつことカードコーナーを見学させて頂いた経験を活かしながら、今後の企画ではひとつことカードをもっと知ってもらえるように活用していきたいと思ひました。

取組みを参考にする上で気をつけること

今回、課題でも出たように、組合員のひとつことカードの認知度が想定よりも高くなかったということがあり、学生委員会の中で想定する現状と、学生委員会ではない組合員の現状ではギャップがあると言ふことにもっと気をつけなければならないなと思ひました。そのためにも、もっと基本的な部分の内容も含めて、情報宣伝することが大切だと思ひます。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

同志社生協同組合
専務理事：堂免 学生委員会委員長：包末
E-mail：info@doshisha-coop.com



[事例集]

06

立命館生協衣笠キャンパス 総代会アンケートの取り組み

活動の教訓ポイント

昨年の12月から組合員を対象にアンケートを実施し、それをもとに総代会の議案をつくりました。組合員の声がしっかりと反映された総代会になりました。



活動概要

【日時】2018/12/17～12/25
【場所】立命館大学 衣笠キャンパス
【対象】組合員

【内容】生協に対しての組合員の意見を聞くため、学生委員で組合員にアンケートをとりました。学生委員活動だけでなく生協の運営に反映されるものなので、アンケート内容は職員さんとの意見交換を重ね作り直しました。



▲総代会当日

企画背景

組合員の声を聞き、現状分析を怠らない

社会の変化とともに大学生協は変化し、組合員の生活実態と生協に対する要望も変化します。組合員のニーズに応えるために、現状分析を怠らないというのは学生委員の活動方針でもあります。多くの組合員の声を聞くために、立命館衣笠キャンパスだけで1500枚以上のアンケートを回収しました。

アピールポイント

組合員の運営参加につながる

総代会では次年度の事業計画と予算決定についての第二号議案が採決されます。次年度の生協の方針を組合員の要望に沿ったものにするために、2018年度はアンケートの時期を第二号議案を作成する時期に合わせて早めました。そのため、アンケート結果を反映させた第二号議案を作成し、組合員の声を生協運営に取り入れることができました。これが、組合員が運営に参加するということだと思います。



▲討議の時間

組合員の反応

「生協店舗について…」

アンケート内容は幅広く生協に対しての意見を言える内容で作りましたが、毎年アンケートや総代会当日は生協店舗に関する要望が多く寄せられます。なので、食堂や購買を快適に利用できているかだけでなく、大学生協アプリの利用率や生協の運営に参加できるという事の認知度も調べました。アンケートの結果、多くの生協店舗への要望のほか、学生委員や職員に宣伝をより組合員に届くように行ってほしいという声もありました。



▲食環境の改善案のパワーポイント



▲酒井専務からの説明

内容①

学生委員で1500枚

アンケートは、学生委員全員が紙のアンケートを配ります。1500枚という目標を達成するためには、学生委員一人一人の協力が必要不可欠です。学生委員が協力しあい、目標枚数を回収することができました。立命館衣笠は「総代会はみんなで作るもの」という方針で取り組んでいることによって達成できたと思います。

内容②

第二号議案に反映

具体的にどのように反映されたかいくつか紹介します。アンケートによって、ミール適応商品の認知度や組合員の読書や書店の利用状況を調べ、認知度アップを方針としました。また、食堂の混雑緩和を求める声も多く、本格的に対策を進めることも決まり、学生委員も積極的に動くことが決まりました。学び事業では、留学などの海外体験の際に困ったことをアンケートで調べ、生協主催の英語講座と異文化体験ツアーの内容に盛り込むようになりました。



▲学生委員が第二号議案を提案

成果

第二号議案をアンケート結果に基づいて作成できたことが一番大きな成果です。組合員の声が生協の運営を作ったということであり、生協らしい運営が本当の意味で実現できたと思います。また、アンケート結果は学生委員内の各部署にも共有し、組合員の声を知ることによって学生委員活動に活かすこともできました。

課題

アンケートのによって多くの声が集まり、中には生協に対しての熱い意見を持っていた方もいたのですが、その方に総代として総代会当日に意見を言っていたことにはつなげられませんでした。アンケートの中にはとてもいい意見がいくつもあったので、そこで終わらせてしまうことはもったいないことだと考えました。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みで気を付けるべきところは、「アンケート内容を学生委員のためのものにしなない」ということです。アンケートを作るのも回収するのも学生委員ですが、アンケート内容は学生委員活動の参考にするためのものではなく、組合員が生協に対しての意見を言うための内容にしなければなりません。これが意外と難しく、何度も職員さんと会議を重ね、アンケートの質問項目を考えました。

2020年ブロック方針との関係性

ありがたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

立命館生協同組合
専務理事：酒井 学生委員会 委員長：齊藤
E-mail：so0914rv@ed.ritsumeit.ac.jp



【事例集】

07

龍谷大学生協深草キャンパス Ryukoku Friendship Party

活動の教訓ポイント

大学生協の仲間である留学生を対象にした点や学内の他団体と協力し取り組みに参加する組合員を増やした点。社会的課題について留学生とdiscussionできた点。



活動概要

【日時】2019年11月6日(水) 17:00~20:00

【場所】りゅうこく国際ハウスさくら(留学生寮)

【対象】留学生

【内容】

アイスブレイクや、日本の文化や風習について話すことを通じて留学生に日本人の友達を作ってもらおうと共に、社会的課題や、社会について話し合ってもらい価値観の違いを実感してもらいます。また、今後の活動のために留学生の生活での悩みなども聞く時間を設けます。



The 1st Ryukoku Friendship Party 2019.11.6 17:00 ~ 20:00

▲当日のポスター

企画背景

＜留学生には日本人の友達が少ない？＞

龍谷大学にはあまり留学生と触れ合う時間があまりなく、留学生は留学生と交流しているという現状があり、せっかく日本を留学先として選んで来てくれているのに日本での友達が少ないのではもったいないといった思いから本活動を行いました。

アピールポイント

＜おにぎりは世界を救う？＞

#OnigiriActionの期間ということもあり、実際におにぎりを握ってもらって食べてもらいました。#OnigiriActionの説明を行い身近なことで国際貢献できるということを知ってもらう事が出来たと思います

また、単に交流を通じて「仲良くなる」だけでなく、日本の文化や風習、大きな社会的課題や社会について話し合う時間を設けることで「互いが互いの価値観の違いを知り、それを尊重しあえる」ことを目的としています。



▲おにぎりつくりの様子

組合員の反応

＜未来を作るのは私たち＞

参加者からは、「友達が出来た！」や「社会について考える機会になった」などの感想がありました。当日の様子からも、言葉の壁はあるけども大きな問題にみんな考えていくことが大切であるということを感じられた参加者も多いようです。



▲全体写真



▲言葉の壁はありますが想いは伝わります

内容①

＜留学生は未来の平和大使＞

現状存在する、国際や環境などの社会的課題をトークテーマとして提示し、大きな社会的課題を身近に感じてもらい、自分の考えについて話してもらいそれぞれの価値観の違いについて実感しその互いの価値観を尊重しあえる関係性を築くことで、日本や日本人を好きになってもらうと共に、活動後様々な人とそういった想いをもって接してもらう事で、「平和な世界」を築ききっかけとなることになったのではないのでしょうか。

内容②

＜今後の活動の幅を広げる＞

大学生協の取り組みや学生委員の活動の紹介する時間では、ひとことカードを実際に書いてもらい今後の積極的な運営参加を促すと共に、実際に留学生生活でどんなことに悩んでいるかや大学生活にどんな思いがあるのかを、学生委員が知ることで、今後の学生委員の活動の幅を広げる活動となりました。



▲実際にひとことカードを書いてもらっています！

成果

参加者からは、また機会があればぜひ参加したいという声、協力してくださった海外交流委員会の方からは自分自身も成長できるいい機会になりましたという声がありました。留学生に日本を好きになってもらい友達を作ってもらえたことはもちろんのこと、私たちにとっても文化の違いや、新しい目線に気づくことが出来ました。

課題

今回は海外交流委員会と連携して企画を行いました。事前の打ち合わせがうまくできておらず内容の難しい場面では、会話がストップしてしまう時もありました。共通のビジョンを事前の打ち合わせ等できちんと共有する必要があります。

取り組みを参考にする上で気をつけること

国際問題などのデリケートな内容についても触れるので、活動を行う私たち自身が「意見を尊重し合う」といった心構えが必要不可欠です。また、言語の違いによって伝え方や伝わり方などのニュアンスが変わってくる恐れがあるので各グループに英語などの言語に長けた人を一人は配置するなどの配慮が必要です。文化の違う留学生と交流することで自分の価値観を知り、今後の学生委員会活動の幅を広げることにつながる機会ですので、ぜひ参考にしてみてください。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総体活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

龍谷大学生協同組合
専務理事：谷口一宏 学生委員会：米川高史
E-mail: k.taniguchi@ryukoku-coop.com



【事例集】

08

京都工芸繊維大学生協 総代会関連企画

活動の教訓ポイント

有意義な総代会にするために、計画的な取り組みを進めました。総代集めや事前交流会から流れをつくり、来年も参加したい！と言われる総代会になりました。



活動概要

【日時】 2019/4/5 (1回生勧誘企画)
5/13 (総代事前交流会)
5/27 (総代会)

【場所】 各課程オリエンテーション教室(1回生勧誘企画)
生協運営食堂オルタス(総代事前交流会)
3号館0321教室(総代会)

【対象】 1回生(1回生勧誘企画、総代事前交流会)
全組合員(総代会)

【内容】 新入生課程別オリエンテーションの後に、総代会の説明と総代への勧誘を行いました。



▲総代事前交流会での意見交流

企画背景

「より有意義な総代会に」

例年、京都工芸繊維大学生協では、ほとんどの総代が学生委員で書面出席率も高く、総代会での意見も少ないという状況でした。一般の組合員からの総代の選出と活発な意見交流のある総代会を目指し、1回生の勧誘と総代事前交流会、総代会の流れの改革を行いました。

アピールポイント

総代の7割が1回生に

1回生勧誘企画と総代交流会は今年度が初めての試みということもあり、実際に総代が集まるのかという不安がありましたが、総代の7割を占めるほど集まってくれました。

総代事前交流会でも積極的な意見交流ができた、その意見を総代会で反映できたりと企画目的の有意義な総代会に近づけることができたのではないかと思います。

また、交流会での意見の回答を事前に用意できたことも円滑な総代会の進行に繋がりました。



▲▼総代会での質疑応答

組合員の反応

1回生「来年も参加したい」

昨年度までの総代会では“総代会はお弁当を食べて眠くなってきたところで手を挙げるところ”という認識を持つような人が現れるほど本来あるべき総代会とはかけ離れたものとなっていました。今年度の総代会は“有意義な総代会にしたい”という想いで取り組みました。

その結果今年の総代からは“様々なことが知れて良かった”や“自分の意見を伝えられて良かった”といった意見を多数聞くことができ、**想いに沿った取り組み**ができたと思います。



▲ショップのお菓子売上ランキング発表

内容

親しみやすい内容から

例年行われていた総代会では総代会の説明や議案書の説明などしか行われておらず、総代にとって堅苦しく意見が言いづらい場となっていました。しかし今年は事前交流会におけるグループ分け・アイスブレイク、学生委員や職員による生協に関する1分間プレゼン、議案書ダイジェスト読みなどの**“より総代会や生協に親しみを持てる時間”**を多く取り、総代が意見しやすい環境づくりに取り組みました。

内容

目に見える反映を

事前交流会ではお弁当を食べながら意見を出してもらったりしたのですが、交流会後のアンケートで“お弁当が美味しくない”との意見が多数出たため、総代会当日は内容を変えました。

事前交流会で出した意見を総代会当日に反映することで、自分たちの意見は実際に反映されるのだという実感を総代の方々に得てもらえる良い機会となりました。



▲総代会での議案審議投票

成果

今回各課程から総代を集めたため、課程の偏りが少ない状態で総代を集め、幅広い意見を聞けました。また、総代会の日程自体を平日にすることで参加しやすいという声も多かったです。今回一番の成果としてはやはり**総代が総代会を有意義なものとして捉えてくれたこと、参加してよかった**と語ってくれたことだと思います。

課題

今年の総代会は1回生を対象にした取り組みが多く、2回生以上の総代の数が少なくなってしまいました。そのため、来年度からは**継続して総代となってもらえる**ように心がけ、今年の取り組みをつなげていきたいです。また、今年は事後活動まで繋げられなかったのこちらにも目を向けていきたいです。また、今年から大幅に取組内容を変えたため、今年で終わらせるのではなく、これを**引き継いでいく**ことも大切にしたいです。

取組みを参考にする上で気をつけること

- ・1回生勧誘企画は各課程(学部)の担当教授との協力が不可欠になってきますので注意が必要です。
- ・1回生勧誘は総代に継続してもらい各学年各課程まんべんなく総代を集めようという試みなので、この手法で総代を集めるのなら継続してもらうための工夫が必要になります。
- ・総代でない学生委員が増え、総代会をあまり知らないメンバーが増えるので引き継ぎにむけて学生委員内でも総代会に関する取り組みを伝えていく必要があります。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、
よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

京都工芸繊維大学生協同組合
専務理事：林 学生委員会副委員長：家邊・松山
E-mail：kitcoop.gi.seikyo@gmail.com



【事例集】

09

京都経済短期大学生協 京都教育大学への店舗見学



活動の教訓ポイント

学生理事と学生委員、店長が実際に店舗の見学を行い、自大学生協への活動に活かすことにつながった点。

活動概要

【日時】2019/10/23
【場所】京都教育大学生協食堂・購買
【対象】なし

【内容】
毎年恒例ですが、他大学生協のお店作りを学生理事と店長が見学に行きます。そこで見たもの聞いたことを京都経済短期大学生協にも活かす取り組み。



▲京教の一言カードの回答

企画背景

＜一年生が執行代になるのが短大の一番の特徴です＞

京都経済短期大学生協は短期大学であることから学生が活動できる時期が他大学よりも非常に短いのです。だからこそ実際に理事や学生委員の目で見ることが重要になります。また学生委員会は今年度から発足したため、これから頑張るための原動力を京教に学びに行きました。

アピールポイント

＜「実際に」が重要！＞

学生自身が他大学生協の店舗を見学すること自体が珍しい取り組みです。やはり実際に見て初めて気づくことがあると考えています。昼休みの混雑する時間のお店の様子を見学したり、実際に食堂を利用しました！

店舗の見学だけでなく、学生委員会の部室の見学や、座談会を行い、他大学の活動の準備や成果物、当日の様子などを詳しく知ることができました！

学生理事達の反応

＜今後の活動に期待！＞

組合員に向けた企画ではないので今後の活動に期待することになりますが、参加した学生理事や学生委員は、自分たちの生協のお店との違いをたくさんメモしていました。

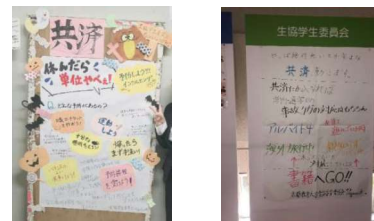
また京教で活発に活動している学生委員と交流することで、経短の今後の活動のためのヒントをたくさん得ることが出来ました！



▲当日の食堂のレシートと掲示物



▲学生理事の書いた気づきシート



▲京教の学生委員会が作ったボード

内容②

＜学生員会の活動交流＞

京都教育大学の2年生2人が座談会に参加してくれました。経短では学生委員会としての活動事例がないので、京教とのGAPに困惑していました。しかし、京教の学生委員と一緒にどんなことが出来るのかを考えることができました。

部室へ入った時には、京教の部会の資料や議事録を見て、まずは学生理事や学生委員会が定期的集まる場を設けることが必要だと感じています！



▲座談会の様子です。

成果

京都教育大学の学生委員会との座談会で、活動の事例をたくさん聞くことができました。

来年度に向けてチャレンジしてみたいこととして、下宿する新入生向けの生活応援の企画が出来たらと話し合っています！！

共済ボードなども経短にはないので作ってみたいという声が理事からありました。

課題

訪問して実際に見て聞くことはとても大切ですが、自分たちの実現可能な取り組みにまで持っていくことが出来るのかという点が一番の課題です。またただやる気が起きただけで終わらせないようにモチベーションを保つ工夫や1回生が就活で忙しくなる前のある程度形にすることが課題です。

取組みを参考にする上で気をつけること

あらかじめ「気づきシート」を用意して、自分の感じたことや見たものをなんでもメモすることが大切です。また他大学に直接訪問することは目新しいことなので、なんでも真似しようとするのではなく、簡単なことから「ちょい足し」できるといいですね。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総体活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】
京都経済短期大学生協同組合
店長：田中 誠

E-mail : keitan.hombu@mb3.seikyoku.ne.jp

奈良女子大学生協 上級生委員会SUNNY

活動の教訓ポイント

上級生委員会は全ての組合員のよりよい大学生活をつかっていくために、上級生の生活実感を持って取り組みを行っている。



活動概要

奈良女には現在、約2,000名の学部生、約500名の大学院生が在籍しており、多くの「上級生」が大学内で過ごしています。しかし、上級生ならではの悩み・ニーズは今の奈良女子大学生協の取り組みだけでは補いきれないこと、また、学生委員会の取り組みに上級生の視点が活かしきれていないことが現状としてあります。そこで今年の春、「上級生が自分自身や社会を見つめられるようになること」を目指してこの上級生委員会SUNNYを立ち上げました。



▲奈良女子大学正門

立ち上げ における思い

＜キーワードは“みんなで”“共感”“コミュニティ”＞

上級生が多く学内で過ごしているにも関わらず、また自分たち自身が上級生ならではの悩みを感じており、すべての奈良女生がもっとステキな大学生活を送れるようにしたい、そのために上級生の視点を持って何かしたいと感じていました。また、上級生になり、専門的な分野を学ぶこと、また社会に出る直前の世代であることから、様々なことに興味を持てるようになりたいと感じていました。しかしそれを実現するには1人では微力です。わたしたちは**同じ思いを持つ仲間が集まって活動**しています。また、活動する際も「こう思う」「こうしたい」と誰かが言った時に**共感が生まれたことを実行**に移すことを大事にしています。そして、上級生の中には研究室やゼミという閉鎖的な、まるで社会から切り離されてしまったかのような空間で過ごしている人もいます。わたしたちの活動を通じて**社会との結びつきを感じてもらえるような**、また、組合員にとって**憩いの場となるようなコミュニティ**を提供できるよう活動しています。メンバーにとってはこのSUNNYが大切なコミュニティになっています。



▲お昼時の中庭の様子

目玉企画① <所属変更・共済継続手続きのお知らせ>

卒業時に出資金の返還の手続きを行わない組合員、大学院へ進学等の理由で在学期間が延びたことによる生協・共済への継続加入の手続きを行わない組合員がまだ多くいることが課題になっています。その通知がご実家へと届いてしまうことから、特に下宿生は知らない場合が多いのでは？ということでポスターを作成し、学内への掲示・SNSでのお知らせを行いました。このおかげで若干の手続き者数の上昇が見られました。



▲学生委員会の食生活相談会でのポスター

SNSの活用 <社会とのつながり>

院生・上級生は、社会人直前です。社会人になるということは大きな責任も伴い、知っておくべきことも増えます。また、院生は特に社会的にはマイノリティであり、研究室にこもって学問に励むことも多く、まるで社会から取り残されているかのような、孤独であるかのような状況に感じられることもあります。そうした状況の中、院生・上級生にも社会の一員であるということを感じてもらい、専門分野以外の様々なことも考えてもらえるようSNSを通して発信しています。



成果

大学内に上級生が存在することを以前よりもアピールすることができました。私たち自身が上級生であるという強みを活かして、上級生には同じ目線でニーズに合う活動を、下級生には経験やスキルを活かした活動を、そして、組合員全体には一緒に考えたいことの提起を行っています。今後も上級生らしさを活かした活動を続けていきます。

課題・展望

学生委員会との連携・組織の持続可能性が課題です。学生委員会はとてもパワーがあり、奈良女生がよりよい大学生活を送るための活動を行っています。学生委員と協力することで学生委員会活動に上級生ならではの視点を取り入れ、より多くの奈良女生の大学生活を支える取り組みを行ってきたいです。そして、学生委員会とも連携することで同じ思いを持った上級生委員会メンバーを増やしていきたいです。

取組みを参考にすることで気をつけること

「組織をつくること」に執着しないことです。わたしたちはあくまで同じ思いを持った仲間が集まった結果、1人でできないこともみんなでやれば大きなパワーになるから、結果組織になった、というイメージです。思いを大事にしているのが活動がタスクにならず、むしろ息抜きになっています。また、どんな院生・上級生になりたいか、というビジョンを大事にして動くことが重要なのではないのでしょうか？

2020年ブロック方針との関係性

ありがたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

奈良女子大学生協同組合
専務理事：加藤由美 SUNNY担当：天野沙耶
E-mail: narajyosskato@wine.ocn.ne.jp

【事例集】

11

奈良県立大学生協 通 常 総 会

活動の教訓ポイント

誰ひとり取り残さないようにしていた総会。組合員一人ひとりの意見を大切にするために多くの工夫がされていました。また、そこで出た意見を参考に直近の企画を作りました。



活動概要

- 【日時】2019/5/28
- 【場所】奈良県立大学 3号館2階
- 【対象】全組合員（学生、教職員、パート職員）
- 【内容】
 - ・総会前の活動（総会の情宣、学習会、組合員回り）
 - ・総会（アイブレ、グループ討論、会場装飾）
 - ・総会後の活動（開催報告）



▲総会後の集合写真

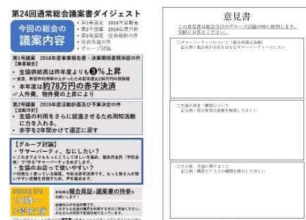
企画背景

組合員がみんなで作る総会を目指す

奈良県立大学生協では総代会ではなく組合員全員が参加する総会を開催しています。全組合員（学生だけでなく教職員やパート職員）の一人ひとりの想いや意見を大切にするために開催しました。また、組合員が「運営参加の場」に参加することによって食堂・購買の利用促進につなげたり、学生委員会活動の参加促進につなげたいという想いから組合員が主体となる総会を開催しました。

アピールポイント 誰ひとり取り残さない仕組み

「みんなで作る総会」を目標に組合員に対してどういうアプローチができるかを考えました。総会の議案書を全組合員に配ることを目的に教授回りをを行いました（奈良では全学生がゼミに所属するためです）。サークル回り、パート職員回り、教職員回りをを行い、総会の参加を文字通り全組合員に呼びかけました。議案書を簡易化した議案書ダイジェストを使ってより多くの人に総会に興味を持ってもらうようにしたり、総会当日に行うグループ討論の意見を事前に意見書という形で集めることによって総会に実出席できなくても意見を出すことができる仕組みを作りました。



▲議案書ダイジェストと意見書

組合員の反応 総会直後の企画で参加促進

総会の後に丼-1グランプリというメニューコンテストを行いました。昨年よりも応募数が増え、総会への参加促進にもつながりました。また、総会のグループ討論で7月に学生委員会が企画するサマーパーティーの内容について組合員から意見を集めました。集めた意見を参考に、サマーパーティーを企画したところ昨年よりも参加者が約50人増えました。また、総会後の食堂・購買の利用促進にも大きくつなげることができました。



▲サマーパーティーの組合員の様子



▲生協、総会についての学習会

内容① 実出席を増やすために

組合員が総会に実出席してもらうように総会前活動として2つのことを行いました。1つは学生委員会内で生協、総会についてを改めて学ぶ機会を作りました。奈良は学生委員の数が1学年で4人に1人という特徴を活かし、学生委員から周りの友達などの組合員に総会の参加を呼びかけました。もう1つは総会という堅いイメージを払拭するために総会のポスターやTwitterにて情宣動画を作り組合員に総会に興味を持ってもらうに役立ちました。

内容② 運営参加を実感

総会ではグループ討論を行いました。学生委員と組合員で1つの班を作りました。討論した内容は①7月に行うサマーパーティーの内容について②利用しやすい食堂・購買にするには2点について話し合いました。理事会の話し合いでは出なかった意見や今後の企画を作るときに参考にする意見などを集めることができました。また、グループ討論で出た意見をリアルタイムで共有できる仕組みを作り、組合員に運営参加をしている実感を持ってもらうようにしました。また学生委員が組合員と意見交流をすることで組合員の声を直接聞くことができる良い機会になりました。



▲グループ討論の様子

成果

成果として奈良県立大学生協の存在を広く知ってもらうことができ、生協を利用することにつながり、6月からの学生委員会の企画に参加する人も増えました。また学生委員会の成果としては総会をみんなで楽しく運営し、作りあげることができました。長だけが動くのではなく学生委員会全体で取り組んだので総会を行う想いを全員で持つことができました。

課題

今年は昨年よりも実出席の組合員が増えました。しかし、奈良の現状として2回生以上の実出席をする組合員の数が少ないので、今年度に実出席をした1回生の組合員をどのようにして来年度の総会も実出席をしてもらうかが課題です。また、教職員の組合員の参加はわずか3名だったので、より多くの教職員の組合員に参加してもらうにはどんなアプローチができるかについても考えていく必要があります。

取組みを参考にする上で気をつけること

大学生協によって総会・総代会を全員で運営するのか、一部の理事・学生委員で運営するのか運営体制が異なります。一部の理事・学生委員だけで運営する大学生協にとっては参考にならない取り組みかと思いますが、「総会・総代会をなぜ大学生協が行うのか」という点については運営側はもちろんのこと、それ以外の職員・理事・学生委員も含めて認識しておくべきだと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

奈良県立大学生協同組合
業務担当理事：石間奈穂子 学生委員会：下山祐希
E-mail : nishima@u-coop.net



[事例集]

12

滋賀大学彦根地区生協 七夕祭り

活動の教訓ポイント

「#つながる彦根」をコンセプトに学内の組合員と地域住民の方を繋ぐ取り組み。滋賀大生と地域の方が互いに魅力を伝えあい、みんなで交流の場を作ります！



活動概要

【日時】2019/7/5 18時～21時

【場所】滋賀大学彦根キャンパス 生協会館および生協前広場

【対象】滋賀大学学部生、院生、教職員及び彦根地域住民

【内容】地域の商店街の店舗に祭りに出店していただき、大学内の部活・サークルにステージ出演をしてもらい、地域の方を招待し、大学と地元地域の交流を図る祭り また、地域の幼稚園児・保育園児に事前に成果物を作ってもらった。



当日までに大学内で書いてもらった七夕飾り

企画背景

<きっかけ>

学生の多い街で、彦根地域の方々と滋賀大生がお互いを知り、互いにフォローし合え、私生活で滋賀大生と彦根地域の方々が繋がれる、そのきっかけとなる企画にしたい。

アピールポイント

<一体感>

地元商店街から9店舗の出店、子供が遊べる広場に地元のカラム協会や畳店などからおもちゃの提供、地元幼稚園から当日の会場展示の作成など地元地域の様々の団体の協力によって成立する祭りです。またステージ上では滋賀大学内の部活・サークルがパフォーマンスをします。地元商店街の美味しい食べ物を食べながら滋賀大生のパフォーマンスを見て、彦根地域と滋賀大学が一体感を生み出すことが祭りの魅力となっています。



よさこいサークル“桜”のパフォーマンス

組合員の反応

<つながりを感じる>

- ・商店街のまだ食べたことのない食べ物もこの機会に食べられてよかった。今後商店街のお店や商店街の人とつながるきっかけになった。
- ・地域の人にも滋賀大生のパフォーマンスを見てもらうことができ、地域の人にも楽しめる企画だった。
- ・地域の子どもたちにも事前の成果物や当日の参加を通して楽しんでもらった。
- ・会場が生協前広場だけだったので狭くて窮屈に感じる人もいた。



子どもランドの様子



出店していただいたラーメンにっこう

内容①

<商店街からの出店>

学祭などのように学生が出店を出店するのは違い、商店街から多数出店していただくことで地域を知ることにつながる。今回は地元商店街から9店舗出店していただきました。学生にとっては、地域のいいお店をすることは生活を豊かにすることにつながり、店舗にとっては学生という新規客の獲得の場となる、双方にとってWIN-WINな関係のきっかけとなる場を目指しました。

内容②

<滋賀大生の魅力>

アカベラ、チアダンス、ジャグリング、よさこいなど滋賀大学内の多くの部活・サークルがステージ上でパフォーマンスをしました。学生が日々練習し磨き上げてきたパフォーマンスは見る人を魅了しました。そんな学生の輝く魅力を地域の方々にも見ていただき、知ってもらえることができました。



チアダンス部“Sugars”のパフォーマンス

成果

新体制初の大きな企画でしたが、祭りとしての盛り上がりは上々で、成功に収めました。企画のコンセプトでもあった地域と大学のつながりも、出店してくださった店舗や来場された地域の方々にも満足してもらえて終えることができたので良かったです。

課題

情報宣伝がうまくできておらず地域、学内含めて認知度が低かったこと、そのため地域の子供の来場数が少なく、子どもランドの成果が低かったことが課題です。
学生委員全体での情報共有がしっかりできておらず、全てを把握できている人数が少なかったことも挙げられます。

取組みを参考にする上で気をつけること

学外の方を巻き込む場合、宣伝や誘導を綿密に考えてリハーサルをしないと当日で学外からこられる方は困惑されてしまいます。その情報共有もきちんと行って、全員が企画を把握できている状況にするのが大事だと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

滋賀大学彦根地区生活協同組合
専務理事：柳澤 学生委員会：青木

E-mail : shigas@aria.ocn.ne.jp

【事例集】

13

大阪経済大学生協 ハロウィンイベント

活動の教訓ポイント 組合員の運営参加・組合員への還元 を店舗の魅力づくりと同時に実現！



活動概要

【日時】2019/10/28(月)~31(木) 12:30~14:00
 【場所】大阪経済大学 学生会館3F
 【対象】店舗を利用する組合員
 【内容】レシートを用いてくじによる抽選会を行い、お菓子とひとことカードを配る。ひとことカードは回答した後、掲示する。生協、ひとことカードを身近に感じてほしい、組合員の「参加」が反映される形を目指しました。4日間で計391人が参加した。(2回以上の人も含む)



▲当日の店内

企画背景

「もっと組合員の声を聞くことができる場所へ！」

現在、生協やひとことカードに対する認知が低く、組合員の声の反映されにくいという問題があった。そこで、認知度の向上と組合員による学生目線の意見を聞くことによってより生協の店舗が身近な存在になってほしい、運営参加を実感してほしいという想いから実施した。

アピールポイント

＜組合員の声が聴ける！＞

今回の企画で使用した「ひとことカード」は、組合員の生協などに対する生の声を最も手軽に聴くことのできるツールである。普段、ひとことカードを手にとらない組合員、存在を知らない組合員に対して、ひとことカードの説明を行い少しでも認知されることで組合員の運営参加の促進を目指した。参加者の中にはすぐにペンをもって書く方がいたため、実はこうしてほしかったという要望を形にできる機会を作ることができた。



▲参加者にひとことカード説明中

組合員の反応

＜素直な気持ちを形に＞

参加者との交流の際にひとことカードについて「今回初めて知った」などという声が多く上がった。そのため認知度の低さを実感したと同時に、これからもっと組合員の声を聴くことができると実感した。今回投稿されたひとことカードの中には要望だけでなく「いつもお世話になってます」などのお礼の言葉もあった。組合員にとって生協店舗は組合員の生活に貢献し続けることが重要である。



▲投函されていたカード



▲装飾作成中

内容①

＜組合員への還元へ＞

開催時期をハロウィンと合わせて、店内をハロウィン風に装飾をした。別ブースでは、お菓子などを賞品とし、くじを用いて抽選会を行った。店舗を利用しレシートを持ってきた参加者にくじを引いてもらい賞品のお菓子を渡す。このとき、レシートを使用することで店舗を利用した組合員への還元の形が実現した。

内容②

＜反映を目指して！＞

今回の企画のためにハロウィン風のひとことカードを製作して、当日参加者に配布した。各意見を書いてもらい後日、回答したカードを掲示板に貼りだしたので組合員に見える形となっていたと思う。書かれたコメントに対して専務と学生委員による話し合いによって回答し、生協店舗への反映を目指した。これによって組合員にとってのより良い生活の一助になったと思う。



▲皆で回答作成中

成果

ひとことカードを利用してもらったことで組合員の率直な意見を聞くことができた。ひとことカードの認知度を上げると同時に、組合員はどんな要望を抱えているのかなどの組合員の声をGIだけでなく職員さんと共有できたことは今後の活動に活かせる大きな成果だと思う。

課題

今回実施した学生会館3F購買前は、人の通りが多く、本企画を行う場所としては狭い場所でした。参加した組合員が立ち止まることにより、通行の邪魔を感じる組合員の姿が見られた。参加が多くなることはうれしい反面、弊害になる可能性もあるので場所によって企画の規模、企画の参加者の想定などをしっかりとすることが必要である。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取組から参考にするうえで重要なポイントは「生協は、組合員の声を大切にしていきたいと考えている。」ということをいかに組合員に対して伝えていくかであると思う。GIの皆さんが、組合員と生協の架け橋となって互いにコミュニケーションが取れる企画を作ってみてはいかがでしょうか？

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる 大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、 よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

大阪経済大学生協同組合
専務理事：今石 学生委員会学生委員長：小寺
E-mail：daikei.gi@gmail.com



【事例集】

14

大阪電気通信大学生協 寝屋川キャンパス 大山フェア



活動の教訓ポイント

大山訪問研修で学んだことを組合員に伝えるとともに、牛乳のおいしさを実際に感じてもらうことができた！

活動概要

【日時】2019/10/30(水)11:30~13:00
【場所】大阪電気通信大学寝屋川キャンパス
【対象】大阪電気通信大学学生・教員

【内容】食のこだわりが少ない電通大生にむけて、牛乳を試飲してもらい自身の食にこだわりを持ってもらう。そして、産地直結の商品が成り立つ過程と、大山商品の安全性について理解を深めてもらうため、ポスターで商品紹介を行った。



▲当日の風景

企画背景

＜組合員により良い食生活を送ってほしい＞

組合員は、牛乳を含む毎日の「食」に対して無頓着になりがちであり、購入した商品についてもこだわりの持たないことが多いと感じました。もっと組合員に「食」に対して興味を持ってほしい、また大山牛乳の製造背景から自ら購入する商品にこだわりを持ってもらいたいという想いから実施しました。

アピールポイント

＜大山のおいしい牛乳＞

食生活に関心を持つことは、おいしいものを食するところから始めることが大事です。大山乳業は、そんなおいしい牛乳に大きなこだわりを持っています。

試飲会を通して、組合員が商品に込められた想いと安全性のこと、いつも購入する商品の裏側の世界に興味をもってもらえることがわかりました。



▲牛乳を用意しています

組合員の反応

＜興味を示してくれました＞

いつもと違う売店の雰囲気や、参加者は試飲するだけでなく、商品の成り立ちにも興味を持ってくれたと実感し、大山乳業の産地直結のおいしさが参加者にも届いてくれたのだと感じました。



▲大山に興味を持ってくれた！



▲表にシールを貼って感想を伝える。

内容①

＜まずは、試飲した感想＞

大山牛乳を試飲して、この牛乳がおいしかったかどうかを知るために感想をシール形式にして取り組みました。これによって参加者が試飲した牛乳についてどのように思ったのかがわかりやすくなりました。



▲大山乳業のこだわり

内容②

＜大山乳業の取り組み＞

試飲してもらうのと同時に大山乳業の産地直結の仕組みを知ってもらうため、ポスター展示と△POPを設置しました。ここで大山牛乳の安全性・新鮮さを知り、商品一つ一つのこだわりを理解してもらうことができました。

成果

参加者は大山の牛乳を、ただおいしいと思ってだけでなく、大山牛乳の成り立ちについても興味を示してくれました。

商品の裏側に興味を持ってくれることで、一人一人が食にこだわりを持ってくれると考えるので、成果が得られたと思います。

課題

試飲会で行った牛乳は大山牛乳のみで、比較対象がありませんでした。今後もし実現可能ならば、他の牛乳や商品と飲み比べを行い、より参加者が食にこだわられるような機会を生み出せたらいいなと思いました。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取組みは、私たちが参加者に「毎日の食事になんらかの意味を持ってほしい、自分に見合った食生活を実現してほしい、何より食事を楽しんでほしい。」という想いをうまく伝えるよう形にしたものであり、「参加者側が積極的に取り組める内容」にできたところがいいところだと思います。なので、相手がどんどん参加して、それを実感できることが大切です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる

大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

大阪電気通信大学生協生活協同組合
専務理事：前田 学生委員会委員長：伊添
E-mail：oecu_gjmail@yahoo.co.jp

【事例集】

15

大阪教育大学生協柏原キャンパス 総代会 意見交流会

活動の教訓ポイント

総代に「総代だからこそ大学生協に想いを伝えられる」ということを感じてもらうことができ、学生委員会が組合員と職員の架け橋となることができた！



活動概要

【日時】2019/5/8(水)・10(金)

【場所】A-201(講義室)

【対象】総代

【内容】

生協に関するお題を挙げ、それに対して総代同士で意見交流してもらう。



▲意見交流している様子

企画背景

<総代会では…>

総代会は、組合員が生協に対して意見を言える機会であるが、実際にはそのような時間が設けられていない。そのため、直接、生協の運営に組合員が参加しているとは言いきれないと思い、この企画を行った。

アピールポイント

<架け橋>

この意見交流会をした後、ここで出た意見が店舗に反映された。例えば、「暖かいペットボトル飲料を増やしてほしい」といった意見が出たが、そのあとそのような商品が増えた。

また、生協の改善してほしいところだけではなく、これからも続けて欲しい良い点や、スタッフに対する誉め言葉も多く出た。

生協と組合員の架け橋としての役割をしっかりと果たせた企画が出来たと思う。



▲学委が総代に説明している様子

組合員の反応

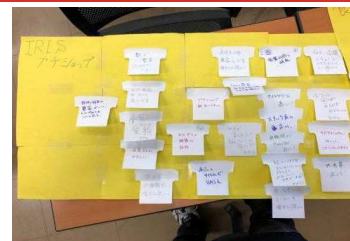
<総代の最大の魅力>

普段、生協に対して意見を言う機会が少ないためか、1つのテーマに対して、様々な意見を出していた。

また、他の総代の意見を聞いて、その意見に賛同したり、「自分はこう思う」と話す場面もあった。ほかにも、他の総代の意見を聞いて、付箋に新しく自分の意見を書いて、意見を出している総代もいた。このようにお互いにリアクションをしながら、意見交流が活発に行われていたと思う。



▲総代の意見を聴いている、そのほかの総代



▲IRIS SHOPに対する意見

内容①

<意見交流>

参加した総代には、「食堂」「IRIS SHOP」「旅行/免許/書籍」「学委」「その他」とテーマを分けて、1つ1つ意見交流してもらった。テーマを分けることで、そこについての意見を具体的に聞くことが出来た。また、プラスなことも、マイナスなことも、どんな意見でも出してほしいと伝えたため、些細なことも意見として出してもらえた。

内容②

<交流の仕方>

意見交流する際には、KJ法を活用した。付箋に個人の意見を書いてもらい、それぞれ書き終わったら、それをグループ内で発表してもらったのだ。そうすることで、1人1人の意見を出来る限り、聞き漏らすことなく知ることが出来た。

また、付箋を貼る際にも、似た意見があれば、似た意見同士近くに付箋を貼るなど、視覚的にも分かりやすくすることで、それに関する意見・質問が、新しく出やすいようにした。



▲食堂関連に対する意見

成果

実際に、組合員の意見を聞き、職員に伝えることが出来た。また、話すテーマを絞ることによって、それぞれの改善点や継続してほしい点など、様々な意見を出し、総代同士でも交流できたことが何よりもよかったと思う。

課題

総代に数に対して、参加した総代がとても少ない。意見をもらえたとは言え、まだまだ多くの意見をくみ上げられていないため、次はどうすれば参加してもらえるのか、企画内容や、情宣・開催場所などを見直すべきであると考えている。

取組みを参考にする上で気をつけること

自大学の総代がどのような状況なのかを確認することが大切だと考える。なぜなら、大人数なら大人数の、積極的な総代が多いなら多いの、意見交流会の仕方があるからだ。

また、組合員と総代では何が違うのかも重視しながら、意見交流会を作るといいと思う。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組を組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

大阪教育大学生協同組合
専務理事：十川 学生委員会担当：山本
E-mail: daikyougakui@gmail.com



【事例集】

16

和歌山大学消費生協 生協意見交流会と関連した取り組み



活動の教訓ポイント

学習会や、ワークを通して
大学生協の本来の想いを伝えることができている。

活動概要

【日時】2019/06/24-25
【場所】大学会館生協レストラン
【対象】学生組合員（総代か否か問わず）
【内容】

生協のことを良く知らない組合員へ生協学習会と生協への意見や要望を出す交流会を行いました。また、自治会主催の学生大会にて、交流会参加の呼びかけと19年度総代会で議決したことを多くの学生に報告しました。



▲交流会全体の様子

企画背景 <大学生協を運営している実感を持ってほしい>

和大学生協の課題として、「日常的な組合員活動」と「総代との繋がり」がありました。特に総代会では、実出席率も低く、組合員の生の声が和大学生協に届いていないと言えます。そのため、**組合員自身が生協の運営に関われるという実感を持つことが、「日常的な組合員活動」への第1歩**だと考え、この交流会を実施しました。

アピールポイント <大学生協への理解を促す>

① 春セミ参加者による生協説明会

意見交流会を行う前に大学生協についての学習会を行いました。それを春セミナーに参加した1年生に行ってもらいました。春セミで感じた想いと勢いそのまま、皆で生協を作っていくんだというメッセージのある学習会となりました。

② 購買のPOP作り

交流会の最後に、購買にある好きなお菓子を選んでPOP作成を行いました。参加者全員が楽しく作成に取り掛かり、大学生協へ積極的に関わった経験を促すことができました。

③ 学生大会での総代会報告&意見交流会の宣伝

全学生対象の学生大会（自治会主催）の中に、生協学生委員会の時間を作っていただき、今年度の総代会の報告や組合員の役割を伝え、交流会への参加も促しました。

組合員の反応

学習会についての感想では、「**組合員の要望を汲み取って事業をすることに驚いた参加者**」が居て、組合員自身が運営していくという部分は伝わっていました。

交流会では、食堂で栄養バランスを考えて食事をしているので、もっとメニューを充実させてほしいという要望を持った組合員の他、**レシート抽選会やクリスマス企画など楽しい企画があったら、購買に行くと思う**という意見が寄せられました。



▲POP作成の様子
実際に購買で選び、食べながら作成

内容① <大学生協についての学習会>

「要望を出す前に大学生協という組織の性格を知ってもらう」という目的で実施しました。学習会のテーマは、「**みんなが組合員であり、みんなで盛り上げていこう!**」であり、内容としては、生協とコンビニの違い・組合員の3つの役割、大学生協の4つの使命を扱いました。

内容② <こんな生協にしたいワーク>

日頃利用していることや学習会で感じたことを基に、「**こういう生協にしたい**」という意見を付箋で出し合いました。また、ワークに入る前に、実際にどのような「組合員の声」が実現されるのが紹介しました。

内容③ <購買のPOP作成タイム>

生協に楽しく関わる経験をしてもらうために、購買の好きなお菓子を選んできてもらい、食べながらPOP作成を行いました。参加者皆が楽しく、目に留まるデザインで作成していました。そのPOPは現在も購買で使っています。



▲交流会で作り、購買で使われたPOP

成果

- 参加者数（運営を除く）1日目：2名、2日目：6名
- 購買の装飾
POP作成は運営側も含めて楽しく活動ができており、作成したPOP全て現在も購買の装飾として活用されています。
- 学生大会での説明機会
多くの現役生が参加している学生大会の場で、生協について説明する前例を作れたのは大きいので、今後も自治会と連携して、活用していきたいです。

課題

- 情報宣伝
役割分担が不十分だったため、SNSや店舗を使った宣伝を行えず、初日の参加者がとても少ない結果となりました。
- その後のアクション
今回いただいた意見は理事会で報告しましたが、その後の動きがあまりない状況なので、学生委員会だけでなく生協全体で動けるよう理事会での議論の場を考えていきたいです。

取組みを参考にする上で気をつけること

春セミの持ち帰りアウトプットを企画の生協学習会に持ってきましたが、1年生の状況などにもよると思うので、1年生の意志を確認しつつ、適宜フォローしながら行ったほうが良いかと思えます。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

和歌山大学消費生活協同組合
専務理事：栗山光一郎 学生委員会：佐々木直人
E-mail : wakayama.yagi@gmail.com

【事例集】
17

大阪市立大学生協 今日はHey!Say!ビアパーティ



活動の教訓ポイント 学内団体との協力で利用・参加への連鎖につながる

活動概要

【日時】2019/07/05
【場所】北食堂
【対象】組合員 & 当日来校者

【内容】その名の通り、ビール始め各種ドリンクやおつまみを提供し、同時にステージパフォーマンスを鑑賞してもらうことで楽しんでもらうイベント。

企画背景

<感謝を…>

大学生協は組合員、あるいは大学に親しみを持ってくださる人々によって成り立っています。普段から私たちを支えてくださっている方々に1年の感謝を伝えるために、組織部が生協だけでなく学内のさまざまな団体と協力して企画しています。

アピールポイント

<『今夜は平成!』>

組織部の恒例イベントとなっているビアパーティですが、毎回必ずコンセプトを設けています。決める時の基準として『①その年の流行・世相に沿っている②世代問わず楽しめる』この2点を重く据えています。このコンセプトを決めることによって、特製ドリンク・店内装飾・ステージ出演団体などイベント全体の構造が決まっていきます。今年は改元ということで、平成を振り返ることをコンセプトに完成させました。

組合員の反応

<もっとこうすれば…>

毎年、参加者に対してアンケートにご協力いただき、次の企画に活かすようにしています。「すごくおいしかったです。」「思ってたよりすごくよかったです。」「など、ビアを楽しんでいただけたという旨のコメントを多くいただきました。また一方で「酒の種類を増やしてほしい」「ステージマイクの音が少し大きい」などのご意見もいただき、より満足度を高められるヒントを得られました。



▲ビラ・ポスター



▲入口装飾



▲ドリンクカウンター



▲「あなたはどちら…?」

内容①

<特製ドリンク>

毎年、通常のドリンクに加え、組織部が独自に考案したオリジナルカクテルを提供しています。今年は平成の中高生だったころを思い出してもらおうということで、甘酸っぱさを表現することに重きを置きました。

さらに当日は、昨年大好評だったティラミスカクテルも一緒に人気対決という形で提供しました。

内容②

<ステージ>

学内の課外活動団体に協力を仰ぎ、ステージパフォーマンスに出演してもらいました。各団体に平成をテーマにした演技を披露してもらい、来場者の方々に楽しんでいただきました。

その一つとして、ほぼ毎年出演を依頼しているテコンドー部は、「平成」と書かれた板を回し蹴りで割るといった趣向を凝らした演武を披露し、観客を大いに盛り上げました。



▲令和に向かう回し蹴り

成果

出杯数目標は850杯であったのに対し、結果は956杯と、予想をはるかに上回りました。さらに今年は授業時間変更を受け営業時間が30分短縮されたことを考えると、大成功という言葉がふさわしいのではないのでしょうか（自画自賛）

課題

ビアパーティを冠しているためビール始めアルコールをメインで楽しんでもらうイベントであるのは確かなのですが、学内には一定数の未成年がいることも事実です。ソフトドリンクにもオリジナルメニューを取り込むなど、お酒が飲めない人がより楽しめる工夫が出来たと考えられます。

取組みを参考にする上で気をつけること

出杯数からもわかる通り、かなり大きなイベントです。その分、衛生面や安全面には普段よりも注意が必要ですし、取り扱うお金も桁が大きくなります。関わる職員さんをはじめとした大人の方たちとの相談を決して怠らずに企画を作り上げましょう。また当日実際に動くのはほとんどが学生であるため、確実な報連相を徹底させ、特にスタッフのみの参加の人とのコンタクトに支障が出ないように意識しましょう。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる

大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなでつくっていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

大阪市立大学生協同組合
専務理事：堀隆行 組織部：田邊貴大
E-mail : soshikibu@coop.osaka-cu.ac.jp



【事例集】

18

大阪樟蔭女子大学生協 GAKUCHO 企画



活動の教訓ポイント

大学生活をより良くしたい学生と学長と大学生協という同じ想いを持った人たちが一緒になって話す機会を学生委員が作り出しました。

活動概要

【日時】2019/10/29
【場所】高智館4階 454教室
【対象】組合員

【内容】
ご飯を食べながら学長に要望を伝えたり、質問をする。



▲当日の様子

企画背景

<お互いを知る>

- ・学長から、学生と関わりが薄いため、関わりを持てる企画を作ってほしいと要望があった
- ・学生も学長のことをよく知らない

アピールポイント

<参加したくなる工夫>

- ・可愛らしさと見やすさを兼ね備えたポスター
- ・学長の普段の仕事内容や、大学のために意識していることなど、あまり会う機会がない学長に質問することができる。また、学生からの要望も直接伝えることができる。



▲GAKUCHO企画のポスター

組合員の反応

<学生同士での交流>

直接学長とコミュニケーションをとる機会はないので、とても楽しんでいた。また他の学生が質問した内容や要望を聞いて盛り上がり、学生同士の交流も深めていた。



▲応募BOX

内容①

<応募の工夫>

応募BOXの側面にポケットを作り、その中に応募用紙を入れることにより、応募しやすくした。また、応募BOXの近くにポスターを貼ることによって少しでも組合員の目に留まりやすいように工夫した。

内容②

<質問前の雑談の時間>

事前に集めた質問や要望にこたえてもらう前に、ご飯を食べながら少し雑談をする時間を作った。学長も学生も、それぞれ学科やサークルの話をしたり、和やかな雰囲気をつくることができた。



▲雑談中の様子

成果

学生委員会から9人、応募者4人の参加でしたが少人数だったので1人1人学長とコミュニケーションと取ることができた。

課題

昼休みに実施したため、学生からの要望や質問で時間がいっぱいになってしまった。学長と雑談をする時間がもう少しあっても良いと感じた。

取組みを参考にする上で気をつけること

- 学長と頻りに連絡をとったり、担当者が直接学長と話して打ち合わせをする
- 応募にあった要望や質問をあらかじめ学長に知らせる

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(1) ともにつくる
大学生協の魅力を実感し、運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取組みを組合員みんなで作っていきましょう。
- 実現に向けて② 組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を増やしましょう。
- 実現に向けて③ 大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取組みをレベルアップさせましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

大阪樟蔭女子大学生生活協同組合
専務理事：菊浪 学生委員会blossom担当：太田

E-mail : shoin.blossom@gmail.com



ありたい姿

2

「安全・安心」

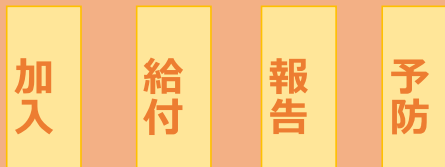
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

実現に向けて

1. 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、
組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
2. 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、
実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
3. 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・
企業といった組織と協同し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



たすけあいの想いを
広げる取り組み



他団体との連携で
専門的な知識

何事にもチャレンジ
できる組合員



【事例集】

19

富山県立大学生協射水キャンパス 健康店

活動の教訓ポイント

学祭という機会を活用し、泥酔ゴーグルや肌水分チェックなどの**体験・参加型の企画**をしていました。また同時に、病気や健康に関するポスターも掲示することで、多くの人が**健康や生活習慣に目を向けるためのきっかけづくり**ができていました。



活動概要

【日時】2019 10/26~10/27
【場所】富山県立大学
【対象】組合員、学祭を訪れた人

【内容】

多くの人が集まる学祭という場で、組合員はもちろん学祭を訪れた人にも自分自身の健康について再確認してもらう



▲健康店の受付の様子

企画背景

<乱れがちな健康状態を…>

一人暮らしで乱れがちな健康状態について考えるきっかけになってほしい。また、病気を未然に防ぐことの大切さを知ってほしい。

アピールポイント

<学祭の場を利用して…>

学祭という多くの人が集まる場で行うことで、多くの人に企画にかかわってもらうことができる。組合員だけでなく、学祭を訪れた人にも健康について考えてもらえる。

短時間で実施できるものも取り入れたので、気軽に参加してもらうことができる。



▲隣で一緒に行ったクレープ屋

組合員の反応

<老若男女多くの人に…>

多くの種類の健康チェックの道具を用意したので、年齢や性別を問わず多くの人に訪れてもらうことができた。グループで来てくれた人たちはそれぞれの結果を比較して、楽しみながら健康チェックをしてもらうことができた。



▲健康店に掲示したポスターを見る参加者

内容①

<お酒との付き合い方を考えよう>

大学生になり、飲み会などの機会なども増えてきます。お酒との付き合い方を再確認してほしいということで、自分自身のお酒の強さがわかるアルコールパッチテストと泥酔した時の視界が体験できる泥酔ゴーグル体験を行った。アルコールパッチテストは人気があり、お酒の強さに関心がある人が多いということが分かった。



▲泥酔ゴーグルを体験する参加者

内容②

<あなたのお肌は潤ってますか？>

これから乾燥する時期ということで、肌の水分量分かる肌水分計を行った。短時間でできるといことで気軽に多くの人に体験してもらうことができた。また、肌水分計は女性からの人気が高かった。



▲肌水分計を体験する参加者

成果

健康店を体験してもらった人に自分の健康について再確認してもらうきっかけを作ることができた。いろいろな人と関ることができたので、学生委員会としての宣伝もすることができた。

課題

体組成計を健康店の一つとして取り入れたが、学生委員内で、使い方や結果の解説が十分でなかったため、事前準備をしっかりと行いたい。また、アルコールパッチの数が途中で足りなくなってしまったので、来年度以降個数の修正を行いたい。

取組みを参考にすることで気をつけること

多くの人に体験してもらえるように、いろいろな道具を準備すること。一つ一つの道具の結果についてしっかり解説できるようにすること。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしている組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協同し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

富山県立大学生生活協同組合
専務理事：神谷 学生委員会委員長：武藤

E-mail : t815071@st.pu-toyama.ac.jp



福井大学生協 TAC(Travel Accident Check)

活動の教訓ポイント

組合員が旅行を楽しむことができるように、情報量を絞ったり手軽さを重視したりすることで、必要な時に必要な情報を的確に伝えることができていたと思います。また、活動そのものが「共済」を目的化せず、安心して生活するための手段として、組合員に紹介することができている点も、原点であり重要な点であると思います。

活動概要

【日時】年間を通して行う
【場所】福井大学 Shop満天
【対象】生協で旅行の申し込みを行う組合員

【内容】旅行に行く人を対象に、旅の前にリスクを知ってもらうとともに、TACカードを配布し共済の加入状況を確認してもらうことで、旅を楽しんでもらえるようにする。



企画背景

<旅を楽しんでもらいたい！>

旅行の際は様々なアクシデントが起こりうる。万が一のことが起こっても対処できるように出発前に自身の保障について確認してもらいたいと思いました。。また生協のカウンターで旅行の手続きができることは一部の組合員にしか知られていないので、同時に宣伝もできるといいと考えました。

アピールポイント

<手軽さを意識しました>

旅を楽しむ上で知ってほしいポイントはたくさんありますが今回は汎用性を考え、情報を基本情報、加入状況、給付申請方法に絞り込んで考えました。また、旅行先に持って行ってもらうやすくするため、財布に入るカードのサイズで作りました。カードの製作は、カードのデザイン、載せる情報など基本的な部分は学生側で考え、修正点を職員さんに指摘してもらった形をとりました。



▲カードのサイズ
(折たたみ時)



▲旅行カウンター

組合員の反応

<動き始めはこれから>

まだ作って間もないカードなので、詳しい反応などはまだ分かっていません。長期休み前や卒業旅行のシーズンに合わせてうまく宣伝を進めていき、広められたらと考えています。また、イベントの際にも配れるようにしていきたいです。

あなたは以下の保障制度に加入しています

- 生命共済(自身のけがや病気を保障します)
- 学生賠償責任保険(他人に対する賠償を保障します)
 - ローン暮らし特約有り(住まい等を破り壊すリスクに備える保険です)
- 就学費用保障保険(扶養者のもしものための保障です)
- あんしんサポート24(海外旅行先での賠償などを保障します)

あなたは共済に加入していません

自分の入っている保険を確認しておいてください。

▲加入状況のチェック

内容①

<加入状況を確認してもらう>

旅行前にどのような保険に入っているか確認してもらうため、左図のような加入しているものにチェックを入れる仕組みにしています。加入状況が分からない場合の確認は店舗の2階にあるカウンターで行うことができます。

宿泊先: _____
TEL: _____

緊急連絡先: _____
TEL: _____

常備薬: _____

その他(アレルギーなど) _____

▲基本情報

内容②

<基本情報も押さえる>

旅行者向けにおすすめしている「あんしんサポート24」のチェック項目も設けています。またもしものことがあった時のため、大学生協の共済・保険サポートダイヤルとあんしんサポート24の問い合わせ先を載せています。また、宿泊先の連絡先や常備薬など、旅行前に確認しておきたいことをメモできるようにもしています。

成果

誰にでも渡すことができるカードとしての基礎レイアウトを作ることができた点だと思います。また、旅を楽しんでもらうという点から店舗活動と共済活動をつなげるきっかけを作った点もよかったと思います。まだまだ足りないカードなので、これから修正を行いよりよいものにしていきます。

課題

旅行カウンターの認知度が低いことから、カードがあまり普及していません。また、加入の状況を個人で確認してもらう形になっているため、カードをもらっても確認してもらえないケースも考えられます。手続きが煩雑にならない範囲で加入状況を知ってもらえるようにカードの作りや対応を工夫する必要があると思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

カードなどの制作物は、内容よりもいかに存在を知ってもらい普及させるかを考えるのに時間がかかります。またカードを渡すのがパートさんや職員さんの場合、手続きに時間がかからないように対応を考える必要があります。また、活動を「共済」に落とし込まず、日常的な視点から活動を考えることも大切だと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

福井大学生協同組合
専務理事：磯崎 学生委員会共済担当：林
E-mail : sosen@fu-coop.or.jp

同志社生協今出川キャンパス おいでよ、相談の森 ～KA・RA・DA大丈夫？～

活動の教訓ポイント

データから急性アルコール中毒の事例が多いことを分析し、予防だけでなく対応法にも目を向けた点や加入のチェックも行い組合員に知らせることが出来た。



活動概要

【日時】10月30日、31日
【場所】良心館食堂
【対象】全組合員
【内容】アルコールパッチテストや栄養士の相談会などのコンテンツへの参加や、食中毒ちょっぴきにボード掲示により、健康意識を持ち直してもらった。また、食堂小鉢の栄養紹介のピラ配布や、食堂メニューの組み合わせ提案し、バランスのとれた食事を取ってもらう。



▲食生活相談会の様子

企画背景

大学生だからこそその現状を見逃さない！

体組成などにより自分の体の状態を知り、栄養士による相談会や参加特典である小鉢無料券、食堂メニューの組合せ提案により食事を見直してもらったと共に、学生だからこそ遭遇するカフェインやお酒の危険性を知ってより予防してもらうことを目的として取り組みました。

アピールポイント

様々な分野とのコラボ企画！

今回の食生活相談会では、元々中心となって企画していた共済ルームはもちろん、食に関する食堂コンビニルーム、肌チェックの分野ではファッション美容を担当するfanfunルームも巻き込んだ企画となりました。そのことにより、それぞれのコンテンツを、担当ルームだからこそできたクオリティで、且つ共済ルームだけでは思いつかなかったものを作ることができました。また、たくさんのルームを巻き込み、GI全体で取り組むことで、GI内での食相の認識共有はもちろんのこと、団結することができたと思います。

ほかにも、管理栄養士や保健センターの方とも連携し、協力して頂くことでより確かな情報を伝えることができました。



▲fanfunルームによる肌チェックとピラ

組合員の反応

自身の健康状態に気づく

体験型ブースがたくさんあり、組合員も楽しみながら食や健康について考え直せていたと思います。また、普段は気にしていないが、身近に潜む危険である食中毒やカフェインについても、掲示することで再認識してもらっていました。

今回数年ぶりの取り組みだが、自分が共済加入をしているかチェックできるコーナーを設けた事により、実は自分も共済に加入していたんだと初めてそこで知る組合員もいました。

体組成計をすることで見た目は普通だが、内臓脂肪が多い隠れ肥満だとこの食相によって気づく組合員も多かったです。



▲栄養士さんによる相談会



▲食堂小鉢に含まれる栄養紹介ピラ

内容①

食堂小鉢の利用促進！

食堂で提供している小鉢の栄養素紹介のピラを配布すると共に、食生活相談会のブースをまわってくれた方へ小鉢無料券配布をすることで、1回小鉢を手にとってもらえることができ、今後も小鉢を利用するきっかけ作りになります。栄養素について管理栄養士に聞いて、内容を考えたので確かな情報を載せることができました。また生協書籍店での配布や、Twitterでの配信により、参加してもらえなかった方にも伝えることができたと思います。

内容②

ちょっぴきにボード掲示

身近に潜んでいるけれど、あまり危険を意識できていないと感じた、食の安全について、カフェインについて、お酒に酔ったときの対処をテーマとして取り上げました。一人暮らしをしているとどうしても賞味・消費期限を切らしてしまう現状や、コーヒーやエナジードリンクをたくさん飲む大学生が多い現状、大学生になりお酒を飲む機会が増え、急性アルコール中毒による共済給付事例があったということに基づいてテーマ選びをすることができたので組合員に必要な情報を提供できたのではないかと思います。

また、食相のブースの1つにすることで、見るきっかけにでき、直接学生委員が組合員に伝えることができました。

成果

組合員の現状から必要な情報を考え、確かな情報を提供することができました。また、次の行動につながるきっかけを食相で提供できたので、今後に活きる活動をすることができました。

今回数年ぶりに共済加入チェックを取り入れることができ、共済給付申請忘れを給付ボード以外の形で扱い、加入の有無を伝えることで、根本的な部分の予防することができたことも成果だと思います。



▲酔ったときの対処法ちょっぴきにピラ

課題

共済カードを利用したり、共済推進員証を共済ルームメンバーだけでも取得しておけば、共済加入チェックでより深い説明をすることができたなと思います。また、参加者の人数を伸ばすため食堂利用者数の分析などをし、利用の多い曜日に開催するようにしたいと思いました。運動不足や、隠れ肥満が多いということが今回分かったので、それを今後の活動に活かしていきたいと思っています。

取組みを参考にする上で気をつけること

それぞれのブースで参加者に対応する必要があるため、1人1人が自分の担当するブースをきちんと理解することが大事です。なので、予め部会などで機材の使い方を共有したり、マニュアルをしっかり作り、事前に読んで把握してもらったり、シフトに入る前に確認をすることが大切だと思います。また、共済推進員証がないとできないことや、個人情報扱いには注意が必要だと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

同志社生活協同組合
専務理事：堂免 学生委員会委員長：包末
E-mail: info@doshisha-coop.com

【事例集】

22

京都教育大学生協 共済学習会



活動の教訓ポイント

連帯を活用し、学びあいの機会を設けた取り組み。自大学に目を向け、自分たちの学びあいにとどまるのではなく、組合員にまで広げる活動ができています。

活動概要

- 【日時】 2019/9/10
- 【場所】 京都教育大学 生協食堂
- 【対象】 生協学生委員会
- 【内容】 共済について学ぶ
共済ボードを作る
全国共済セミナー共有



▲共済学習会スタート!!

企画背景

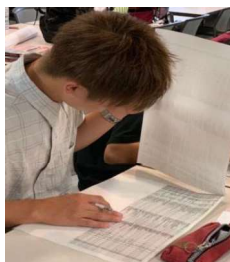
<共済って説明できる?>

京都教育大学生協の現状が、年々共済への加入率が減少している傾向にあることがわかった。その要因として、まず共済の存在を知らない組合員が多いことが挙げられた。そこで、まずは学生委員の中で、共済について知るために学習会を行った。

アピールポイント

<自大学のための共済>

自大学の給付事例を分析することによって、組合員の現状を知ることができた。そこから、京教に合った京教のための共済ボードを作成することができた。なにを自大学の組合員に伝えればいいのか明確になった。それによって、学生委員の一人一人が、共通意識をもってこれからの共済活動に取り組むことができるようになった。



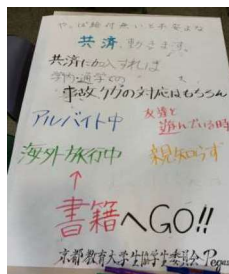
▲資料を見ている様子

学生委員の反応

<共済を学びたい>

自大学かつ学生委員会内で行ったことにより、普段の部会の延長線上といった感じで気軽に参加しやすかった。セミナーに行ったことがない学生委員に対してセミナーの雰囲気味わってもらえた。

今まで、共済についての知識が少ないことによって、知らず知らずのうちに共済を遠いものだと思っていたが、今回の学習会によって共済を身近なものを感じることができた。それによって、学生委員会内の共済を学ぶモチベーションが向上した。



▲作成した共済ボード



▲1回生からの全共の共有

内容①

<全国共済セミナーの共有>

今回、私たちの学生委員会内から1回生2人に全国共済セミナーに参加してもらった。セミナーで学んだことだけでなく自分たちの意見も述べてくれた。

そして、これから自大学でどうなっていきたいかという意思が伝わり全体のモチベーションを上げることができた。

内容②

<共済ボードを作る>

自大学の過去4年分の給付事例を分析し、そこから自大学の特徴を知る。その特徴を基にしてどの事例を共済ボードに活用するのかの選定を行った。イラストや配色を工夫し一人でも多くの組合員に共済について知ってもらえるように頑張った。



▲共済ボードづくり

展望

京教では、部活中の怪我が多いことが分かった。組合員の現状を学生委員内で共有することができた。自大学の組合員のためにしなければならないことが再認識することができた。

今後の活動で、すべての学生委員が共済について説明ができることを目標に学習会を継続していきたい。

課題

ブロックの方と学生委員会の日程調整が難しく参加人数が少なかった。もっと、早い時期から日程を決めておくべきだった。

今回、ブロックの方だけで内容を決められたので、次回からはもっと京教に寄り添った内容作りのために共に内容を構成していきたい。

取組みを参考にする上で気をつけること

1回で終わるのではなく継続的に続けていくのが重要だ。そして、今回は学習会の内容をブロックの共済担当や京滋・奈良エリア共済推進委員で考えたが、学生委員会全体でも考えることが大事だ。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしている組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

京都教育大学生協同組合
専務理事：杉江 学生委員会委員長：金納
E-mail : y.sugie@kh.u-coop.net

【事例集】

23

奈良女子大学生協 Beauty Health Lab(BHL)

活動の教訓ポイント

栄養士による食生活相談をただ行なうだけではなく、組合員の現状を知
る機会とし、次の取り組みにつなげることができました。企画後に栄養
士から組合員の現状を聞きとり、その現状に即した冊子やポスター作り
を行ないました。



活動概要

【日時】2019/06/11(火) .12(水) 14:00~16:30
【場所】食堂
【対象】奈良女子大生協組合員全員

【内容】組合員が栄養士さんとの食生活相談や、体組成な
どのいろいろな項目の測定を行い、自分の健康状態を知っ
てもらう。その他にポスター掲示、冊子配布を行う。
当日は組合員120名が参加しました。



▲当日の様子

企画背景

健康状態を知り、健康への意識を高めてほしい！

奈良女子大学では朝ごはんを食べない組合員が多い、下宿生の割合が高く食生活が乱れがちである、無理な食事制限など、組合員の健康に関して女子大ならではの問題がありました。自分の健康状態を知ることで普段の生活を見直すきっかけを作りたい、また体調を崩しやすい季節に向けて体調管理への意識を高めてほしいという想いから実施しました。

アピールポイント

体験ブース、事後活動が充実！

体組成、血圧、血管年齢、ヘモグロビン量の測定、お肌
チェック、アルコールパッチテスト、食生活相談のブース
に加え、学生委員が考えた野菜にあう調味料の組み合わせ
に、実際にキャベツをディップして試食してもらったブース
も設置しました。ディップソースの人気投票も行いました。

事後活動として、簡単なレシピや1日のモデルメニューな
どをまとめて食堂や購買のレジ横に置きました。またカル
シウム摂取や運動することを呼びかけるポスターを食堂に
掲示しました。とても評判がよく、参考になったという組合
員の声をたくさん聞きました。



▲購買に置いた冊子

組合員の反応

健康への意識UP！

参加者からは、「自分の身体について知れてよかつた。」「改めて生活習慣を見直そうと思った。」「健康的な生活への意識が高まった。」などの感想がありました。

参加者の様子は、今まで気づかなかった自分の身体の問題点を知って驚いている様子も見られました。組合員が普段の生活を見直すきっかけになりました。また野菜にあうソースの試食では「おいしい！」という反応がたくさん見られ、楽しんでくれている様子でした。



▲キャベツをディップ!!

内容① 自分の身体を知る

参加者に「体組成計」、「血圧測定」、「ヘモグロビン測定」、「お肌チェック」、「アルコールパッチテスト」、栄養士相談、「野菜のディップソース試食ブース」を回ってもらい、参加者自身の身体の状態や、体に良い野菜をおいしく食べる方法を知ってもらいました。

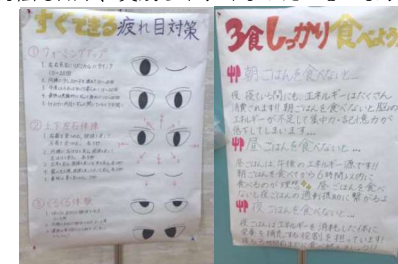
また測定結果から、普段の生活をどのように改善すればよいのか学生委員が伝えることによって身体の状態だけでなくその改善方法も知り、実践しやすくなったと思います。



▲血管年齢、血圧、栄養士相談のブース

内容② すぐ実践できる掲示

当日会場を仕切るパーティーに、事後活動とは別にポスターを掲示しました。欠食の影響を示して3食きちんと食べることの大切さを訴えかけるものや、猫背・ストレートネックの直し方、疲れ目対策などに関するポスターを掲示することでその場ですぐに実践できる工夫をしました。その結果各ブースに並んでいる時間に実践してもらったり、ポスターの写真を撮って家に帰ってからも実践してもらうことができ、継続的に意識して食生活に気を付けたりストレッチをするこにつながりました。



▲当日掲示したポスターの一部

成果

自分の健康状態やその改善方法を知り「食生活に気を付けたい」「運動習慣をつけたい」などの声がありました。この企画で参加者に健康を意識してもらったことができたのではないかと思います。

今、奈良女子大学の組合員の健康のため何を伝えるべきなのか、どうしたら実践しやすくなるのかを考えて企画をしたことがこのような成果につながったと言えます。

課題

この企画に1度来たことがあるため今回は来ない、という組合員もいました。そのため定期的に健康チェックをするためのメリットや、組合員にいつも健康でいてほしい、健康への意識を高めてほしいという想いを参加者に伝える必要がありそうです。またブースが空いているときでも参加者にポスターを見てもらえるような工夫が必要だと感じました。

取組みを参考にする上で気をつけること

この取り組みの中では事後活動を参考にしてくださいとうれしいです。冊子で組合員が知っているとうれしい情報を載せたり、ポスターを目に付く場所に掲示したりいろんな工夫をしてみてください。参考にする上では自大学の現状やニーズに沿って考えてほしいです。当たり前のことですが、想いを実現するには絶対に必要なことなのでぜひ自大学の組合員の気持ちになって考えてみてください。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

奈良女子大学生協同組合
専務理事：加藤 学生委員会 担当：岩村
E-mail : saa_iwamura@cc.nara-wu.ac.jp



[事例集]

24

阪南大学生協 共済祭



活動の教訓ポイント 気軽な参加を身近な健康を考えて もらうきっかけに

活動概要

【日時】 2019.10/1~10/3
【場所】 3号館1階
【対象】 阪南大学生協の組合員
【内容】

自分の体や健康について知ってもらうために、アルコールパッチテスト、体組成計、食生活相談を実施した。さらに、普段使っている自転車を見つめなおしてもらうために、自転車点検を実施した。



▲実施時の様子

企画背景 <組合員の特徴をみつけて>

- ・大学生になって、外食が多くなり、食生活が乱れがちになっている組合員が多く、自分の食生活についてあまり興味がない人が多い。
- ・アルコール摂取に対して、深く考えていない組合員が多い。

アピールポイント <成果として見えた組合員参加>

例年とは少し手法を変えて実施した、今年の共済祭。実施時期を学期初めにしたことにより、時間のある組合員にアプローチし、多くの組合員参加を得た点簡単にできるアルコールパッチテストから参加してもらい、ほかの項目にも興味を持ってもらうという点。



▲ブースでの様子

組合員の反応 <自分の食生活の気づき>

今年度は多くの組合員のかたに食生活相談会に参加してもらうことができました。栄養士さんと会話をして、自分の食生活を見直している様子が多く見られたと思います。多くの組合員が、これからの生活に反映してくれるのではないかと感じるほど、熱心に話している様子が見られました。



▲自転車点検



▲ブースの設置状況

内容① <アルコールパッチテスト>

「貼って、待つだけです。」この言葉に多くの組合員がブースを訪れてくれました。自分がどれくらい飲酒できるのか気になっている組合員はたくさんおり、パンフレットを渡して説明することで、自分のこれからの飲酒について考えてもらえたと思います。



▲ブースの設置状況

内容② <食生活相談>

夏休み明けということもあり、授業終わりに時間のある組合員の方がたくさん参加してくれました。自分の普段の食生活について話し、これからの食生活について話すことで、『食べる』ということも意識してもらったのではないのでしょうか。満足してブースを出る姿がたくさん見られました。

成果

昨年度までよりも質の高い組合員参加がありました。コンテンツの数を絞ることで、組合員の方に何をしているかが伝わりやすかったようで、これもあれもというように参加をしてもらえました。

課題

コンテンツの内容をもう少し増やしたり、参加しやすいものを入れてみたりしてもよかったかと思います。また、宣伝方法をもう少し工夫してみたいと感じました。

取組みを参考にする上で気をつけること

目的に合った活動にするためのコンテンツを用意する必要があると思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心
安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしている組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

阪南大学生協同組合
専務理事：田村 学生委員会：岡
E-mail : hannanuniv.gi@gmail.com

[事例集]

25

大阪千代田短期大学生協 学 生 ラ ン チ

活動の教訓ポイント

学生の将来を考え、学生のうちだからこそ、考えてほしいことを大学生協として実現できている。

活動概要

- 【日時】 2019/5/16 から開始
- 【場所】 大阪千代田短期大学生協 食堂
- 【対象】 大阪千代田短期大学の学生
- 【内容】

大学側からの働きかけもあり、試行的ではあるが週に2回無料でランチを提供している。メニューは2種類用意して、バランスの取れた食事を学生にとってほしいという気持ちから実施している。



▲食堂の様子

企画背景

<学生の将来を見据えて>

大阪千代田短期大学には幼児教育コースと保育福祉教養コースが存在し、どちらのコースにも食事は重要な意味をもつ。しかし学生は昼食を抜いてしまう、バランスの良い食事をとることができていない現状があったので、今のうちに食生活を考えてほしいという想いから、まずは昼食をとってもらうことから始めた。

アピールポイント

<“ちよたんランチ”の誕生>

大阪千代田短大に通っている学生は将来、食が欠かせない職業（幼児教育関係、福祉関係）に就くことから、学生時代にしっかりと食について考えてほしいという大学の想いから始まった。

このランチの愛称は組合員から募集した。「千代田短期大学」の略称である「ちよたん」にランチをつけて、「ちよたんランチ」という名称に決定した。



▲実際のメニュー

組合員の反応

<食堂に笑顔があふれる>

短大周辺にはお店がなく、事前に買ってきたり、お弁当を持ってきたりという学生が多かった。しかしこの取り組みを実施したことによって、食堂にくる学生が増えた。

また食堂でちよたんランチを食べる学生はみんな笑顔で、実際に「今後も続けてほしい」という嬉しいひとことカードも寄せられた。今回は試行的に実施したが、今後どうするかを考えていきたい。



▲笑顔にあふれる学生

内容①

<実際のメニュー>



▲実際に提供されたメニュー

メニューはバランスの取れたもの、そして学生に人気のあるメニューを中心に構成している。一汁三菜をしっかりとることで、午後の授業もしっかりと集中して受講できるだけでなく、自分の食生活をただ効果にも繋がっていることを願っている。

内容②

<コミュニティづくり>

お昼ご飯の時間に多くの人が食堂に集結し、同じメニューを食べる時間がこの取り組みによって誕生した。すると食堂が活気にあふれる空間になった。

笑顔いっぱいの学生の姿は大学の魅力づくりにもなるのではないと思う。だからこそしっかりと大学と協力して、大学と大学生協と一緒に食を通してコミュニティづくりを実現できた。



▲食堂で会話がはずむ様子

成果

- ✓ 学生がきちんとバランスのとれた昼食をとる習慣づくりに繋がった
- ✓ 大学生協の店舗を1つのコミュニティの場になった
- ✓ 大学との連携によって実現した

課題

- ✓ 現在は試行中なので、今後に向けて継続させていくかは考えていかなければならない
- ✓ 食について考えるきっかけに繋がったかどうかは不明

取組みを参考にする上で気をつけること

「この取り組みは小規模だからできたんだ」と思うのではなく、大学で生活している学生の将来を考え、今の学生時代だからこそ考えてほしいことにしっかりと大学生協として取り組んでいる部分を参考にしてもらいたい。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協同し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

関西北陸ブロック事務局
担当職員：林 担当学生事務局：朝日奈
E-mail : t-hayashi@u-coop.net



【事例集】

26

関西学院大学生協 生協祭・健康フェスタ

活動の教訓ポイント 組合員自身の健康状態について改めて 考える機会を提供できた



活動概要

【日時】2019/10/16, 17 12:30~15:30
【場所】関学上ヶ原キャンパス生協イベントルーム
【対象】組合員、大学職員、地域の方々

【内容】
食生活相談、アルコールパッチテスト、タバコCO濃度測定、骨密度、献立組み合わせ体験、ヘモグロビン量測定、体組成測定などのブースをスタンプラリー形式で回り、景品として野菜ジュースをGETしてもらいました。

企画背景

<自分の体について知ってもらおう>

- ・自身の健康状態に関心のない組合員が多い
- ・健康をチェックする機会自体が少ない
- ・共済の存在を知らない組合員がいる

アピールポイント

<スタンプラリー形式>

できるだけ多くのブースを回って健康チェックをしてもらうため、スタンプラリー形式にしました。クイズと共済加入チェックを含めた9つのうち6つのスタンプを集めると景品がもらえるようにしたこと、多くの参加者がほとんどすべてのブースを回っていました。また、景品をTropicana Essentialsシリーズにしたことで、食生活相談などのブースと絡めて意味のあるものを渡すことができました。共済加入チェックもその場でしてもらえたようにしたこと、共済の4本柱のうち、加入を促すことができました。

組合員の反応

<健康について考えられた>

組合員からは、「普段は気にしない自分の体のことや、健康について考える機会になった。」「献立組み合わせ体験では、自分では栄養バランスが完璧だと思ったのに塩分が多すぎたり、野菜が少なかったり、普段の食事の改善点が分かってよかった。」「アルコールパッチテストで自分のお酒耐性がわかった。」などの感想をいただきました。

健康フェスタ ブース説明

献立組み合わせ体験
あなたの選んだ献立、栄養バランスは正しいか？

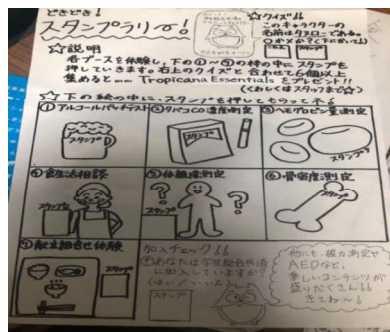
アルコールパッチテスト
簡単なテストで、自分のアルコール耐性をチェック！

体組成測定
自分の体内がどうなっているのかを知ろう！

骨密度測定
健康の基本、ホネ。あなたの骨は健康？それとも... ※17日のみ実施

... などなど、他にもたくさんのブースがあります！ぜひ来てね！

▲デジタルサイネージを使った情宣



▲スタンプラリー

健康フェスタ 2019

日時：10月16日(水)、17日(木)
12:30~15:30 (15:00受付終了)

場所：生協イベントルーム (教科書販売のところに)

ブースを回って Tropicana Essentials をゲットしよう！



内容②

<食生活相談>

参加者の普段の食生活について、管理栄養士さんからアドバイスをもらえる貴重な機会を作ることができました。今年から献立組み合わせ体験を新しく行ったことで、昨年以前よりも内容の濃いアドバイスすることができました。また、今年は食生活にフォーカスを当てた健康フェスタになりました。

成果

楽しみながら自分の体や健康について考える機会を提供できました。関学生協祭のほかのブースよりも開催時間が短かったが、95名の人が参加してもらえました。献立組み合わせ体験も好評だったので来年以降も継続できたらいいと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

この企画は学生委員だけでなく、保健館や管理栄養士の方との協力と連携が必須になるので、まめな連絡や打ち合わせが不可欠です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実感のもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実感をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

関西学院大学生協同組合
専務理事：池上正寿 学生委員会担当：河端

E-mail：2019kggi@gmail.com

神戸市外国語大学消費生協 初夏の健康チェック

活動の教訓ポイント

楽しみつつ健康を見つめられる企画に加えて、引き続き健康を意識できる工夫ができています。



活動概要

【日時】2019/06/26,6/27
【場所】神戸市外国語大学 学生会館
【対象】同大学の組合員全員

【内容】健康チェックや栄養士さんへの相談ができるブースをいくつか設け、参加した組合員が自分の生活習慣を見直してもらうことを目的とした。GIメンバーが作った健康情報に関する冊子も同時に配布した。2日間で137人の組合員が参加した。



▲肌年齢チェックを行う参加者

企画背景

＜自分の健康状態を自覚・改善する＞

新学期から2~3か月経ち、新しい生活に慣れてきた頃から、自身の健康に対する配慮が不足し生活習慣が乱れる傾向がある。この企画を通して自身の健康状態や、また人によっては生活習慣が乱れていることを自覚してもらい、組合員にその改善に努める最初のきっかけをつくってもらうために企画した。

アピールポイント

＜多種多様なブースと冊子＞

昨年度に引き続き、今年度も2日間開催・新しく加えた体脂肪測定に続くバラエティ豊かなブースを用意することでより多くの組合員に興味を持ってもらい、前年度よりも多くの組合員が参加してくれた。さらに、健康に関する情報がぎっしりと詰まったGI手製の冊子も同時に配布し、本企画終了後も参加者が冊子を読むことで引き続き健康に配慮してもらえるよう取り組んだ。

また、ブースを巡るともらえるシールを貯めた参加者には健康に配慮したお菓子を贈呈し、最後まで参加者に楽しんでもらえるような企画にした。

組合員の反応

＜もっと健康に気を付けたい＞

本企画は友人と一緒に参加したという人が多く、さらに「知り合いからGIがこの企画をやっているという話を聞いたので参加した」という参加者もいた。また、今回参加した一部の人に感想を聞いてみたところ、「肌年齢チェックでは自分が思っていたよりも良くない数値が出て焦った」「これを機に健康に気を配っていききたい」といった声があった。



▲開催時の様子



▲参加者にアドバイスするGIメンバー



▲肌年齢チェックの順番待ちの様子

内容②

＜GI特製小冊子の配布＞

今回参加してくれた人全員に、GI手製の健康に関する情報が詰まった小冊子を配布した。この冊子には食生活のアドバイスや一人暮らしをしている人向けへの自炊の提案、食堂のおすすめメニュー、さらにこれから始まる夏に向けて食中毒の予防や熱中症対策など、多種多様なページを盛り込んだ。また、目次に英語訳も添え、外大らしさも演出した。本企画に参加した後この小冊子を読み返してもらうことで、継続して健康への配慮ができるよう、誰が読んでも分かりやすい内容になるように制作することを心がけた。



▲小冊子の表紙と一部ページ

成果

2日間の開催で合計137人の組合員に参加してもらった。学生だけでなく、職員さんなども参加して頂き、非常に多くの人に来てもらえる結果となった。また、一部の参加者から「来年もやってほしい」といった嬉しい声を聞くことができた。参加者が終始楽しみながら自分の健康状態を知ることができ、これを機に健康に気を遣う組合員が増えてくれれば御の字である。

課題

外部から来て頂いた栄養士さんへの時間連絡がうまくできなかった部分があり、やや早めに来られるという事態が起きたので、これに限らず全ての面において些細なことでも連絡を徹底しなければならぬと痛感した。
また、SNSでの宣伝ももう少し工夫することができたら、さらに参加者が増えたのではないかといった意見も出た。

取組みを参考にする上で気をつけること

参加者にアドバイスできる程度の基本的な知識を所有しておけば、より一層近い距離で参加者と交流ができる。他には、機材類は準備する前に写真でその様子を撮影しておく、スムーズな片付けができる。また、授業のコマの関係上、人数を考慮した柔軟なシフト制作が必須。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸市外国語大学消費生活協同組合
専務理事：衛藤昭二 学生委員長：出口愛乃
E-mail : kcuafs.gi2015@gmail.com

[事例集]

28

神戸親和女子大学生協 美のスキルアップ会



活動の教訓ポイント

女子大という大学の特徴を生かした企画づくりや、
様々な角度から組合員に健康や食生活について考えて
もらう機会を提供出来ている点。

活動概要

【日時】2019/10/21 10:30~14:30
【場所】学生会館B1 ラウンジ
【対象】神戸親和女子大学生

【内容】食生活相談や骨密度測定などの健康チェックを通して自分の体の状態を把握し、健康管理につなげてもらうというイベントです。



▲集合写真

企画背景

<「美」と結びつけて自身の健康を見直してほしい>

夏休み明けで乱れがちな生活を見直してほしいという思いで2017年から毎年開催しています。女子大生に興味を持ってもらいやすいよう「美のスキルアップ」というテーマで、普段の生活について考えてもらえるよう企画しました。

アピールポイント

<食生活相談会にオリジナル要素をプラス>

従来の食生活相談会の内容に加えて、他大学の事例も参考にしながらオリジナルの企画を実施しました。ゲーム感覚で運動してもらうための「万歩計フリフリチェック」、自分で健康状態を把握してもらうための「美のスキルアップセルフチェックシート」など、好評をいただきました。また、「大学生協牛乳・コーヒーの試飲会」を同時開催するなど、参加しやすく楽しいイベントになるよう工夫しました。



▲アルコールパッチテスト実施の様子

組合員の反応

<健康状態を把握できた！>

実施したアンケートの感想から、肌状態や骨密度、アルコール耐性などの結果に一喜一憂する様子がかがえました。今回で初めて自分の健康状態について把握した方が多かったようです。この結果から自分の改善点を知り、これからの生活を見直そうとする声が見られました。健康に対する意識が高まったようでした。

特にアルコールパッチテストが人気で、97名の方に参加していただきました。



▲全体の雰囲気



▲たくさん参加してくれました

内容①

<健康チェック企画>

メインの企画として、食生活相談会を軸とした健康チェックのブースを設けました。
オリジナルの企画として「万歩計フリフリゲーム」と題し、万歩計を後ろ手に2つ持ち20秒間に何回振ることができるか、参加者でランキングをつけて競ってもらいました。ゲーム感覚で参加してもらい、運動不足を実感してもらう機会が作れました。

内容②

<大学生協牛乳試飲会>

同時に、大学生協牛乳・コーヒーの試飲会も行いました。大山訪問研修についてまとめたボードも一緒に設置していたので、大山の牛乳が新鮮で安全なものだということを伝えることができました。

学生委員の活動を知ってもらい良い機会になりました。購買でもアピールを行い、大学生協牛乳の売り上げ促進にも繋がったそうです。



▲大山牛乳試飲会の様子

成果

学生が参加しやすい企画を実施することで昨年度よりも積極的に参加してくれる学生が増えました。学生が自分の生活について見直す機会になり、健康に対する意識が高めることができました。

また、学生委員の活動を伝えることができ、認知度アップにつながりました。

課題

一部参加が少ない企画があり、アンケートでしか参加者を把握することができなかったため、全体の参加人数の把握のために、シールを張ってもらう、役割分担を決めて自分たちで数えるなど対策が必要だと思いました。

アンケートの結果、通りすがりでイベントを知った方が多く、情宣方法に課題があると感じたので、早めに計画することでもっと大々的に告知できるようにしたいです。

学生委員同士の情報共有や準備不足が目立ったと思います。

取組みを参考にする上で気をつけること

改善点を通して、ブースごとに役割分担することでスムーズに活動することができると思いました。学生が楽しめる企画を考えることで参加しやすい企画になると思えました。このように学生委員と組合員ともしっかりと交流できる機会が増えれば、学生委員の認知に繋がるのではないのでしょうか。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、
健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸親和女子大学生活協同組合
専務理事：坂本 安広 学生委員会担当：黒岩

E-mail : gi_shinwa@yahoo.co.jp

[事例集]

29

神戸高専生協 スポーツ大会での給水活動

活動の教訓ポイント

開催を学内イベントに合わせ、他団体と協力することで多くの組合員の参加につながりました◎



活動概要

【日時】2019/9/26(水)~9/27(木)

【場所】神戸高専

【対象】神戸高専の組合員

【内容】

神戸高専で毎年行われるスポーツ大会での熱中症対策としてスポーツドリンクを無償で提供している。



▲給水所の風景1

企画背景

熱中症に負けるな！

神戸高専では毎年スポーツ大会を行っています。夏の暑さのせいでスポーツに全力で取り組めなくなり、熱中症になる恐れがあります。そこで、共済活動としてスポーツドリンクを配ることで熱中症の対策を行い、組合員がスポーツに集中して取り組める環境作りを目的としています。

アピールポイント

共済の認知度向上計画

神戸高専では、様々な店舗企画を行っています。そのおかげで、生協自体の認知度は年々上がっています。しかし、新春に行ったアンケートより共済認知度がとても低いことが判明しました。そこで、この企画を通して共済の認知度向上に向け、給水所に共済ボードを設置し、組合員に共済のよさを伝えました。



▲給水所の風景2

組合員の反応

運動後のスポドリに感謝を！

組合員の方々からは、「スポーツ後にスポーツドリンクが用意されているのがありがたい。」などの感想をいただきました。

また、大量に用意していたスポーツドリンクがなくなりそうになるほど、多くの組合員に給水所を利用してもらうことが出来ました。



▲給水所の風景3



▲給水所の風景4

内容①

GI以外による企画協力

この企画は毎年行っています。そのおかげでGI以外の組合員も多くスポーツドリンク配りの手伝いをしていただきました。また、手伝って頂いた組合員の方々から「生協に対する見方が変わった。」との声がありました。

内容②

共済加入促進活動

この企画を行う中で、少しでも多くの組合員に共済の事を知ってもらうために、自分たちが制作した共済ボードを設置しました。この共済ボードは、共済の要点をわかりやすくまとめたものです。

また、口頭での共済説明や事例紹介なども行いました。



▲共済ボード

成果

- ・スポーツ大会で熱中症予防に貢献できた
- ・共済の認知度向上に貢献出来た
- ・多くの組合員に利用していただけた

課題

組合員から、スポーツドリンク以外の飲料（お茶・炭酸飲料など）も用意してほしいという声が上がった。

今後、同じ企画をする際にはスポーツドリンクだけではなく他の飲料も用意することを検討する。

取組みを参考にする上で気をつけること

神戸高専では、9月にこの企画を行いました。

スポーツドリンクを配るGIも相当の暑さを感じるので、テントを建ててその中で配るなどGIへの熱中症対策も行う必要があります。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(2) 安全・安心

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしている組合員。

- 実現に向けて① 心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。
- 実現に向けて② 健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協働し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸高専生活協同組合

専務理事：久保田 学生委員会：足立

E-mail : kcct_seikyo_gi@yahoo.co.jp

ありたい姿

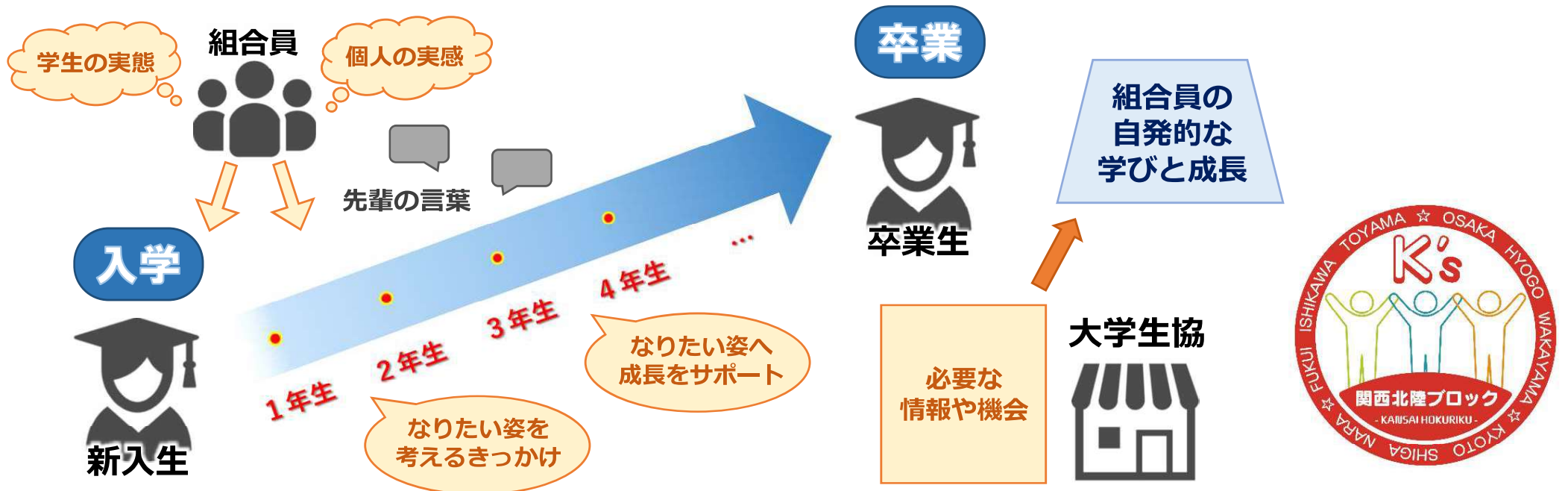
3

「学びと成長」

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

実現に向けて

1. 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
2. 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
3. 大学内のすべての人が必要な場面で必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。



【事例集】

30

立命館生協びわこくさつキャンパス キャリアナビ #1 キャリアを学べて友達ゲット

活動の教訓ポイント

新生に4(6)年間の見通しを持ってもらえるように、さらに交友関係も深められるよう目的を定めた点。キャリアについて考えるきっかけを提示しました。

活動概要

【日時】2019/4/4
【場所】ユニオンスクエア2階
【対象】新1回生の組合員

【内容】入学して間もない1回生に4年間ないし、6年間の学生生活の見通しを立てるために、留学や資格（TOIEC）、部活動についての分人会を行い、その後に意思表示カードを用いて大学生活についての見通しを立てた。またキャリア双六を用いて学生生活に沿ったゲームをして考えた。



▲キャリア双六で楽しみながらキャリアについて考えよう！

企画背景

幅広い新生サポート

入学したての新生で、4年間または6年間の大学生活に見通しを立てるのは難しいため、先輩学生の声を借りて、自分のゴール設定ができる新生になってほしかったので今回の企画を実施した。

アピールポイント

キャリアを考えるだけで終わらない

この企画は大学生の学びに対してフォーカスを当てた企画であるが、入学したての大学生は友達作りにも不安を持っているため写真のようにみんなで楽しく夕食を食べたり、友達ビンゴをして、班内だけでなく、参加者が仲良くなれる企画となっている。

またただキャリアについて考えるのではなく、意思表示カードを用いて自分の大学生活に対してゴール設定を行いより明確に自分の大学生活について考えることができた。



▲みんなで楽しくご飯！

組合員の反応

アンケートから聞いた声

Aさん 同じ班になった子とは今でも仲良くしてます！同じ留学の分野に興味があったので、共通の話題についても触れられるしお互いで励まし合いながら勉強しています！

Bくん この企画に参加しなかったらなんとなく大学生活を送っていたかも知れないと思うと、参加して本当に良かったなあと思います！



▲班内交流でみんな仲良くなるよう！



▲友達ビンゴをはじめよう！

内容①

<友達ビンゴ>

様々なお題が書いてある紙を見て、その題に当てはまる人を参加者を探すというゲーム。参加者はビンゴを埋めるためにたくさん周りの参加者に積極的に話しかけにいった。その中で仲良くなる参加者が増えた。



▲意思表示カードの説明を受ける参加者

内容②

<意思表示カード>

分人会や、キャリア双六等で今日学んだことを元に今後の大学生活への見通しを立てた。少しでも有意義な大学生活を送ってほしいという企画者の強い想いをこの意思表示カードの企画時間につづけた。

またこの企画「キャリアナビ#1」の続編である、「キャリアナビ#2」に向けて考えをまとめる作業を企画の中で行った。

成果

一日程の開催であったが70人ほどの多くの学生が参加してくれた。その中でキャリアについて考えること、友達を作るきっかけを作ることができた。

今後の大学生活への見通しを立てることに成功し、参加者的にも大満足だったようだ。

課題

この企画は新生を対象として、キャリアについて考えてもらったが、BKCでは現在上回生向けに学びの企画を行っていない。

その背景には大学生への学びのモチベーションの低さであったり、生協学生委員会としてできる学びのコンテンツが少ないことが挙げられる。今後とも学びについては深く考えていきたい。

取組みを参考にする上で気をつけること

新生向けの企画であるため、参加してくれた新生がどこまで具体的に考えられるようになるかという点。ただ、資格について学んだりするだけでなく、新生が立てたゴールをうまく紙に書かせたり言葉にさせることでより質の高い大学生活の設計ができると考えている。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面で必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

立命館生活協同組合
常務理事：佐藤 学生委員長：渡邊
E-mail : gm0034hs@ed.ritsumei.ac.jp



【事例集】

31

龍谷大学生協深草キャンパス あなたも今日で書籍部推し

活動の教訓ポイント

組合員の学びを教職員とともにサポートできた取り組み。また組合員同士のつながりをつくったことにより、生協はみんなのお店であることを知ってもらった。

活動概要

【日時】 2019/04/8～2019/5/31
【場所】 書籍部 生協コンビニ前 7号館教科書販売特設会場
【対象】 新入生 在校生 先生方
【内容】

新生活が始まる春、新入生を中心に龍谷大学生協組合員の方々に書籍部の活動と利点や魅力を知ってもらうことを目的として書籍部の魅力を記載したリーフレットの配布を行いました。また、本を用いた学習への意欲・関心を高めようことを目的に先生おすすめ本コーナーを設置した。



▲書籍部に設置したおすすめ本コーナー

企画背景

<書籍部の魅力を知って活用してもらいたい！>

龍谷大学では書籍部ならではの魅力、利点などを十分に知らず書籍部を活用するに至らない人が多いという現状がありました。在校生はもちろん新入生にも書籍部の魅力を知ってもらうことで**書籍部をもっと気軽に利用してもらいたい!**という想いから実施しました。

アピールポイント

<先生方を巻き込んだ活動>

「先生おすすめ本コーナー」の活動では、書籍部の本を用いて新入生にこれから学んでいく分野の学習により意欲・関心を持ってもらうことを目標にしていました。

「先生のおすすめ本コーナー」として先生方の推薦図書と共にレビューを添え、書籍部に設置しました。先生方も大学生協の一組合員です。今回は先生方にも学生委員会の活動にご協力いただけたため、**先生と学生をつなぐ**新しい企画が実施できたのではないのでしょうか。

組合員の反応

<活動内容が好評！>

リーフレットについてはたくさんの方から完成度が高いと評価をいただきました。配布している際に「へー! 知らなかった!」「行ってみよう」など、初めて知る書籍部の情報に対するコメントを聞く場面がたくさんありました。先生方からは「新入生のためになっているならうれしい」とご意見をいただきました。またリーフレットに付いていた15%Off券の利用者がいたことから、今回の企画によって書籍部の利用者数も増えたことが分かります。



▲リーフレット(外)



▲リーフレット(内)



▲実際に配布したリーフレット

内容②

<熱いぞ! 先生おすすめ本コーナー>

「先生おすすめ本コーナー」ではGI自らが先生方を訪ねました。各学部学科専攻(全18学科専攻)の先生方に小説・エッセイ・漫画・専門書など種類を問わず新入生向けで楽しく読め、これから学んでいく分野により興味を持てるような本をそれぞれ一冊ずつ紹介して頂きました。またレビューも同時にポップに記載しました。具体的にどのように本が参考になるのか、その本を読んで新入生にどのようなようになってほしいかなど先生方の学生に対する熱い想いも同時に伝えられたと思います。

成果

教科書販売特設会場にいる新入生を中心として一人ひとりにリーフレットを手渡しし、教科書購入の待ち時間にたくさんの方々に情報を知ってもらえたのが成果と言えます。

また本コーナーでは龍谷大学ではあまりしてこなかった先生方と連携した活動や書籍部の企画ですが、今回の企画を通して自分たちGIの可能性を広げることもできました。

課題

リーフレットは15%オフ券付きのもの500枚中33枚とかなり利用者数が少ないのが難点でした。また先生おすすめ本コーナーのアンケート用紙は書籍部のスタッフの方にご協力いただき購入者に渡す方式で、結果としてあまり購入者の声を直接聞くことができませんでした。実際に本を読んだ組合員からの意見や評価を得る場を徹底すべきであったと考えます。

取組みを参考にする上で気をつけること

今回の取り組みのポイントは学生委員と先生方との丁寧な連携です。何人かの先生方に協力していただき企画を行う場合、企画内容の説明や依頼は統一して失礼の無いよう丁寧に行う必要があります。また、ご協力いただく際に企画に関しての意見をくださる方がいるので、一組合員である先生方の声も反映させ企画を進めることが大切です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

龍谷大学生生活協同組合
専務理事: 谷口 学生委員会 担当: 岡本
E-mail: okamongo0323@gmail.com

[事例集]

32

龍谷大学生協 新 学 期 活 動

活動の教訓ポイント

学生と職員が同じ目標をもって龍谷大学生協全体で作り上げている新学期活動。学生と職員がしっかり意見交流できるように様々な工夫がされています。

活動概要

【日時】 新学期会議：毎月1回
新学期総括会議：5月18日（土）

【場所】 龍谷大学深草キャンパス

【対象】 学生委員

【内容】

新学期活動の作り込みから総括までを、学生委員・職員・上回生サポーター、新学期活動に関わる人全員で行っています。



▲総括会議の集合写真

企画背景

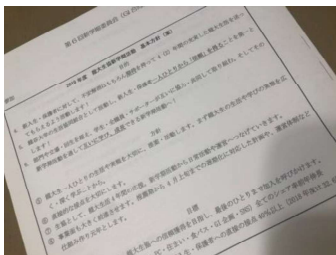
<立場は違って目標は同じ>

新学期活動は学生委員が中心となって行う企画だけではなく、職員や上回生サポーターと協力して作る企画もあり、どの企画もそれぞれ立場は違っても目標が同じだと思っています。また、さまざまな視点からの意見を交流することで龍谷大学生協全員で新学期活動を作り上げていきます。

アピールポイント

<みんなで作る新学期活動>

各キャンパスの学生委員や職員、また昨年度から導入した上回生サポーターなど、新学期活動に関係する人全員で新学期活動を作っています。キャンパスを超えて新学期企画全ての企画の進捗状況の共有を行うことで、キャンパスごとの悩みの解決にもなり、より良い活動ができます。また、**職員も参加しているため、普段あまりできない学生と職員の率直な意見交流ができます。**



▲新学期全体の方針
(新学期会議の際の資料)

参加者の反応

<学生のリアルな声を大切に>

新学期企画では、学生のリアルな声を大切に企画を行いました。参加者した新入生や保護者の方から、職員から話すだけではなく学生のリアルな声が聞けてとても良かったという声や、春から入学させる子供の大学の雰囲気がわかりとても良かったという声が多かったです。学生委員と職員でたくさん意見交換をしながら作ったからこそできることがたくさんあるのではないかと思います。



▲会議中の様子



▲新学期会議の様子

内容①

<月に1回の新学期会議>

新学期会議は後期が始まる頃から毎月1回、両キャンパス合同で行われます。学生委員・職員・上回生サポーターが参加し、入学準備説明会はもちろん、学生委員が中心になって取り組んでいる企画の進捗状況の共有を行っています。職員と学生委員の交流はもちろんですが、両キャンパスの学生委員の交流も深まります。

内容②

<新学期総括も全員で>

新学期活動が全て終わったら、新学期活動に関わった人全員で入学準備説明会はもちろん、うるかむパーティーなどの学生委員が中心となって取り組んだ企画の総括を、学生と職員全員で行います。全員で総括を行うことで反省点を活かした企画作りができ次年度の新学期活動に活かすことができます。また学生委員と職員との距離も縮めることができ、平常活動を行う際にも意見交流ができる関係を築けます。



▲各企画の総括を行っている写真

成果

新学期活動を龍谷大学生協全員で1から作り上げることで、学生委員と職員との交流や、学生目線・職員目線それぞれの気付きがあります。また、学生委員は新学期活動の方針として「**あこがれの先輩になる**」という方針を掲げており、新学期活動全てが終わってから成長できた点として「**憧れの先輩になれた**」という声が多かったです。

課題

次年度の新学期活動をよりよくするためにもっと「挑戦」していけるように職員とのつながりを増やしていくことや、新学期総括会議の参加をもっと増やすこと、また1回生の参加を増やし、次年度の新学期活動に活かしてより良い新学期活動にすることも課題だと考えています。

取組みを参考にする上で気をつけること

学生と職員で何かひとつのことを作り上げるのは、新学期活動だけではなく日常活動にもつながってくると思います。日常活動の場合もなぜこの企画を行おうと思ったのか、どうしてこのような企画を行おうと思ったかなど自分の意見を持って職員と話すということは気をつけることだと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けている組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

龍谷大学生協同組合
専務理事：谷口一宏 学生委員会担当：塩谷

E-mail：shioharu.1123@docomo.ne.jp



京都橘学園生協

新たちばなさんいらっしゃ〜い！2019

活動の教訓ポイント

組合員から運営スタッフを募集し、学生委員だけでなく組合員みんなで新生を迎えた取り組み。企画当日はもちろん、事前の作りこみにも多くの組合員が関わりました。

活動概要

【日時】2019/3/19、20 13:00～17:30 (二次会～19:30)

【場所】京都橘大学 中央体育館

【対象】新入生

【内容】毎年行っている新入生歓迎企画であり、入学前の不安解消・友達作りの場として今年も実施した。今回は組合員からも運営スタッフを募集し、企画作りの段階から組合員と一緒に行うことができた。**運営スタッフは計15名、新入生は2日間で計259名の参加**があった。



▲当日の会場の様子

企画背景

私たちの現状でできる方法を

この企画（通称“新たち”）は毎年の恒例企画となっており、他団体の入学式前の新歓企画がない橘では新入生の貴重な友達作りの場となっています。しかし今年度は学生委員の人数が少なく、新たちを自分たちだけで行うことは不可能でした。そこで組合員から運営スタッフを募集することで**企画を成功させつつ組合員を巻き込むことができました！**

アピールポイント

組合員を巻き込む企画！

スタッフ募集の際には説明会を実施し、企画内容と一緒に作っていく内容について説明。企画会議や準備を進める中で学生委員とは違った視点からの意見も沢山出ました。

また本番当日にもスタッフの呼びかけで来てくれた飛び入りのスタッフが活躍してくれたりと、**想いの広がり**を感じることができました。**新入生の満足度も非常に高く**、新歓企画としても良いものにできたのではと思います。



▲タイムキーパーの様子

組合員の反応

参加して本当に良かった！

これは、新入生・スタッフどちらからも言ってもらえることができました！

新入生からは「友達作りができ、先輩方とも仲良くなれて不安がなくなった！」などの感想がありました。

スタッフからも「サークルの宣伝が目的で来たが、**それ以上にいい経験をさせてもらった**」との声を頂き、「次も是非手伝いたい」と言ってもらえることができました。



▲みんなに笑顔が溢れていました！

内容①

より楽しんでもらうために

前年度の企画書を参考にしながらも、“今年度らしい”新たちを目指して企画作りを行いました。「どうすればより新入生同士が交流できるのか」「何をすればより楽しい企画になるのか」を**学生委員・募集スタッフ関係なく意見を出し合い**、会議を重ねてカタチにしていきました。

そして今年スタッフの意見で新たに追加したゲームは、新たちの中で一番楽しかったとの声を多数頂くことができました！



▲ステージ上で何やら悶絶中…

内容②

多くの人の支えあってこそ

運営スタッフの他に、当日のGLとして集まって頂いたスタッフも後片付けなどを手伝っていただきました。また学生委員会を引退された先輩方や生協が持つもう一つの学生団体の方も多数協力してくださり、多くの人の支えがあってこの企画が成り立っていることを痛感しました。

総勢数百名を動員する企画を成功させることができ、学生委員はもちろん、**スタッフの皆さんも大きな達成感を得ることができたのでは**と思います。



▲会場の見回りも大切な仕事です

成果

新歓企画としては、新入生の満足度はとても高く、ほとんどの参加者が「楽しかった！」と答えてくれました。また 組合員が運営スタッフをすることで組合員と一緒に企画を作り上げることができ、より進化した“新たち”を生み出せました！

今後もうこういった巻き込み企画を作る為のきっかけになったと感じています。

課題

学生委員ばかりが作業を抱え込みがちになっていたため、スタッフも含め全員で分担できるようにしたいです。GLさんを集めたり事前説明を行うのがギリギリになってしまったので、もっと時間に余裕を持って取り組んでいきたいです。

また生協学生委員がこの企画を運営していたことをあまり伝えられなかったと感じたので、改善していきたいです。

取組みを参考にする上で気をつけること

この新たちのように組合員に一人から企画に携わってもらうことは難しいと思いますが、学生委員とは違った視点の意見が聞けるチャンスなので、一部でも企画作りに参加してもらえるような企画を考えてみると新しい画期的なものができるかもしれません。今ある既存の企画にプラスαすることでも良いと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

京都橘学園生活協同組合

専務理事：友金 学生委員会委員長：石田

E-mail : info@tachibana-coop.jp



【事例集】

34

奈良県立大学生協 知っ得！就活相談会

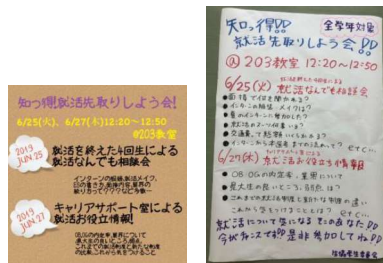
活動の教訓ポイント

組合員の声を反映させた企画。学生委員だけで行うのではなく、実際に就活を終えた4回生と就活を支援している大学側と協力することで経験談と教訓が語られていた取り組みです。

活動概要

- 【日時】2019/4月頃（資格情報掲示板）
2019/6/25,27 昼休み（就職相談会）
- 【場所】食堂、教室
- 【対象】学生組合員
- 【内容】

資格情報掲示板は新学期の時期に学内で開講されている資格講座の情報をポスターにした。就職相談会は就活を終えた4回生による相談会とキャリアサポート室による就活お役立て情報を教えてもらう会の2つを行いました。



▲情宣画像とポスター

企画背景

理事会での意見を参考に！

奈良県立大学は生徒数が少ないため就職活動のOBOG訪問が無く、生の声を聴く機会はほとんどありません。実際に就活を終えた4回生に実際の就活の様子をききたいという想いで実現しました。資格情報掲示板を企画した背景としては、3月の理事会で学内で開講されている資格講座の申し込みが前年度と比べて下がったという意見が出て、利用促進するためにポスターを作りました。

アピールポイント

組合員目線のキャリアの提案

就活相談会はインターンシップが本格化する夏休みの前に行うことによって、参加した組合員のモチベーションアップにつながりました。

資格の情報については新学期活動の新入生・保護者説明会でしか取り上げていませんでした。新入生よりも在校生の方が資格に興味を持っている人が多いので資格の情報をまとめました。購買で資格の情報をポスターで掲示していますが、なかなか組合員にその情報が届いていなかったため、組合員目線のかつ資格を合格した人が記入することによりポスターの概要だけの情報よりもより詳しい情報を伝えるようにしました。



▲ポスターを掲示した様子

組合員の反応

大学がサポートできない部分を生協が

就活相談会に参加した組合員からは、就活についての聞きたかったこと、気になった事を生の声で聴くことができよかったという声がありました。大学ができない部分のサポートを生協が補えたことに良さを感じている組合員が多かったです。

資格情報掲示板に関しては実際に見た組合員も多く講座を受ける人数も増加しました。



▲就活相談室の人の説明の様子

内容①

ベストな時期に、正しい情報を



▲実際に掲示したポスター

ポスターは3種類作りました。①自動車教習所 合宿編②英語コミュニケーション講座③旅行業務取扱管理者講座です。①は免許合宿の内容や申し込み方法（例年、申し込み方法がわからない新入生が多いため）を、②は新入生が一番申し込み講座で人気のあるものをポスターにしました。③は奈良には観光について学んでいる学生がいるので、自分たちの学びを活かして資格講座を取り上げました。

内容②

就活を終えた先輩に直接相談！

就活を終えた4回生2名と、2、3回生の参加者が座談会方式で気軽に楽しく話をしました。4回生からどのように就活を行っていたか、リアルな経験を聞きました。また参加者から4回生に質問が沢山ありました！例えば「化粧はいつもとちがうのか」「スーツ何着いるか」「交通費どれだけかかったか」など小さな不安や心配事などを気軽に質問することが出ていました。

2日目はキャリアサポート室の職員さんのお話です。奈良県立大学の傾向や就職率などのデータや、就活に向けて今からしておくべきことなどの話をしてくれました。就活を何年も支援している方からのアドバイスはためになりました。



▲座談会の様子

成果

組合員活動で力を発揮するのはいつも学生委員会の現役のメンバーですが、今回は3回生、4回生の組合員にスポットがあてられました。上回生の運営参加の幅が広がったのが今回の成果です。

また店舗活動は一言カードや購買のポップ作りに限られていましたがキャリアの活動をする事によって新たな取り組みの幅が広がりました。

課題

就活相談室は広報宣伝不足で参加者が少なかったのが課題です。時期に関して夏だけでなく冬の時期も検討できます。就職活動に関しては年間のみ取り組みを考える必要があります。

資格情報掲示板については3枚しか作成できませんでした。通学免許や公務員講座なども周知することができればさらに組合員に生協のサービスを知ってもらい利用するきっかけにつながります。

取組みを参考にする上で気をつけること

就活相談会は学校の就活相談室との人の連携が必要です。まちがった情報を扱わないようにしましょう。資格情報掲示板については自大学で開講されている講座を把握する必要があり、大学の学びによって組合員がどんな資格を申し込みたいか異なるので組合員の現状を捉えることが大切です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けている組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

奈良県立大学生生活協同組合
業務担当理事：石間奈穂子 担当：下山祐希
E-mail：nishima@u-coop.net



【事例集】

35

大阪大学生協豊中キャンパス HandaiWalker新入生歓迎号

活動の教訓ポイント

新入生のニーズを捉え、“先輩の学生だからこそ”伝えられることを盛り込んだ内容を新入生全員に届けた！

活動概要

【日時】2019年3月上旬
【場所】合格バックに封入
【対象】新入生全員

【内容】
新入生を対象に、大学での勉強や生活、生協の紹介その他バラエティーに富んだ記事を掲載した冊子を**新入生全員**に配布しました。(合格バックに封入)

企画背景

新生活はわからないことだらけ！

高校までと違い、大学は学習の方法や生活サイクルが大きく変わり、それによって不安を抱く新入生が多いのが実情です。**大学生生活のさまざまな不安を解消**し、この一冊で大学生活のすべてがわかるようにしましょう！という想いのもとこの冊子を作成しました。

アピールポイント

学生目線の記事が満載！

生協の事業部が作るものと違い、学生委員会で作る当冊子は学生の目線が多く取り入れられています。授業のしくみや普段の生活、生協情報にいたるまで、実際に日ごろ使っている**学生の声を多く反映させた記事**を掲載することにより、新入生により身近な情報を提供することができます。

組合員の反応

生活が具体的にわかった！

読者からは「大学生活の不安がこの冊子を読んで和らいだ」「学生目線の情報が自宅で読めて助かった」などの声をいただきました。当初からの目標であった、**この一冊ですべてがわかる！**ということが一定程度達成されている、と言えます。



▲表紙の写真



▲生協の説明



▲靴の中身に関する記事



▲留学に関する記事

内容② 大学生の生活が丸裸！

大学生になって大きく変わる生活についての情報を掲載しました。自宅生と下宿生の生活紹介、空きコマの過ごし方、自炊のレシピ、バイトなど、密接にかかわることがらを中心に紹介しました。

さらに、食堂の売り上げトッピングを当てる企画「帰れま10」や、大学周辺のマップなど、バラエティー企画も取り入れ、**新入生が楽しんでもらえるような記事づくり**を目指しました。

成果

学生委員会がとったアンケートによると、本冊子を受け取った新入生のうち、実に94.3%の新入生がこの冊子を読んだということがわかりました。また、読んだ人のなかでも「全部読んだ」や「ほとんどの記事を読んだ」といった好意的な意見も8割を超え、不安を取り除き、生協の情報を伝えるという目的はおおむね達成されました。

取組みを参考にする上で気をつけること

合格者全員に届く冊子であり、大阪大学は総合大学のため、特定の学部にて特化した記事などは掲載されていません。大学によってはそのような記事にニーズがあることも考えられるため、どんな人に届けたいか？ということを考え実践していただければよいと思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けている組合員。

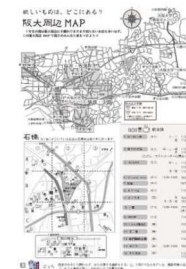
- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりがなりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪大学生協共同組合
専務理事: 関戸 雅弘 学生委員長: 大津 侑希
E-mail: gi@osaka-univ.coop

内容① 大学の勉強ってどんなん？

大学では高校までと違い、履修登録を自分でしなければならぬほか、単位やGPAなど新しい概念も登場し、新入生を不安にする最初の壁といえます。その不安を**実際に経験した学生だからこそ届けられる情報**を提供しています。そのほかにも、資格や留学の記事など多くの内容を提供しました。



▲阪大周辺マップ

課題

読者アンケートを見ると、学習面において多くの不安が見られ、需要と供給のバランスが取れていない結果となりました。今後は学習面において、新入生に対するさらなるアプローチが必要であると考えられます。

【事例集】

36

和歌山県立医科大学生協 親子で参加する入学準備説明会

活動の教訓ポイント

生協のみならず、学生や教員など大学全体を巻き込んで新入生に提案することができている。

活動概要

【日時】2019年2月16日、23日、3月16日
各日程 10:00~14:00

【場所】和歌山県立医科大学
三葛キャンパス/紀三井寺キャンパス

【対象】2019年度新入生とそのご家族

【内容】2019年度で2年目を迎えた入学準備説明会。学生委員会が組織されていない中、大学生協が大学や教員、有志の学生の協力を得て新入生をお迎えをしました。述べ90組180名以上が参加した企画となりました。



▲新入生が通う三葛キャンパス

企画背景

生協や大学生活や友達作りも全部まとめて

「生協の商品やサービスの実体験を教員・学生の声で直接伝えてほしい」「新入生同士や先輩後輩の仲間づくりのきっかけになってほしい」という思いから始まり、大学、教員、学生を巻き込んで一丸となって新入生をお迎えしようというコンセプトで企画しました。

アピールポイント

和医大全体を巻き込んで

説明会の宣伝は、入試当日に付添人控室で保護者説明会を開催。合格後の入学手続きには大学の手続き会場の近くにブースを設けて加入セットを直接手渡しで1組1組にセット内容や説明会へのご案内をしました。

また、入学準備説明会では理事の先生方に「これから医療・看護を学ぶ君たちへ」をテーマにミニ講義を行っていただき、学生理事などから募集した学生スタッフをグループリーダーとして班ごとについてもらいアットホームな説明会を演出しました。

組合員の反応

満足度100%を記録!

参加者にはアンケートを実施し、大変満足60%、満足40%、不満・大変不満が0%と満足度100%を達成することができました。特に友達作りや食堂体験以上に「先輩とお話できたこと」への評価が高く、学生スタッフである先輩が、新入生だけではなくご家族にもひとりひとり丁寧に対応してくれたことがこの満足度の結果だと考えています。



▲加入案内は一組づつ丁寧に手渡しで



▲先輩からの話に興味津々



▲実際の講義と同じ熱量の先生のミニ講義

内容①

新入生に伝えたいこと

説明会前半は先生方のミニ講義で「これから医療・看護を学ぶ君たちへ」というメッセージを伝えていただきました。その後には学生スタッフから入学式以降の大学生活について実体験を交えて紹介しました。新入生には4月からの自分たちの姿をイメージできるお手伝いになったと思います。

内容②

先輩がいることの親近感

後半の食堂体験以降は参加者を複数班に分け、先輩の学生スタッフと一緒に行動するようにしました。食事体験時には、新入生席と保護者席に分け学生スタッフと新入生が近い距離で話せる工夫をされていました。ブース案内でも学生サポーターが白衣や教科書などの紹介やパソコンなどの利用方法について自分たちのリアルな実体験を交えながら説明してくれました。



▲職員も学生と一緒に説明会を盛り上げた

成果

参加組数が90組に伸長(昨年61組)し、全入学生の50%の方が参加いただけの企画となりました。また、新入生180人中179人が生協加入、昨年と比較してミールは27件から35件、新入生PCは48台から53台、電子書籍は14本から32本と数字にも反映された。「誠心誠意、直接伝える」ことができたからこそ得られた結果となりました。

課題

説明会の日程の案内から当日までの時間に余裕があまりなかったため、先約のため行きたくても行けない方、遠方からどうしても行けない方などまだまだフォローできていない新入生が多くいます。来ていただくための日程設定などすべての新入生をフォローできる企画づくりが課題として残りました。

取組みを参考にすることで気をつけること

小規模だからできた取組みがたくさんあります。新入生ひとりひとりに加入セットを手渡ししたり、説明会も班を作ってグループリーダーに入ってもらうなど。ただ「新入生、そのご家族の方にどれだけ寄り添って直接伝えることができるか」「そのために何が出来るか」が一番大切だと考えています。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

和歌山県立医科大学生生活協同組合
専務理事：田中正泰 店長：小嶋将也

E-mail : waidai-coop@hanshin.coop



神戸大学生協 書籍推進企画(ほんのよみかた)

活動の教訓ポイント

学生・職員それぞれの視点を大事にしながら、企画段階から密に連携をとっている点。

活動概要

【日時】 2019/07/08,09,10日、10月～1月
【場所】 神戸大学鶴甲第1キャンパス、SNS上
【対象】 本に抵抗はないが最近読んでいない組合員

【内容】 本の価値を組合員に再確認してもらおうと共に、読みたいと思ってもらうことを目的としており、学びと成長を意識して職員と連携のもと書籍イベントやSNS上で本紹介をして、本にふれ合う機会を提供しました。



▲本番の様子

企画背景 圧倒的に新入生の不安に寄り添う！

本を読むことで享受できるはずの価値を、享受できていない。

本：小説や新書など。雑誌、教科書は含まない。
価値：新たな視点、考え方を手に入れられること

アピールポイント 密な連携による職員との協同！

本の価値を組合員に再確認してもらおうと共に、読みたいと思ってもらうという目的を達成するために書籍部で実施している「読書マラソン」を活用することに決めました。読書マラソンとは本を読んでその感想を書いた宣伝ポップを書くスタンプが1個溜まり、10個溜まると500円の生協利用券がもらえるというキャンペーンです。この企画ではこのキャンペーンの情宣と読書マラソンを利用したイベントを開きました。この企画は書籍部の店長と密に連携をとり、学生委員と職員の二つで作りました。



▲書籍部実施の「読書マラソン」

組合員の反応 新しい出会いの提供！

- ・高校では取り組んでいたものの大学入ってから忘れていた読書の良さを思い出す良い機会になりました。ありがとうございました。(工学部2年Tさん)
- ・各都道府県ごとや、シチュエーションごとに本を紹介してくれたので、自分の興味の湧く本が見つかりやすかったです。よく考えられてるなあと思いました。(経営学部1年Kさん)



▲組合員参加の様子



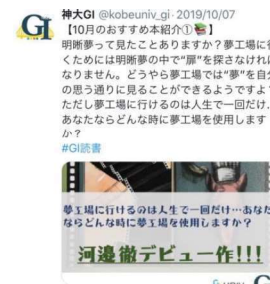
▲当日の多様な本紹介

内容① 豊富で多様な出会いを、

7月8,9,10日に行った書籍イベント本番では、読書マラソンのポップを書いてもらうと共に都道府県別やシチュエーション別に合った人に向けて本紹介をしました。どの本にも、企画の班内が本を読んだ後にあらすじやオススメポイントを書いており、それを読んで本に惹かれる組合員もいました。

内容② 効果を出すための徹底継続！

2019年10月から2020年1月にかけてTwitter上で班員のオススメの本紹介をすることもこの企画の概要です。神戸大GIのTwitterのフォロワー数は約4000人おり、多くの神大生が見ていることよりTwitter上でのアプローチに決めました。イベント直後だけでなく、継続して本を読んでもらうことを理想状態においているのでこの企画では継続したアプローチが必要だと判断してこの概要をうつことに決めました。



▲Twitter上での本紹介

成果

- ・総担当の問題意識・願い・やりたいことが叶ったこと。企画側の真骨頂だと思います。
- ・神大ではあまり取り組めていなかった「学びと成長」に新たな活路を見いだせたこと。
- ・学生委員にとっても本と向き合う良い機会となった。

課題

- ・参加方法の難しさ、部員の人員の限界などの理由で3日間しかイベント開催できず、参加者が60程度になってしまったこと。総括で情宣の強化が提案されたので次年度以降実施する際には徹底したい。
- ・「読書」という性質上効果を出すには継続的なアプローチが必須だが、難しい点。

取組みを参考にする上で気をつけること

読書はそのときだけでなく継続して読み続けてもらえなければ意味はありません。継続してアプローチを続けるということが「読書」に焦点を当てた企画の注意点です。当日GI内の別企画とイベント実施場所がぶれる問題もあったのでしっかり連携をとり、場所を確保することもイベントを開く際の注意点です。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸大学生生活協同組合
専務理事：坂本 安弘 学生委員長：栗 大輝
E-mail : gi.kucoop.jp

【事例集】

38

甲南大学生協岡本キャンパス 出版・出版社にふれる

活動の教訓ポイント

様々な角度からの読書推進をし、自身の学びを発信できる場になっている

取り組み概要

作品社・文学はおいしいにふれる

【日時】 2019/06/13
【場所】 iCommons 4Fブックカフェ
【対象】 all甲南

【内容】 青木誠也氏トークイベント
リョサ、マルケス等ノーベル賞作家の刊行までの苦労話。
東江一紀氏の遺作となった「ストーナー」の翻訳の秘話は
涙する聴衆もいました。

企画背景

甲南spiritをブックカフェで

甲南大学100周年記念会館iCommonsはあらゆる
出会い・発見・交流の結末点。
本を介する、ブックカフェへの期待に、甲南大学生協
の知恵と協力を結集しています。

「出版」がわかるトークイベント
作品社編集 青木誠也氏
6月13日(木)ブックカフェ

- 1部 12時10分～50分
- 2部 16時20分～17時20分

小さな販元から見た出版の現在
編集/制作/営業/流通の両面から

作品社15%引きフェア
6月3日～9月19日
全品書籍4割引き
TSUTAYA BOOKSTORE
甲南大学学生会館
KONAN iCommons

今までの取り組み

英語で日本・日本文化にふれる

スタートは、「日本評論社出版創業100年にふれる」
2018年11月21日萩原弘和氏トークイベント。
2019年1月17日・18日「英語で日本・日本文化にふれる」
17日ジャパンライブラリー森村貴文氏トークイベント
18日チャールズ・イ・タトル倉上雄一氏トークイベント
5月21日「ライト文芸にふれる」講談社森田練氏トークイベント
10月3日「秘書検定にふれる」島田悠佑氏トークイベント



学生組合員の本棚1

学びをそのまま本棚に

知能情報学部4年次の大字瑛豊君が選書してくれました。
最初は、自分が読んだ本を書き出し、これから読もうかな
と思う本をピックアップすることからはじめました。
全国の大学で読まれている本を参考に。
右のコーナー表示ももちろん本人作成。



店の雰囲気にあったPOPにしてね・

図書館特急「こうのとりの」

TSUTAYAの本が図書館で
読める！ 借りられる！

図書館特急 とうのとりを活用しよう！

「とうのとりの」は、図書館の希
望図書購入申請の一端です
(9月16日より4月6日購入可能)

とうのとりの使い方

1. TSUTAYA2店舗(学生会館または
iCommons4F)で読みたい本を選ぶ
2. 「とうのとりの」タグを記入する
3. 切符を本に挿入して「とうのとりのBOX」
に入れるだけ！
(図書館利用の注意事項を必ず読んでください)

甲南大学図書館 × TSUTAYA BOOKSTORE 共同企画

学生組合員の本棚2 ①

文学研究会の研究テーマで

昨年は、「ファンタジー」トールキンの指輪物語からハ
リーポッターを研究しました。
今年の研究テーマは「宮部みゆき」です

書評対決春・秋

甲南大学 第2回 書評対決

甲南大学体育会
アメリカン
フットボール部
RED GANG
VS
共通教育センター長
伊豫田隆俊 先生

決戦日 10/17
12:20~
iCommons2階 L4
MC: 落合健太郎

販売期間 11/29
まで 生協書籍店舗にて

甲南大学 第1回 書評対決

甲南大学文化会
文学研究会
VS
文学部社会科学
阿部真大 先生
VS
よしもとインテリ芸人
ネイビーズアフロ
ラフ次元

決戦日 4/22
16:30~
iCommons2階 L4
MC: 美い飯 哲夫

販売期間 5/31
まで 生協書籍店舗にて

書評対決とは
甲南大学および甲南大学の教職員と学生団体それぞれが3冊の
書籍を推薦し、読書Books (iCommons4F)、友Books (学生会館4F)
The CUBE SHOP(西宮キャンパス)、FIRSTSHOP(ポートアイランドキャン
パス)で展示販売し、その売上額に応じて勝敗を競う企画です。
今年も1回目を迎えることとして、読書推進委員会として
教員VS学生団体VSよしもとインテリ芸人の戦いを起す
本日は10/17-11/29まで甲南大学学生会館4F生協店舗で
読書対決「目録」にはプレゼントを用意しました。
今後毎年2回開催予定です。
【おもしろい本を採りに】是非チェックしてみてください！

※書評対決は株式会社TSUTAYA/甲南大学生協協会の共同企画です

まもなく「高校生の本棚」スタート

キャンパスを訪れる高校生にぜひ読んでほしい
出合ってほしい本のコーナーです。第1回スタート
は、「答えは本の中に隠れている」です。

2020年ブロック方針との関係性

ありがたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、
将来なりたいた姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 表現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、
組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 表現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、
一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 表現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち
自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

甲南大学生生活協同組合
専務理事: 内田 組合員担当: 大西
E-mail : k-onishi@konan-unvcoop.or.jp



[事例集]

39

神戸市外国語大学消費生協 新入生歓迎セレモニー

活動の教訓ポイント

去年の参加者を含むたくさんの学生と協同することで、新入生の一層の不安解消につなげている。

活動概要

【日時】2019/04/04

【場所】神戸市外国語大学 食堂

【対象】新入生全員

【内容】入学式の前に開催。事前にGIがグループ分けをした新入生同士とグループリーダーを務める在学生で5~6人の班になってもらい、ゲームやクイズを楽しんでもらう。ただ楽しんでもらうだけでなく、大学生活の不安を在学生に相談したり、友達づくりをしたりなどの交流の場としても機能する。



▲多くの新入生が参加してくれた

企画背景

<新入生の入学前の不安を解消>

大学生活という未知の領域に踏み入れる前の新入生の心中は期待と不安が入り混じったものではないか。本企画は新入生の大学生活に対するその「期待」をさらに上げ、「不安」を少しでも解消させることを目的としている。

アピールポイント

<新入生の約73%が参加>

今年度は新入生349人が参加してくれ、これは外大の2019年度入学者数474人に対して約73%の割合である。今年度はSNSでの宣伝を活発に行ったり、また前日に開催していたキャンパスツアーの影響で当日参加の人も多くいたので前年度に引き続き新入生の多くが参加してくれる結果となった。さらに、新入生だけでなく、GLとして98人の在学生にも協力してもらい、GIが行う企画の中で一番大規模なものとなった。



▲受付の様子

組合員の反応

<参加して本当によかった>

セレモニー中は笑い声や驚きの声などで食堂が満たされ、参加者に楽しんでもらえていることが終始伝わった。セレモニー終了後には参加者に対してGoogle formを用いたアンケートに回答してもらったのだが、非常に多くの参加者が満足してくれた様子がわかり、「行くか迷っていたけれど参加して本当に良かった。新学期への不安が和らいだ。」との声も見受けられた。さらに、このセレモニーを通じてできた友達と今でもずっと仲が良いといった声を本企画終了から数か月経った時点でも聞くことができた。



▲満席状態の食堂



▲談笑しながらゲームを行う様子

内容①

<楽しいゲームや外大らしさを取り入れたクイズ>

本企画では、GIメンバーが考えたゲームやクイズを通して新入生に楽しんでもらえるよう工夫した。ゲームでは、自己紹介と同時に自分の将来像を想像しながら進めるすごろくを行ったり、事前に在学生から収集したデータを活用して外大のことで一層興味を持ってもらえるような内容のクイズを出題したりした。さらにクイズでは得点形式のため、同じグループメンバーと協力して頑張る姿も見られた。

内容②

<新入生の疑問解決コーナー>

今回、参加者には事前にGoogle formで悩んでいることや不安なことがあれば入力してもらい、その中からいくつか抜粋してGIメンバーがそれに回答するという場を設けた。なるべく多くの新入生が抱えていると推測できる質問を取り上げ、GIメンバーらの実体験を交えて具体的にアドバイスすることによって、新入生の抱く不安や悩みは解消されたように感じる。学部ごとの特色や就職、大学に入ってから何をすればいいかなど、様々な質問に答え、新入生の不安を解消できるよう奮闘した。

成果

セレモニー中は多くの新入生が楽しんで過ごしている様子が見受けられ、在学生のGLに大学生活の悩みを相談したり新しく友達を作ることができたりなど、本企画の目的である「入学前の新入生の不安を和らげる」ことが達成されたと思う。同時に本企画を運営したGIのこともセレモニー中に随時紹介することができ、これを機にGIに興味をより一層向けてもらえたのではないかと感じた。

課題

本企画は外大の食堂をすべて貸切る形で行うが、新歓セレモニー当日も食堂は通常営業している。そのため、普通に食事をする人への案内が不足している部分があり、当日に食堂利用に関して困っている人を見受けられたところが反省点である。また、今回は音響設備の調子が悪かったため、事前のリハーサル時に徹底して細部まで確認しておくことが必須だと実感した。

取組みを参考にする上で気をつけること

企画の規模（参加者の制限数、日程など）である。外大は他の総合大学とは異なって規模の小さい単科大学であるため、新入生歓迎セレモニーの規模も他大学よりコンパクトな形となっている。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けている組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸市外国語大学消費生活協同組合
専務理事：衛藤昭二 学生委員長：出口愛乃
E-mail : kcufs.gi2015@gmail.com



【事例集】

40

神戸薬科大学学生協 合格者・保護者説明会

活動の教訓ポイント

大学生活の実態を新入生や保護者に分かりやすく伝えた

活動概要

【日時】 2019/2/19
【場所】 神戸薬科大学
【対象】 2019年度合格者・保護者

【内容】 「神戸薬科大学生のキャンパスライフ、入学までに準備すべきこと、心づもり」などについて新入生・保護者様が抱かれる疑問に答え、神戸薬科大学を選択して入学していただくために神戸薬科大学学生協が開催させていただく説明会です。内容は大学生活概要、生協の各種サービス、先輩学生の経験談、学食体験など。

企画背景

<入学前の不安を解消>

入学前に授業のことや就職活動について、また生協や共済、パソコン、教科書購入などについての問い合わせを多くいただいていることから、直接伝える場面を設けた方がよりご理解をいただけたと考えました。

内容①

<説明会>

生協について説明、生協加入、教科書購入について、学生生活について、学生総合共済保険、食堂の利用（ミールプリペイドカードについて）、生協教材（パソコン、電子辞書）など詳しくご説明することができました。

合格者保護者向け説明会では先輩学生が、大学のカリキュラム、高校との違い、講義の様子、薬大生の大学生活、ライフスタイルなどを実際の体験からお話することができました。保護者の方からは「学生の皆様が生き生きと過ごしていらっしゃることに安心感をもちました」などの感想をいただきました。

内容②

<相談会ブース>

相談会コーナーについては、個々の質問に先輩学生や生協職員が応えることができました。アンケートでは、「先輩学生の印象が良く好感をもてた」等の意見が多かったです。



内容③

<学食体験>

学食体験においては、「学食のメニューが豊富なことに驚きました」や「ミールプリペイドカードについて詳しく理解できました」等の感想をいただきました。

成果

生協主催合格者・保護者説明会では、大学様のご協力もあり、多くの保護者、入学予定者の方に参加していただくことができました。

保護者の方からは「在学生の皆様が生き生きと過ごしていらっしゃることに安心感を持ちました」や「先輩の学生の体験談が聞けて良かったです」等の感想が多くありました。保護者や入学予定者の入学前の疑問に真剣に対応していただいた、説明会のスタッフの在学生の方々からは、「学生さんの意見が聞けて良かったという保護者の感想が励みになりました」等の声を聞くことができました。

こういった経験は在学生の方々の成長にもつながっていると考えられます。また次年度に向けての貴重なご意見を沢山聞くこともできました。

課題

- ・大学での学びについて、そして教科書や教材について、先輩方の体験を通じた説明が必要と感じました。
- ・特に相談会コーナーでは、パソコンの説明を聞きたい方が多くおられました。来年以降はパソコンのブースに先輩学生を多く配置し、多くの方が先輩学生のお話を聞けるようにいたします。
- ・今回の説明会は平日でもあり天候の悪い状況にもかかわらず、ほぼ全員の方にご参加いただけたことは、「ご子息の大学での学生生活に対する関心」の高さの表れと考えています。
- ・そのことを、しっかり受け止め学生スタッフの皆さんと検討をすすめ準備を進めていきたいと考えています。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(3) 学びと成長

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けていける組合員。

- 実現に向けて① 組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。
- 実現に向けて② 学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。
- 実現に向けて③ 大学内のすべての人が必要な場面が必要な情報や機会を持ち、自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

神戸薬科大学学生協同組合
専務理事：内田 組合員担当：浅野
E-mail : asano@konan-unvcoop.or.jp



ありたい姿

4

「社会に生きる」

社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

実現に向けて

1. 組合員が社会の一員であることを実感できるように、
組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
2. 社会の一員であると実感した組合員が周りの組合員や社会に対して
継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
3. 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、
大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。



[事例集]

41

立命館生協OICキャンパス 選挙企画

活動の教訓ポイント

組合員が社会に目を向ける・参画するきっかけをつくった取り組み。3か月後に府議会選挙、半年後に参議院議員選挙がある社会の現状をしっかりと踏まえられている。また自治体と協力し実物の投票箱を借りるなど、組合員が社会に生きている意識を持てる工夫がなされていた。



活動概要

【日時】2019/01/10~11
【場所】OIC Cafeteria (OIC Meal Shop前)
【対象】立命館生協組合員
【内容】

OIC Meal Shopで販売している商品を6つに分類し、値引きしてほしいものの選挙企画を行いました。その際、選挙に興味を持ってもらえるようなクイズも行い、知識と実践を通して、選挙をより身近に感じる機会としました。

企画背景

<選挙はもう他人事じゃない>

選挙権が18歳まで引き下げられて二年半が経過しましたが、2019年参議院選挙の10代の投票率は31%であったと言われてます。キャンパスがある大阪府では4月に大阪府議会議員選挙を控えているため、学生委員をはじめとし、組合員にも選挙に関する実態やそれがいかに大切なものであるかを伝え、実際に選挙に投票をしに行ってほしいという想いのもと、企画を開催しました。

アピールポイント

<知識だけじゃない、実践>

この企画では参加者に本当の投票の流れをより実感してもらうために、茨木市役所にご協力いただきました。実際に選挙で使用している投票箱をお借りし、投票用紙のコピーを借らせていただいたの開催といたしました。

また、親しみのある OIC Meal Shop の商品カテゴリーを実際のマニフェストポスターなどを参考に、疑似政党に見立てポスターを作成しました。それを元に投票先を選んでもらうところから、投票所で本物の投票箱に投票するところまでの流れまでを再現し、よりリアルな実践経験を目指しました。

組合員の反応

<興味から参加を促す>

OIC Cafeteriaにどん！と置かれた本物の投票箱は組合員の興味を引きました。初めて見る投票箱の重厚感に驚く声や、本物の投票箱に投票したくなったといった、大阪府議会議員選挙への投票参加意欲を感じるような声を多く頂きました。

また、親しみのあるOIC Meal Shop の商品が割引されることに魅力を感じて参加したが、選挙についての知識が深められたことで選挙自体に興味を持てたという声を頂き有意義な企画となりました。



情報宣伝用ポスター

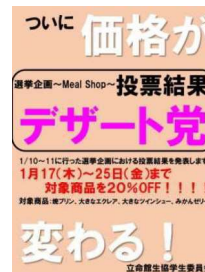


▲疑似政党ポスター



▲クイズブースの様子

商品割引宣伝ポスター



内容①

<必要性の根拠は現状から>

企画中に行ったクイズでは、今日の投票率や選挙の仕組み、近日行われる選挙の時期や日程などを組み込みました。難しく驚いたという声や、意外な正解だったという声を頂き、楽しみながら悩んで知識を深められるものとなりました。データを通して現状を知り、選挙に行く必要性を改めて実感してもらえる内容でした。制作にあたり、学生委員もより知識を深め、伝え広めることができました。

内容②

<必要性を感じる入り口>

「選挙」という一見取り組みづらいテーマですが、生協の「組合員が運営する」という仕組みを活かし、生協店舗の商品割引と結びつけることで、より選挙を身近に感じてもらえる結果となりました。実際の投票箱に投票できる点も関心を持ってもらった要因となりました。

さらに、選ばれた商品が実際に割引になることで、自分の意見が反映されるとはどういうことなのかを実感してもらえる良い機会となったと考えます。



▲投票箱に投票する組合員

成果

選挙について考えるきっかけになったという声が多かったです。選挙という関心を持ちにくいテーマも、店舗商品の割引と結びつけることでハードルを下げ、興味をひく結果となりました。

また実物の投票箱を使用し、クイズという方法で知識を深めてもらったことにより、さらに関心を持ってもらえたことが大きな成果と言えます。

課題

今回の企画は、大阪府議会議員選挙を焦点に行いました。しかし、立命館大学には下宿生が多く在学するため、ターゲットが限られてしまった点と、その下宿生に向けての情報提供が地域によって投票方法や制度が異なるため曖昧になってしまった点が課題と考えます。また、投票の流れや知識は深められたが、どの政党に投票したらいいかわからないという声も頂きました。

取組みを参考にする上で気をつけること

生協という組織は政治に関して消費生活協同組合法第2条第2項で、「消費生活協同組合はこれを特定の政党のために利用してはならない」と規定されており、慎重な企画作りが求められます。さらに、現状では投票率増加を知る手段がないため、次企画に生かすことが難しいといえます。そのため、選挙後に結果を測るアンケート実施等を行う必要があることが注意点として挙げられます。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる
社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをとりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

立命館生活協同組合
専務理事：酒井 学生委員会 担当：門田
E-mail : cp0070rh@ed.ritsume.ac.jp



【事例集】

42

京都府立医科大学・府立大学生協 平和に関する取り組み



活動の教訓ポイント

今年度から平和についての活動に力を入れました。
学習会から始まり、他の団体とも連携し、組合員にも
考えてもらうためにできる活動を継続して行いました。

活動概要

PN!2018参加後から活動を始め、平和に関する取り組み
を継続的に行ってきました！

- 【内容】・部会での学習会
- ・ヒバクシャと話すKyoto原爆展への参加
- ・ヒバクシャ国際署名の呼びかけ
- ・身近な平和について考える企画
- ・ヒバクシャと話す会



▲原爆展にて署名を呼びかけるGI

企画背景

「平和についてみんなにも考えて欲しい！」

PN!に参加したGIが主体となって活動を始めました。京都府立大学では平和に関する取り組みは今まで
行われておらず、一からのスタートであったが、部会での学習会や、ヒバクシャ国際署名を集めるところ
から取り組みを進めました。

アピールポイント

京都府生協連合会と連携！

京都府生活協同組合連合会の方と協力し、「ヒバクシャ
と話すKyoto原爆展」という企画の運営をお手伝いさせて
頂きました。PN!で感じ取った想いをポスターにしたもの
を展示したり、ヒバクシャの方々とワールドカフェ形式で
話したりしました。そこで出会ったヒバクシャの方をお招
きし、今回の企画が実現しました。自大学でどのような企
画を行えばいいか全く分からない状況でしたが、この企画
に参加することで大きなヒントを得ることができました。



▲ヒバクシャと話すKyoto原爆展

組合員の反応

あなたが平和だと感じる瞬間はいつ？

「平和」・「戦争」といったワードは、自分とは関係な
いと思っていたり、身近に感じるのが難しいと感じている
人が多く、なかなかとつきづら問題でもあります。そ
こで、「あなたが平和だと感じる瞬間はいつ？」という
シートを作り、組合員に身近にある平和について考えても
らうところから始め、多くの組合員が参加してくれました。
また、社会的課題推進委員のメンバーが作成してくれた
「平和×○○」というシートも同時に展示し、少し踏み込
んだ内容にも触れました。



▲「あなたが平和だと感じる瞬間はいつ？」



▲総代会にて署名を呼びかけるGI

内容①

平和活動を広める

私たちは平和活動をより多くの組合員に広げるために、
総代会や、自大学の別の企画(自転車点検会・健康フェス
タ)でのヒバクシャ国際署名の呼び掛けを行いました。い
きなり平和に関する企画に取り組みのは難しいかもしれま
せんが、既存の企画に“ちょい足し”することによって簡単
に取り組みことができ、組合員へのアプローチもしやすい
です。これらの取り組みから、合計52名の署名を集める
ことができました。

内容②

交流を通して平和について考える

当日はお招きしたヒバクシャの花垣ルイさんの話を聴きなが
らうなずいたりメモをとる参加者の姿が見受けられました。花
垣さんはただ被爆したときを話すだけでなく、それ以前にどん
な遊びをしていて何を親に叱られたなど戦時中から戦後しば
らくの間までや、平和活動を始めたきっかけをありのままに語
ってください、他にも写真や紙芝居などを用いて様々に伝えて
くださりました。当初の予定時間を越えたにも関わらず、全体解
散後も花垣さんと交流する組合員が見受けられ、参加者に自分
の考え・思いを持ってもらうきっかけになれたのではと思います。



▲ヒバクシャの方と話す学生

成果

本大学では今まで平和活動を行ってきませんでした
が、「あなたが平和だと感じる瞬間はいつ？」ではたくさんの方が企画に参加してくれま
した。また、ヒバクシャ国際署名も52名分(11/2
現在)の署名を集めることができました。GIが学
習会を始めるところから取り組みを始めましたが、
1年でここまで活動を広げることができました。

課題

「あなたが平和だと感じる瞬間はいつ？」や、
ヒバクシャ国際署名に署名してくれた人は多か
ったものの、ヒバクシャと話す会への参加者は少な
く、平和への関心の低さが今後の課題です。
関心はあるかもしれないけど、我々が興味を引
けているかも考えていかなければなりません。

取組みを参考にする上で気をつけること

今回の取り組みでは外部の方との連携が多く、同じように取り組むのは難しいかもしれません。
ですが、学生と一緒に活動したいと考えている人は意外と多いと思うので、積極的に外部の方ともコミュ
ニケーションを取れば、実現できると思います。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる

社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、
組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して
継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、
大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

京都府立医科大学・府立大学生協生活協同組合
専務理事：林 学生委員会おれんじ 委員長：森脇
E-mail : kpu.caps@gmail.com



[事例集]

43

奈良教育大学生協 防災WEEK



活動の教訓ポイント
連帯での学びや想いを自大学に広げ、多様な視点で社会的課題に目を向けました。組合員が防災を意識しやすいような工夫をしています。

活動概要

【日時】2019/01/24~30
【場所】生協食堂、購買
【対象】組合員
【内容】普段分かれて活動している店舗購買局、共済局、IPE局、広報局の四局が合同となり防災について一週間取り組みました。非常食の試食会、防災グッズの展示・販売、クイズ、SNSによる動画投稿、防災に関するボード作成などを行いました。



▲購買に防災グッズを展示！

企画背景

「災害を身近に感じた今だからこそできることを」

去年は西日本豪雨災害や大阪北部地震など多くの災害に見舞われました。組合員も災害を身近に感じた人が多かったことと思います。災害の記憶が新しい今(去年)だからこそ防災について取り組むべきではないかと思ひ企画を行いました。

アピールポイント

二人から共感の輪が広がった

本企画が発案されたきっかけは、去年の8月にエリアで行われた社会的課題推進委員企画に奈良教育大学から二人の学生委員が参加したことです。その企画を通して「防災」について災害が多かった今(去年)だからこそ取り組むべきではないかと思ひました。そこで普段分かれて活動を行っている四つの局長に相談しました。そして四つの局すべてが「防災」について取り組むことになりました。二人の学生委員からすべての学生委員へ共感の輪が広がり、取り組みにつなげることができました。

組合員の反応

組合員の多くが注目

学生委員会のSNSで災害時に使えるモノの実演動画や、防災に関するちょっぴきを毎日一回発信しました。すると、動画の再生回数は2980回になりました。多くの人に取り組みを注目してもらい、組合員が防災について考えるきっかけを作ることができました。



2980 回再生済み
▲2980回の動画再生回数！

奈良教育大学生協学生委員会・2019/01/30
ちょっぴきに！⑥

冬は極寒の避難所生活、震える体を温めるのは愛しの彼女彼女ではありません💔

Tシャツ→カッター→上着の順番で服を着ることでサウナスーツ効果で心も体もポカポカになります👏💕

災害に備えて、一度試してみたいかかでしょうか？👏

▲毎日ちょっぴきにを投稿

子供が泣き出した!!!オムツ交換が必要なようだ。
親 はどうする？！

戦う
道具 ◀
諦める
逃げる

【道具】
オムツ×0
スーパーの袋×999
タオル×1

▲クイズを投稿

内容② IPE・広報×防災

IPE局と広報局はSNSを活用し防災に関する取り組みを行いました。IPE局は社会的課題を取り扱う局で、組合員が社会的課題に目を向けられるよう取り組んでいます。今回は社会的課題の中の「防災」に関してSNSを活用し取り組みを進めました。広報局は普段からSNSを活用し、組合員への学生委員会活動の周知や参加促進をしていますが、今回は**組合員が防災について意識を持てるよう動画等**で組合員に想いを伝えることができました。

成果

「防災」に関する動画をSNSに投稿したところ2980回の再生回数になりました。SNSの投稿を通して目的に置いた**組合員の防災意識の向上につながった**のではないかと思います。

取組みを参考にすることで気をつけること

「想い」の共有をすることです。「防災」についてそれぞれの局で何かしてほしいという「取り組み」が先行するのではなく、**なぜ今「防災」についてみんなで取り組みたいか**という「想い」を大事にして取り組みました。何か取り組みを行う際はそこに込められた想いを大切に取り組みしてみてください。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる
社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると実感した組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

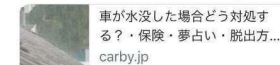
内容① 店舗・共済×防災

店舗購買局、共済局は二局合同で、防災グッズの展示・販売や防災に関するボード作成、非常食の試食会を企画しました。店舗購買局は普段行っている試食会や販売促進に防災をちょい足しする視点を持って取り組みました。また共済局は組合員が災害に巻き込まれないようにという視点から取り組みを行いました。

奈良教育大学生協学生委員会・2019/01/27
ちょっぴきに！③

もし津波などで水没した車に閉じ込められたら！?

車の中に備えがないときは、小銭をたくさん靴下やビニール袋に詰めて、窓に叩きつけましょう！窓が割れて脱出できます！いざという時のために覚えておいてください😊



▲生協学生委員会のSNSを活用

課題

今回の企画は一週間のみで、その後「防災」に関する取り組みができていないところです。四局それぞれ取り組みたいことがあり、本企画を恒例企画にすることは難しいですが、防災に関する取り組みが今回だけで終わらないよう心掛けていきたいと思っています。



【この事例に関するお問い合わせ先】

奈良教育大学生協同組合
専務理事：石間奈穂子 学生委員会：足立
E-mail : nishima@u-coop.net

【事例集】

44

近畿大学生協東大阪キャンパス ちょっきにボード



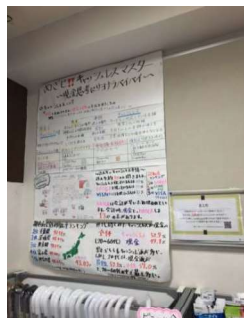
活動の教訓ポイント

大学の状況や組合員の声を大切に、他大学のボード作成方法を参考に、職員と協力しながら学生委員も成長できた取り組み

活動概要

【日時】 2019年7月
【場所】 21号館 pl um 食堂 Novmber
【対象】 組合員

【内容】 組合員の「ちょっと気になる事」をテーマに掲示物として情報発信する企画。社会班で作成した記事を所定の場所に掲示する。ちょっきにボードを作成する上では、正確な事実を基に情報発信するように留意する。文献などの出典元は必ず書くこと。

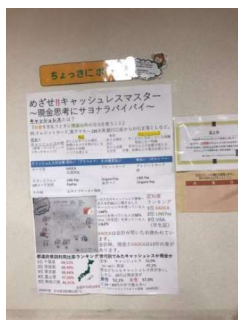


企画背景

今の大学生は社会活動への参加率が少ないという事実がある。このことから、社会的課題についての興味関心が低い。

アピールポイント

見てもらうための工夫として、情宣に力を入れた。具体的には、Twitter以外に、店舗の前においてある、電工掲示板も使わせてもらうことができた。テーマをタイムリーなものにした。場所も、食堂で並んでいる途中に見られる場所に配置した。



組合員の反応

組合員に、「次回はどのようなテーマで作成してほしい？」とGoogleフォームや紙できたところ、約10件ほど、リクエストが来た。また、記事を見て、テーマについて興味をもってくれたような反応が多かった。

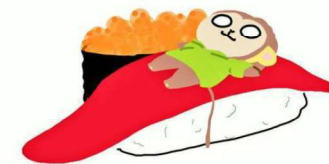


内容①

税金について記事を作成した。理由は、税金の制度の変更があったからである。その変更の中でも意外に知られていなかった（当時）、「軽減税率制度」についてもこの記事に掲載した。

内容②

キャッシュレスについて記事を作成した。学校が推奨していたからである。組合員の方にアンケートを取って、実際に学生がどのくらい使っているのか、など学生が身近に感じる記事作成を心掛けた。



成果

記事の中にいれたQRコードにも反応があった。立ち止まって見てくれる人もいた。作ったメンバーのためにもなった。

課題

次につなげる反省が難しい。見てもらえても、実感がわかない反応の少なさ

取組みを参考にする上で気をつけること

組合員との関わり方、巻き込み方
・組合員のニーズにこたえる → テーマ募集
自己満足にならないようにする

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる
社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

近畿大学生協共同組合
専務理事：後藤 学生委員会担当：森本多門
E-mail：t.goto@u-coop.net



【事例集】

45

大阪大学生協豊中キャンパス リユースマーケット



活動の教訓ポイント

新生活におけるニーズを捉え、卒業生と新入生(留学生)という幅広い組合員が環境活動に参加できた◎

活動概要

【日時】3月24日(日)
 【場所】学生会館集会室
 【対象】提供してくれる卒業生、新入生や在學生
 【内容】
 ・2月中旬～3月中旬にかけて、土日・祝日を利用し、不要となったけどまだ使える家具・家電を回収する。それを清掃したうえで、それらを必要としている新入生や留学生などに提供する。



▲当日の様子

企画背景

＜新生活に伴う経済的負担＞

環境活動をしたと思っているが、実際に環境活動をしている大学生は少ない。中でもリユース活動に関しては、物を他人に受け渡すという段階を要するため、実際に行動に移すことができていない人はより少ないと考えられる。また、リユース活動をする機会自体も少ないため、このままだとリユース活動に関する意識が薄れ、これからも取り組むことがあまりなくなると考えられる。

アピールポイント

＜リユースを体験＞

環境省のアンケートからもわかるように、リユースに興味がありつつも、環境活動を行う機会がないと答えている人が潜在的に多く存在する。本企画ではそのような機会を提供するとともに、リユースに伴って組合員の経済的負担、環境に対する負荷の軽減を同時に達成することができる。

ただ家具・家電を安く手に入れる機会として終わるのではなく、実際のリユース体験を通して環境に対する意識を持ち、環境活動のハードルを下げることで日常レベルの環境活動を行うきっかけにしてもらうことができます。

組合員の反応

＜これからも続けてほしい＞

本企画でアンケートをとった結果、コンセプトに共感していただきこれからも続けてほしいとの多くの声をいただきました。実際にリユースを行ってみることで、今まで経験したことはなかったが環境問題に対する意識が芽生えたとの声もいただきました。

特に、4年前に物品を獲得して、近年にまたその物品を提供していただくということがありました。このように、リユースの輪をつくり、広げていくことができました。



▲スタッフの様子



▲物品配送の受付



▲物品に番号を振る

内容①

＜物品の回収・洗浄＞

不要となったけどまだ使える家具・家電を持った卒業生のお宅に訪問し、物品を回収します。その物品を分類分けをし、番号を振ることで管理します。この番号は提供する際にも、誰にどの物品を提供するのかわかりやすくします。また、集まった物品は清浄し、ちゃんと機能するのか確かめてから提供まで保管しておきます。

内容②

＜リユースマーケット当日＞

回収した物品を新入生や留学生に提供します。物品を獲得する際の代金はカンパ制を導入し、物品獲得者が自由に決められるようにします。

当日は学生委員会が役割分担をし、提供していきます。後日受け取りと当日受け取り、また業者さんに頼んで配送の中から選ぶことができます。どの物品でも自由に獲得できる時間と、家電以外を獲得できる時間に分けたり、家電の獲得数を限定したりなど不公平のないように工夫をしています。



▲開始前の様子

成果

アンケートから、新入生や留学生の経済的負担を軽減することができたとの声をいただきました。回収物品は約400もの数になるので、環境に対する負担も軽減することができたと思います。

実際にリユースすることによって、これからの生活にも環境に対する意識を持った行動を心掛けるきっかけになったと思います。

課題

学生委員会で行う際に生じる赤字を埋めるために「カンパ制度」をとっています。この制度は、物品を獲得した際に好きな金額を出してもらおうという制度です。この際に赤字とならないように、うまく調整することが課題となります。また、当日におけるスタッフの負担軽減や、参加者に対する環境の啓発活動に関してもより効果的になるように工夫しなければなりません。

取組みを参考にする上で気をつけること

集めた家具家電の中には、壊れて使えないものもあります。また、提供した後に生じる諸問題にも対処しなければならないため、保証期間をつけています。カンパ制度を取っているのでお金の問題も関わってくるので責任が伴います。このように、提供する際に家具・家電に対して慎重に扱わなければなりません。また、大学側との連携も重要になってきます。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる

社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】
 大阪大学生協協同組合
 専務理事: 関戸 雅弘 学生委員長: 大津 侑希
 E-mail: gi@osaka-univ.coop

【事例集】

46

大阪教育大学生協柏原キャンパス キャップで世界を救うのだ！ ～投票でポイントゲットだけ～



活動の教訓ポイント

長期間企画を行うことで、組合員や大学の関心を
仰ぎ、大学にいる全員で分別や平和についての
意識を持てた！

活動概要

【日時】 2019/07/08～2019/07/31
【場所】 サンクンガーデン(店舗前)・A-215前(講義室前)
【対象】 普段ごみの分別を意識していない人
【内容】
組合員にペットボトルを用いたアイスの人気投票を行って
もらう。毎日参加してくれた組合員には参加回数ごとに
景品をプレゼント。
最終的に勝ったアイスが企画後一週間+5ポイント。

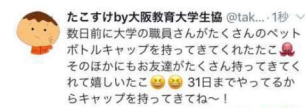


▲7つの推進分野の中の環境に着目

企画背景

<リ・リパックに代わる新しい環境媒体とは……？>

7つの推進分野のうち、環境に関する企画を大阪教育大学では毎年リ・リパックを用いて行っていた。マンネリ化した企画内容の刷新と新しい媒体の可能性を見出たく、より組合員に近い媒体であるペットボトルキャップを用いて環境企画を行うことに決めた。



▲大学職員さんが参加して下さった時の写真とそのツイート

アピールポイント

<職員の協力もあり大成功！！>

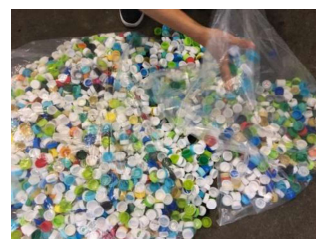
この企画では主に生協の4つの使命のうち協同と参加に重きを置けたと思う。

協同では生協職員の方と景品内容の相談やアイスのポイントアップの詳細に関する打ち合わせを行ったことや大学職員の方が企画に初めて参加して下さったことが、参加に関しては、下記の成果の欄にも記述しているが、目標数を大幅に上回った数のキャップが集まった=大勢の組合員に参加してもらったことが挙げられる。

組合員の反応

<案外みんなキャップ持ってた！>

ペットボトルの消費量が多くなる7月に企画を開催したこともあり、気軽に参加して下さる組合員が多かった。また、今まで家で溜めていたキャップを持ってきて下さる方や、講義棟のごみ箱に溜まっていたキャップを集めて持ってきて下さった方もいた。



▲集まった約3500個のキャップ



▲企画中の写真

内容①

<キャップでアイスの投票！>

組合員にペットボトルのキャップを持ってきてもらい、店舗で販売しているアイスの人気投票をキャップで行ってもらう。1日につき1つスタンプカードにスタンプを押し、その個数ごとに景品をプレゼントする。
全日程終了時点でキャップの投票個数が多かったアイスは企画終了後の一週間、ICカードでの購入の際に+5ポイント。

内容②

<集計、そしてワクチンへ…>

集まったペットボトルは集計、箱詰めし回収業者に受け渡し、約860個で20円に換金してもらい発展途上国の子供たちへのワクチンに変えてもらう。
【後日談】
大学側に結果報告をし、構内のリ・リパックボックスにキャップ回収ボックスを設置することとなった。



▲新設されたキャップボックス

成果

大勢の組合員の協力もあり、当初の目標の2倍以上の3522個のキャップが集まった。
多くの組合員の協同と参加の達成、SDGsのうちの“すべての人に健康と福祉を”、“つくる責任とつかう責任”、“パートナーシップで目標を達成しよう”の、三つの目標にアプローチできた。
また、学生委員会の認知にも繋がった。

課題

多くのキャップが集まったとはいえ、多くのワクチンを作ることが出来たわけではない。
大切なのはこの企画を通してより多くの組合員が分別の意欲を見せ、これからの社会に貢献できる取り組みを行うことである。
組合員がそんな取り組みを行おうとするきっかけ作りをこれからも企画や活動を通して行い続けることが私たち学生委員の課題であると考えている。

取組みを参考にする上で気をつけること

(この企画に限らないことだが、)初めての企画の集客人数の予測は特に難しい。集客人数を確定させなければ景品のラインナップであったり、開催期間が大きく変わってくる。まずは過去の様々な企画の集客数を把握し集客数を予想、その集客数における生協側への損益を計算し具体的な数値を見出してから職員に相談することをお勧めする。

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる

社会の一員であることを意識・実感し、
自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけづくりしましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。



【この事例に関するお問い合わせ先】
大阪教育大学生協同組合
専務理事：十川 学生委員会担当：山本
E-mail: daikyougaku@gmail.com

[事例集]

47

兵庫県立大学生協 姫路工学キャンパス #ツタエルヘイワ



活動の教訓ポイント

組合員に考えるきっかけを与えるために、組合員に浸透しているツールで身近なところからアプローチ！

活動概要

【日時】2019/4/1~7/22

【場所】

【対象】Twitterを利用している組合員

【内容】組合員が普段、大学生活を何気なく送っているだけでは気づきにくい「身近な平和」について、日常生活で組合員の多くが利用しているTwitterを使い、キャンパスの中心である、姫路に関することをメインに発信した。

企画背景

身近な平和に気づきにくい組合員

平和と聞くと、難しくであり大きすぎる問題であるため大学生活を通して、組合員が平和を考える機会がない。また、大学生活を日々送っていることが当たり前になっていて、ご飯が食べられたり、友達と遊んでいる毎日は「身近な平和」だということに気づいていない。

アピールポイント

日常の中にあるもの

活動を通して日常生活、つまり大学生活を送っている中で感じてもらえる平和について考えてもらうための発信方法と内容を考えました。

1つめは、組合員の多くが日常的に利用している

Twitterを使っての情報発信をすることです。

2つめは、キャンパスの中心にある姫路に関する情報

内容にすることです。日常の中に注目することで、平和を自分事として考えてもらえるようにしました。



姫路市平和資料館の近くにある
太平洋戦全国戦災都市空襲犠牲者慰霊塔

組合員の反応

考える機会がすぐそこに

ハッシュタグをオリジナルで作ることで、ツイートをみない組合員に#ツタエルヘイワと調べること、平和に関することがみられることを組合員どうしで伝え合い、平和の輪が広がった。また、RTやいいねからも組合員がツイートを読んでくれていることが分かり、今まで以上に身近なところから平和について考えられるようになった。

兵庫県立大学生協学生委... · 2019/04/26 ·
姫路市平和資料館をご存知ですか？

姫路といえば白く美しい姫路城のイメージがありますが、姫路市平和資料館という姫路の歴史を知ることができる資料館があります

#ツタエルヘイワ では姫路城の意外な歴史も知ることができるかもしれません！

#uhcoop_gj
#ツタエルヘイワ



内容① 今の社会だからこそ

情報社会だからこそ、スクロールしていく中で目にとまる写真と短時間で平和について少しでも感じてもらえる情報をTwitterを使って発信した。

左の橋は、大学にバスで通う組合員なら一度は目にしたことのある「白鷺橋」この橋には、空襲で焼け焦げた痕があります。当たり前前に大学に通うために通る橋からも、今は平和であるということが分かる内容になっています。

内容② 人それぞれ感じることの違う平和

平和と聞くと戦争という言葉で連想しがちですが、平和と感じることは人それぞれ違います。あなたにとっての平和とは、...、ということで、右の写真は姫路城でくつろぐ猫の写真です。いつもと変わらない日常があることも平和であるからこそ成り立っているということを組合員自身に感じてもらう内容になっています。

皆さんにとっての平和ってどんな時ですか・・・？一度考えてみてほしいと思います。



成果

身近な平和についてのツイートをすることで、組合員一人一人が平和について考えることは勿論、組合員同士で考える機会を与えられた。

また、Twitterを利用することで、拡散機能を有効活用しより多くの組合員が目にする事ができ、さらに何度でも見直すことのできるものになった。

課題

平和という組合員にとって、難しい問題についてまずはTwitterを使って情報を発信した。

しかし、Twitterを利用していない組合員に対するアプローチができていなかった為、今後はボクスターやInstagramなども活用し、より多くの組合員の学びと成長に繋げていく。また、ツイート頻度を上げることで、より多くの平和を組合員に考えてもらえるようにする。

取組みを参考にすることで気をつけること

自大学の組合員に考えてもらえやすい内容は何かをしっかりと話し合うことが大切です。また、平和という言葉自体、組合員にとっては難しく感じることもあり、発信しても読んでももらえない可能性もあるため、「身近な平和」や「日常の中にある平和」について積極的な組合員である私たち学生委員が常に考え、発信する内容を考えることが大切だと思います。各生協ならではの、平和を是非考えてみてください！

2020年ブロック方針との関係性

ありたい姿(4) 社会に生きる

社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

- 実現に向けて① 組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。
- 実現に向けて② 社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。
- 実現に向けて③ 社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

【この事例に関するお問い合わせ先】

兵庫県立大学生協生活協同組合
専務理事：末松信泰 学生委員会平和担当：高橋明日香
E-mail：uhcoop@live.jp



WHAT IS 広報?

広報のイロハをご紹介する「広報通信」。月1号程度発信していきます！
これから始まる新年度。新たな心境で活動に取り組む皆さんも多いのでは？
でも、企画を作っても組合員の皆さんが参加してくれないと、もったいない
ですね。
折角考えた企画をより効果的に広めるために重要なのが広報。
今号では、広報ってなんで重要なのかを考えていきます。

01 そもそも広報って？ 広報 = 発信 × 受信。
発信だけじゃないんです。 どちらが欠けても成り立ちません。



広報①「企画前広報」

「こんなことをやります！」等、
想いを伝える場(=企画等)に
参加してもらうために情報を発信！

広報②「意見集約」

組合員の皆さんが、想いを伝える場
(=企画等)に参加して何を感じたか
や、組合員の現状を集めよう！

①②両方合わせて、「広報」といいます！

If…「広報」が無ければ…

広報①「ただ企画しただけ……」になってしまう。
参加してもらってこそ「組合員のより良い生活」につながる。
広報②組合員の現状にあった企画にならない。
効果の高い活動に結びつかないよね…。

02 どんな手段があるか、現状を整理しよう。

各手段のそれぞれの特徴をご紹介。
どの発信手段が最も効果があるか、
どの意見収集手段が最も意見が集まるか、
見比べてみよう。

SNS



●手軽に情報を発信できる！
▲正確な情報を発信しないと炎上するリスク。
→どれくらい見られているか分析できていますか？
閲覧回数データ等の見方を特集していきます！

紙媒体



●広いスペースを活用して密度の高い情報を発信！
▲近い内容を繰り返して、マンネリ化しやすい。
→どれくらいの効果があるか検証できていますか？
分析・デザインのコツも紹介していきます！

電子媒体



●企画や活動を直感的に訴えられる！
▲ネタ化や、作ること自体が目的になりやすい。
→正しい情報を見やすく発信できていますか？
K's NEWSで先進的な活動を取り上げていきます！

意見収集



●組合員の声や現状を把握することができる！
▲意見収集自体が手段となってしまったり、
数的なデータ収集のみになったりしがち。
→意見集約ツールをご紹介します！

あくまで手段であるということを忘れずに、自大学の活動を整理してみましょう。

03 正確な情報の迅速発信で「信頼」獲得！

どんなに効果的な手段を使っても、的確な
情報を発信していなければ受け手の「信頼」は
獲得できません。

学生委員会/組織部・生協内での共通認識を作ろう。

発信する学生委員/組織部員によって、活動や企画の情報がずれていると…
→混乱したり、本当に大事にしたい想いが伝わらないよね。

共通認識を
書いた資料



企画リーダーや委員長/組織部長が
広報してほしい事柄を記す。

共通認識があるから情報のずれが起きにくい！

広報出前講座やります！
興味のある方は
以下のアドレスまで！



関西北陸ブロック
学生事務局
[平澤 卓磨]

本年度関西北陸ブロックでは、
「デザイン」「分析」「情報リテラシー」
をテーマに、広報活動をより効果的に行っている
ようなフォローをしていきます。広報についてのお
悩みや出前講座のご依頼は担当事務局か下記アドレ
スまでお気軽にご相談ください！

ブロック共通分野広報担当：平澤
hirasawa.tk@fc.univcoop.or.jp

自大学活動の現状を分析してみよう

広報のイロハをご紹介する「広報通信」。
 今回は「自大学活動の現状を分析してみよう」と題し、効果的な企画前広報や機関紙などの情報発信をするための、自大学活動・企画の分析方法をご紹介します！
 今回ご紹介する分析手法は、広報のみならず学生委員会・組織部の運営にも使えるスキルですので、ぜひ学生委員会・組織部みんなで読んでくださいね。

01 SWOT分析って知ってる？

まずは自分たちの組織や活動の現状を知ってから。



【SWOT分析とは？】

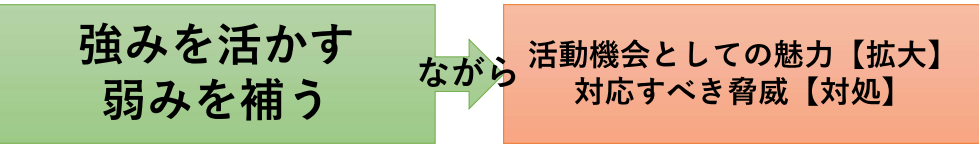
組織やプロジェクト(企画)を進める上でとるべき戦略(方向性)を決めるために、強み・弱み・機会・脅威を書き出して整理する分析手法のこと。

組織や取り組んでいる企画の現状を以下の枠で分析してみよう。

	😊 プラス要素	😞 マイナス要素
組織内でコントロール できる ➡	活かすべき強み (Strength)	克服すべき弱み (Weakness)
組織内でコントロール できない ↓	活動機会があるか (Opportunity)	避けるべき脅威 (Threat)

「特に重点的に取り組むべきテーマ」を洗い出そう

「特に重点的に取り組みべきテーマ」を考える視点



02 具体例でSWOT分析を理解してみよう

実際の事例をもとに、SWOT分析を理解しよう！

例)とある学生事務局の個人Twitterのフォロー増加のために

	😊 プラス要素	😞 マイナス要素
組織内でコントロール できる ➡	活かすべき強み(Strength) ・ 投稿するときに必ず写真をつけていて楽しそう	克服すべき弱み(Weakness) ・ たまにぼやきツイートをしてしまうことがある
組織内でコントロール できない ↓	活動機会(Opportunity) ・ 学生事務局なのでブロック内での知名度は高い。	避けるべき脅威(Threat) ・ Instagramの方が流行っているのかも。

【S】強みを活かす
投稿するときに必ず写真をつけていて楽しそう

【T】脅威に対応
Instagramの方が流行っているのかも。

「特に重点的に取り組むべきテーマ」
 リプ機能を活用して、みんなで写真や動画へのリプを促進するツイートを投稿して、もっと魅力UPを目指す！

上記具体例はあくまで一例です。
 今回はわかりやすくお伝えするため、大枠のみを掲載しました。
 SWOT分析についてもっと知りたい方は、「SWOT分析」で検索！

03 まとめ ~SWOT分析から~

「伝える」ためには、まず自分たちの現状を分析し、可能性をみんなで再確認することが大事！

広報出前講座やります！
 興味のある方は以下のアドレスまで！



本年度関西北陸ブロックでは、「デザイン」「分析」「情報リテラシー」をテーマに、広報活動をより効果的に行っているようなフォローをしていきます。広報についてのお悩みや出前講座のご依頼は担当事務局か下記アドレスまでお気軽にご相談ください！

ブロック広報担当：平澤
hirasawa.tk@fc.univcoop.or.jp

“伝えるデザイン”を学ぼう！

広報のイロハを紹介する「広報通信」。
 今回は「伝えるデザイン」を学ぶ」と題し、「情報を伝える」ための基礎的な知識をお伝えします！
 “魅せる”ことにフォーカスを当てるのではなく、“伝える”ことにフォーカスを当てることで、わかりやすいデザインを目指しましょう！
 今回紹介するテクニックは、誰でも簡単にできるものですので、ぜひ参考にしてみてください！


デザインって何？

01 “伝えるデザイン”が大前提！

走るための構造が成り立っていないと、車は走りません！同じように、“伝えるデザイン”が成り立っていないと、どれだけ素晴らしい“魅せるデザイン”も意味がないのです！まずは“伝えるデザイン”を学びましょう！

“伝えるデザイン”
 →「情報を伝える」ための基礎的な知識
 →わかりやすいデザイン

車で例えると…**走るための構造**
 車輪／エンジン／フレーム
 など…



“魅せるデザイン”
 →気持ちを揺さぶる役割・適材適所

車で例えると…**いろいろ**
 車輪の大きさ／フレームの形／窓の形
 など…

02 デザインはセンスではない!!

“伝えるデザイン”は、「**情報を伝える**」ための基礎的な知識。“魅せるデザイン”は、気持ちを揺さぶる役割を持ち適材適所なもの。“魅せるデザイン”には様々なパターンがあり、より多くのパターンを知ることで対応できるようになります。
 センスはあくまで経験から感覚的にできるまれな人にあるもの。“伝えるデザイン”は今日紹介するポイントを学ぶことで、“魅せるデザイン”はいろんなパターンの先例を見ることで得ることができる「知識」なのです！

+ みんなができることは？

- **伝えるデザイン**
 →デザインの基礎的な知識を学ぶ
 →わかりやすいデザインを学ぶ
- **魅せるデザイン**
 →実際に使えそうな代表的なパターン例を学ぶ
 →自分のイメージに近いパターンを探す、学ぶ

+ 今回の広報通信で扱うこと

- **伝えるデザイン**
 →デザインの基礎的な知識の一部を紹介
- **魅せるデザイン**
 →実際に使えそうな代表的なパターン例を紹介
 →自分で探し学ぶためのツールの紹介

“伝えるデザイン”の基礎知識

01 [揃える] 揃えるだけで見やすさアップ！

冬の思い出

北陸新幹線に乗りました。一番かっこいいよね。乗り心地も最高でした！

群馬県の温泉にきました。雪が積もっててびっくり！静かでしたいい場所でした。



冬の思い出

北陸新幹線に乗りました。一番かっこいいよね。乗り心地も最高でした！

群馬県の温泉にきました。雪が積もっててびっくり！静かでしたいい場所でした。

?

冬の思い出

北陸新幹線に乗りました。一番かっこいいよね。乗り心地も最高でした！

群馬県の温泉にきました。雪が積もっててびっくり！静かでしたいい場所でした。

- ・見やすく整理整頓
- ・見えない線を意識する！
- ・テキストの大きさと写真の大きさを調整する

02 [グループ化] 視覚的に情報をまとめる！

「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！



「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！

?

「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！

- ・関連のある項目同士を近くに配置する
- ・スペースを使う
- ・枠や色を使う

03 [余白を取る] 心にも情報量にもデザインにもゆとりを

「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！



「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！

?

「農村体験ツアー」の思い出

バター作り

- 牛乳を振ってバターを作った。
- 濃厚でおいしい！

里芋堀り

- 里芋を素手で掘った。
- 泥だらけになったけど楽しかった！

- ・枠の周囲にスペースを空ける
- ・文字の量・大きさを調整する

※PowerPointの場合は枠と文字を別々に作るとよい◎

“魅せるデザイン”をつまみ食い！

“魅せるデザイン”は様々なポイントがありますが、今回は簡単なものを3つご紹介します！

01 [図版率] 文と絵の割合

新学期キックオフセミナー

全体報告の時間

基調報告や全体での事例発表を通して、2020年度新学期的ポイントを理解する。



分科会の時間

今年度の様々な新学期活動の事例から、新学期活動に有効なことを考える



自大学の時間

1日の学びをもとに自大学のみんなと2020年度の新学期に向けた動きを考える



- ・イラストや写真が多いほど親しみやすくなる！
- ・明快なイラストは写真より視覚的印象が強い！

02 [ジャンプ率] 大小の差



- ・文字／写真のジャンプ率を様々に変えて試してみよう！
- ・ジャンプ率が高いほど、動きや活気が出ます！

03 [フォント] 全体イメージ



- ・ゴシック体：カジュアルに。
- ・明朝体：しなやか・上品に。
- ・癖が強いフォントは見出し以外では使わない！

広報力は絶対に上がる！

学ぶ①

これまでの「広報通信」を読んでみる

- ・ 2/19発行「WHAT IS 広報？」
- ・ 3/25「現状分析をしてみよう」

学ぶ③

事務局に頼ってみる

希望に応じて出前講座も可能です。一緒に広報物作成やアンケートの分析をしてみませんか？

✉ hirasawa.tk@fc.univcoop.or.jp
(担当：平澤)

学ぶ②

インターネットでプロの技を探してみる

「旅行 ポスター」「ポスターデザイン」などで検索してみると、いろいろ出てきますよ！

まとめ！

広報力・デザインはセンスではない！

これまでの広報通信の基礎的な知識をもとに、今後の自発的な学びによって、広報力はいくらかでも上達する！



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けて世界が取り組む「持続可能な開発目標」です



4 質の高い教育をみんなに



8 働きがいも経済成長も



17 パートナーシップで目標を達成しよう

関西北陸ブロック
学生事務局
[四方遼祐]

事例集電子版

この事例集に掲載している取り組みは、みなさんに執筆していただいた事例集の一部です。



活動事例集の電子版を
「[大学生協関西北陸ブロック](#)」ホームページ
にアップいたします。(※12月下旬を予定)
各生協から寄せられた多くの取り組みを
ご覧いただき、学びあいにご活用ください♪



←こちらからアクセスしてください♪

URL : <http://ksnet.u-coop.net/>

編集後記

最後まで「関西北陸ブロック活動事例集」をお読みいただきありがとうございました。

皆様からのご協力をいただき、この事例集を無事に発行することができました。この事例集に関わったすべての方に深く感謝いたします。

関西北陸ブロックでは、2019年もたくさんの取り組みが行われました。これは組織委員や職員みんなが、組合員のよりよい生活を実現するために、日々考え議論しながら、挑戦し続けてきたひとつの成果だと思えます。

これからもみんなの力で関西北陸ブロックを盛り上げていきましょう！

全国大学生協連 関西北陸ブロック
学生事務局 一同



高めあい

つながる想いを大切に

つながる元気、ときめきキャンパス。



● 関西北陸ブロック活動事例集2019（冊子版）

2019年12月発行

発行元：全国大学生生活協同組合連合会 関西北陸ブロック
（大阪市淀川区西宮原2-7-15 大学生協大阪会館5階）

編集者：全国大学生協連 関西北陸ブロック 学生事務局